

元総社蒼海遺跡群  
元総社小見Ⅱ遺跡

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2002

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

## 序

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背に、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。

前橋市域は古代より豊かな文化があふれる地であり、東日本でも際だった内容を示しています。今から約2万8千年前の旧石器を始めとして、10基を数える国指定の古墳、関東の華とうたわれた前橋城に関するもの等多くの文化財が残されています。

自然環境に恵まれたこの地では、古代から人々の生活の跡が市内ほぼ全域にわたり残されています。古代の人々が暮らした家の跡や使用した石器や土器などの道具、水田跡なども多く、周辺の埋蔵文化財発掘調査によって多くの新しい知見が集積されています。

平成15年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
団長 阿部明雄

## 例　　言

1. 本書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 遺跡は、群馬県前橋市元総社町地内に所在する。
3. 調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団が主体となり、前橋市教育委員会の指導のもと、山武考古学研究所が担当した。調査期間・面積・担当者は次の通りである。

調査面積 1,917m<sup>2</sup>

発掘・整理期間 平成14年8月20日～平成15年3月7日

発掘・整理担当者 土生朗治・松川由之（山武考古学研究所）

4. 本書の執筆分担は次の通りである。

第Ⅰ章 齋木一敏（前橋市埋蔵文化財発掘調査団） 第Ⅱ章 松川由之（山武考古学研究所）

第Ⅲ～Ⅶ章 土生朗治（同研究所）

5. 調査にかかる遺物・図面・写真等の資料は、一括して前橋市教育委員会が保管している。

6. 発掘調査参加者は次の通りである。

青木千賀子 天野晴治 鮎沼泰子 石田利子 石原一茂 磯田二郎 磯田政男 宇津木明子 梅山 淳  
大野京子 岡田光史 岡田うめ 小野沢昌子 金井道治 金井百合子 上和田慶治 栗原幸男  
黒澤文男 小出拓磨 小林ちか子 小林 勝 近藤四郎 齊藤みつ子 酒井正通 桜井れい 桜井敬一  
佐藤京子 佐藤之利夫 下田正衛 須田安雄 須田宗孝 須藤ユクエ 関谷智己 田村小百合  
竹生正明 戸部孝一 富田信夫 中澤愛次郎 中島辰男 萩原真理子 服部 明 松田 実  
馬淵恵美子 黒 準一 宮下哲之 森田淑弘 吉田三枝子 吉田善紀 六本木恭子 織貫瑛一

## 凡　　例

1. 掘図中に記載した北は座標北を示す。

2. 本遺跡の略称は14A107である。

3. 各遺構の略称は次の通りである。

Y…弥生時代の住居跡 H…古墳・奈良・平安時代の住居跡 B…掘立柱建物跡 W…溝跡

I…戸門 D…土坑 A…道路状遺構

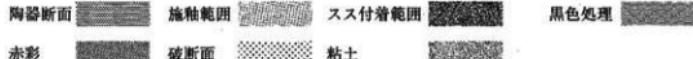
4. 遺構・遺物の実測図の縮尺は次の通りである。

遺構 住居跡・掘立柱建物跡・戸門・土坑墓…1/80 断面図…1/80・1/40 全体図…1/200

遺物 土器・瓦…1/4・1/6 鉄製品・紡錘車…1/2 白玉…1/1

5. 計測値については、( ) は現存値、〔 〕は復元値を表す。

6. 遺物・遺構の掘図中に使用したスクリーントーン表示は以下の通りである。



7. 本報告書では遺跡の性格を鑑み、古墳時代から古代にかけての遺構・遺物に比重をおいている。住居跡については遺構・遺物の検出状況が良好なものをを中心に掲載した。

## 目 次

### 序

#### 例言・凡例

第Ⅰ章 調査に至る経緯 .....	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境 .....	1
第1節 遺跡の立地 .....	1
第2節 歴史的環境 .....	1
第Ⅲ章 調査の方法と経過 .....	6
第1節 発掘調査の経過 .....	6
第1項 調査方針 .....	6
第2項 調査の経過 .....	6
第2節 整理調査の経過 .....	6
第Ⅳ章 基本層序 .....	7
第Ⅴ章 検出された遺構と遺物 .....	8
第1節 壊穴住居跡 .....	8
第2節 据立柱建物跡 .....	16
第3節 壊穴状遺構 .....	16
第4節 溝跡 .....	16
第5節 道路状遺構 .....	17
第6節 井戸跡 .....	17
第7節 土坑 .....	17
第8節 遺構外出土遺物 .....	17
第Ⅵ章まとめ .....	17

## 表目次

Tab. 1 周辺の遺跡一覧表 .....	4	Tab. 5 溝跡一覧表 .....	21
Tab. 2 壊穴住居跡（縄文）一覧表 .....	20	Tab. 6 道路状遺構一覧表 .....	21
Tab. 3 壊穴住居跡（古墳～平安）一覧表 .....	20	Tab. 7 土坑一覧表 .....	22
Tab. 4 壊穴状遺構一覧表 .....	21	Tab. 8 遺物観察表 .....	23

## 挿図目次

Fig. 1 元総社小見II遺跡位置図 .....	2	Fig. 5 時期別の壊穴住居跡の主軸方向 .....	18
Fig. 2 地籍図 .....	2	Fig. 6 時期別の壊穴住居跡配置図 .....	19
Fig. 3 遺跡周辺の地形図 .....	5	Fig. 7 元総社小見II遺跡全体図 .....	29
Fig. 4 基本層序土層図 .....	7	Fig. 8 J-1号住居跡 .....	31

Fig.9 J - 2号住居跡	32	Fig.28 A - 1号道路状遺構、I - 1号井戸、D - 4・6・7・9・23号土坑	51
Fig.10 H - 1~4号住居跡	33	Fig.29 J - 1・2号住居跡、H - 1~3号住居跡出土遺物	52
Fig.11 H - 5・7号住居跡	34	Fig.30 H - 3号住居跡出土遺物	53
Fig.12 H - 6・9・10・12号住居跡	35	Fig.31 H - 3・4号住居跡出土遺物	54
Fig.13 H - 11・13号住居跡	36	Fig.32 H - 3・6・9・11・12号住居跡出土遺物	55
Fig.14 H - 14~17号住居跡	37	Fig.33 H - 11・12・15・16号住居跡出土遺物	56
Fig.15 H - 18・19号住居跡	38	Fig.34 H - 16・18・19号住居跡出土遺物	57
Fig.16 H - 20・21・23・24・26号住居跡	39	Fig.35 H - 19・21・23・24・26~28A号住居跡出土遺物	58
Fig.17 H - 28A・28B・29号住居跡	40	Fig.36 H - 28A・28B・29号住居跡出土遺物	59
Fig.18 H - 30・31・33・35号住居跡	41	Fig.37 H - 31・32号住居跡出土遺物	60
Fig.19 H - 34・36・37・41・42号住居跡	42	Fig.38 H - 31~35・37・39・40・42号住居跡出土遺物	61
Fig.20 H - 40・43・45・56号住居跡	43	Fig.39 H - 42~45・47・48・50・51号住居跡出土遺物	62
Fig.21 H - 44・46・47号住居跡	44	Fig.40 H - 52・55・56・58号住居跡、D - 10・17号土坑、W - 2号溝跡、遺構外出土遺物	63
Fig.22 H - 48~52号住居跡	45		
Fig.23 H - 54・55・57~59号住居跡	46		
Fig.24 B - 1・2号掘立柱建物跡、T - 1号竪穴状遺構	47		
Fig.25 W - 2号溝跡	48		
Fig.26 W - 3・5号溝跡	49		
Fig.27 W - 4号溝跡	50		

## 写真図版目次

PL. 1	PL. 3
完掘全景	H - 7号住居跡全景
J - 1号住居跡全景	H - 7号住居跡出土遺物
J - 1号住居跡炉全体	H - 7号住居跡発掘全景
J - 1号住居跡炉体土器出土状況	H - 9号住居跡全景
J - 2号住居跡全景	H - 10号住居跡全景
PL. 2	H - 11号住居跡全景
J - 2号住居跡炉	H - 12号住居跡全景
H - 1号住居跡全景	H - 13号住居跡全景
H - 2号住居跡全景	PL. 4
H - 3号住居跡全景	H - 13号住居跡炭化材出土状況
H - 4号住居跡全景	H - 14号住居跡全景
H - 4号住居跡発掘全景	H - 15号住居跡全景
H - 5号住居跡全景	H - 16号住居跡全景
H - 6号住居跡全景	H - 16号住居跡出土遺物

H - 17号住居跡全景	H - 51号住居跡遺物出土狀況
H - 18号住居跡遺物出土狀況	H - 52号住居跡全景
H - 18号住居跡全景	H - 55号住居跡遺物出土狀況
PL. 5	H - 56号住居跡遺物出土狀況
H - 19号住居跡全景	H - 57号住居跡全景
H - 20号住居跡全景	H - 58号住居跡全景
H - 21号住居跡全景	B - 1号掘立柱建物跡
H - 23号住居跡遺物全景	PL. 9
H - 23号住居跡遺物部断面	T - 1号竖穴状造構全景
H - 24号住居跡全景	A - 1号道路状造構全景
H - 28 B号住居跡全景	I - 1号井戸全景
H - 28 A号住居跡遺物出土狀況近景	D - 6号土坑
PL. 6	D - 9号土坑
H - 28 A号住居跡遺物出土狀況	D - 24号土坑
H - 29号住居跡全景	W - 1号溝跡全景
H - 30号住居跡全景	W - 2号溝跡硬化面確認狀況
H - 30号住居跡遺物全景	PL.10
H - 31号住居跡遺物全景	W - 3号溝跡全景
H - 32号住居跡全景	W - 4号溝跡全景
H - 34号住居跡全景	W - 4号溝跡硬化面確認狀況
H - 36号住居跡全景	W - 4号溝跡土層断面
PL. 7	北区全景
H - 37号住居跡全景	南区西部全景
H - 38号住居跡全景	南区西部全景
H - 40号住居跡全景	完掘全景
H - 41号住居跡遺物出土狀況	PL.11 出土遺物
H - 42号住居跡遺物出土狀況	PL.12 出土遺物
H - 43号住居跡全景	PL.13 出土遺物
H - 46号住居跡全景	PL.14 出土遺物
H - 48号住居跡全景	PL.15 出土遺物
PL. 8	PL.16 出土遺物
H - 50号住居跡全景	PL.17 出土遺物

## 第Ⅰ章 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施された。

平成14年5月8日付けで、前橋市長 萩原 弥慈治（区画二課）より埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）宛てに提出された。これを受け、市教委では内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団（以下「調査団」という。）に調査実施について通知をしたが、既に市内数カ所において調査団直営による発掘調査が実施されており、加えて本発掘調査を直営で行うことは困難と判断、本件に係る発掘調査は民間調査会社に委託し実施したい旨の回答を得た。これにより、調査依頼者と調査団との間で協議・調整を図り、民間調査会社による発掘調査を進める旨の協定書を締結、これを経てまず平成14年8月19日に調査依頼者である前橋市長 萩原 弥慈治と前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 阿部明雄との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。その後、同年8月20日付けで民間調査会社である山武考古学研究所 所長 平岡和夫と前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 阿部明雄との間で委託契約を締結し、現地調査開始に至る。

遺跡名称は「元総社小見Ⅱ遺跡」、遺跡略称は14A107である。なお、遺跡名称中の「小見」は旧地籍の小字名を採用し、ローマ数字の「Ⅱ」は過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するため付したものである。

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 第1節 遺跡の立地

前橋市は、地質及び地形から東北部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地、東部の広瀬川低地帯、南部の現利根川氾濫原の4地域に分けられる。本遺跡の位置する前橋台地は、浅間山の山体崩壊が原因とされる前橋泥流により形成された洪積台地であり、河川の浸食や湿地化などを経て現在に至っている。台地の東側には広瀬川低地帯が幅3kmの細長い冲積地として広がり、台地の中央には現利根川が北から南へ貫流している。

前橋台地の西には榛名山が聳え、その榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し相馬ヶ原扇状地を形作り、台地を刻んで細長い微高地を作り上げている。

元総社小見Ⅱ遺跡は、染谷川と牛池川に挟まれた北西から南東に延びる微高地上に立地し、群馬県庁から西へ約3km、関越自動車道前橋インターチェンジから北へ約2kmの地点に位置しており、北東に赤城山、北西に榛名山、西に浅間山・妙義山を望むことが出来る。

### 第2節 歴史的環境

本遺跡周辺は上野国府城として想定される地域であり、周辺で行われた発掘調査の成果からは縄文時代からの連続とした生活の痕跡が発見されている。

縄文時代では国分寺中間地遺跡や産業道路東・西遺跡があり、前期・中期の集落遺跡が調査されている。本遺跡から北東へおよそ300mのところに位置する小見遺跡（2001年発掘調査）では、諸磯式・式期・加曾利E4式期の住居跡が1軒ずつ検出されている。近隣の耕作地では土器や石器等が表採されていることから、



Fig. 1 元總社小見遺跡位置図 (1 : 25,000)



Fig. 2 地籍図 (1 : 25,000)

今後の発掘成果に期待したい。

その他には下東西遺跡、清里南部遺跡群、清里・陣場遺跡、中島遺跡、長久保遺跡、熊野谷遺跡、北原遺跡、大屋敷遺跡Ⅰ～V、元総社稻場遺跡等も挙げられ、時期としては前期から後期に及んでいる。

弥生時代の遺跡としては、本遺跡からおよそ3km南に日高遺跡がある。10～15cmの厚さに堆積した浅間C軽石層に覆われた後期の水田・集落・方形周溝墓・壇棺墓等が検出されており、水田に残された多数の足跡など当時の稲作の姿を留めている。また、これらの水田を残した人々の集落が近接する旧河川の微高地上で検出されており、住居跡は14件を数え、良好な資料を提供している。

その他には、中期後半の環濠集落である清里・庚申塚遺跡と後期の住居が検出された国分寺中間地域、桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等が散見される程度である。

古墳時代においては本遺跡のある地域は「車」呼ばれ、上毛地域における中心地域であった。本遺跡の西南西約3kmには5世紀後半の三ツ寺1号墳があり、1辺90m四方の規模をもつ豪族の居館跡として知られている。またそこから北西へ1km行ったところには同時期の保渡田古墳群があり、八幡塚古墳（全長102m）・愛宕塚古墳（同92.4m）・薬師塚古墳（同68.4m）の前方後円墳3基が「コ」の字に並び、豪族との関連性が推定されている。

それに続くものとして北約2kmの總社古墳群が挙げられる。この古墳群は横穴式石室が受容され始めたころから形成されたと考えられる。6世紀前半の川原石を用いた積石塚である王山古墳、それと相前後する達見山遺跡、国指定史跡で前方部と後方部に石室を有する總社二子山古墳、巨石使用の横穴式石室をもつ愛宕山古墳、また県内最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた宝塔山古墳と蛇穴山古墳等、何れもこの地域に強大な権力の存在したことを示す古墳が多数所在する。

本遺跡の北北東1kmには山王魔寺（放光寺）がある。出土した瓦等から7世紀の第4四半世紀ころの創建と見られ、官寺ではなく「上毛野君氏」による私寺であった可能性が高く、この地が「車評（くるまのこおり）」の中心地であったことを示している。

本遺跡の南東わずか数百メートルの、牛池川・染谷川に挟まれた現元総社町に国府城が想定されている。元総社小学校校庭遺跡では県下最大級の大型掘立柱建物跡1棟が見つかっており、開泉橋遺跡・元総社明神遺跡・寺田遺跡で大規模な堀跡が相次いで発見され、国府の外郭の推定が可能になった。寺田遺跡からは33点の墨書き土器が出土し、「國厨」・「國」・「□曹司」等の表記が見られ、国府を示す証左となっている。

国府は木簡の表記などから藤原京存続時に創建されたものと考えられる。和銅6年（713）「上毛野国」から「上野国」と改称され、弘仁2年（811）には国のランクが「上国」から「大国」に改められて親王任国に昇格している。この地域の重要性がより認識されるのではないだろうか。国府の外郭をなす堀は10世紀代には半ば埋まった状況にあり、管理が放棄されていた可能性がある。国府推定域は住宅も多く発掘調査もなかなか進まない状況であるが、今後の成果により明確にされるであろう。周辺遺跡には他に、開泉橋南遺跡、小見遺跡、草作遺跡、大友屋敷遺跡、天神遺跡、染谷川遺跡、弥勒山遺跡がある。

国分僧寺と尼寺は本遺跡の北にあり、2寺の間を関越自動車道が縦貫している。本遺跡はちょうど国分寺と国府城とに挟まれたところに位置している。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら発掘調査が進められるようになった。国分僧寺の発掘調査は昭和55年から始まり、礎石、墓地、堀等が確認されている。その結果国分僧寺の最重要伽藍と位置づけられた七重塔の造営時期は8世紀中葉と考えられ、文献資料とも整合している。一方廃絶の時期は調査結果から12・13世紀代と考えられている。尼寺は県教委による簡単な範囲調査が行われ

たが、まだ本格的な調査は行われていない。

周辺の遺跡としては、中尾遺跡、鳥羽遺跡、国分寺中間地域遺跡等があり、これらの遺跡からは奈良・平安時代の住居跡が多数検出されている。また、多くの遺跡から、縄張り自体も国府の地割を利用したものであることが確実視されており、また、現在の街路の組合は、蒼海城の堀割り跡が道路に変化したものである。

中世には1429年長尾氏により蒼海城が築かれる。蒼海城の縄張り自体も国府の地割を利用したものであることが確実視されており、また、現在の街路の組合は、蒼海城の堀割り跡が道路に変化したものである。

Tab.1 周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中・近世
1	元経社小見Ⅱ遺跡（当該遺跡）	住居跡		住居跡	住居跡、掘立柱建物跡	溝跡
2	元経社小見Ⅲ遺跡	住居跡		住居跡	住居跡、土坑墓	溝跡
3	元経社草作Ⅳ遺跡			住居跡	住居跡	溝跡
4	元経社小見内Ⅳ遺跡			住居跡	住居跡、道路状遺構	土坑墓等
5	元経社小見Ⅴ遺跡	住居跡		住居跡	住居跡	溝跡
6	上野国分寺跡				金堂基壇、塔基壇	
7	上野国分尼寺跡					南西隅・南東隅基壇
8	山王魔寺遺跡			塔心礎、楓巻石		
9	宝塔山古墳			方墳（7C末）		
10	蛇穴山古墳			方墳（8C初）		
11	鶴荷山古墳			円墳		
12	王山古墳			前方後円墳（6C中）		
13	経社甲鶴荷塚大道西遺跡A区					
14	経社開泉明神北II遺跡					
15	経社甲鶴荷塚大道西遺跡B区					
16	元経社小学校校庭遺跡				掘立柱建物跡、柱穴群、隅漆跡	
17	元経社明神跡 I～Ⅲ			住居跡、水田跡、掘跡	住居跡、溝跡	住居跡、溝跡
18	開泉橋遺跡				溝跡	
19	草作遺跡			住居跡	住居跡	井戸跡
20	寺田遺跡				溝跡	
21	開泉橋南遺跡			住居跡	溝跡	
22	上野国分寺跡・尼寺中間遺跡	住居跡	住居跡	住居跡		掘立柱建物跡等
23	坂田村東遺跡				住居跡	
24	鳥羽遺跡			住居跡、鍛冶場跡	住居跡、掘立柱建物跡	
25	大友屋敷 II・III遺跡			住居跡	住居跡、溝跡、地下式土坑	
26	天神遺跡・II遺跡				住居跡	
27	屋敷遺跡・II遺跡			住居跡	住居跡	掘跡等
28	堰跡遺跡				住居跡、溝跡	
29	堰跡 II遺跡				住居跡	
30	弥勒遺跡・II遺跡			住居跡	住居跡	
31	元経社寺田遺跡			水田跡、溝跡	住居跡、溝跡	
32	上野国分寺参道遺跡			住居跡	住居跡	
33	大友宅地派遺跡				水田跡	
34	経社開泉明神北遺跡			島跡、水田跡、溝跡		溝跡
35	元経社宅地遺跡 1～23トレンチ			住居跡	住居跡、掘立柱建物跡、鍛冶場跡、溝跡、道路状遺構	溝跡、住居跡
36	国分塙遺跡・II・Ⅲ遺跡			住居跡	住居跡、島跡（II・III遺跡）	土坑墓（II・III）
37	村東遺跡			住居跡、溝跡	住居跡	掘跡
38	大屋敷遺跡 I～V	住居跡		住居跡	住居跡	掘立柱建物跡等
39	昌楽寺通向遺跡・II遺跡				住居跡	
40	蘿葉道路東遺跡	住居跡				
41	蘿葉道路西遺跡	住居跡				
42	後定間遺跡 I～Ⅲ			住居跡	住居跡	

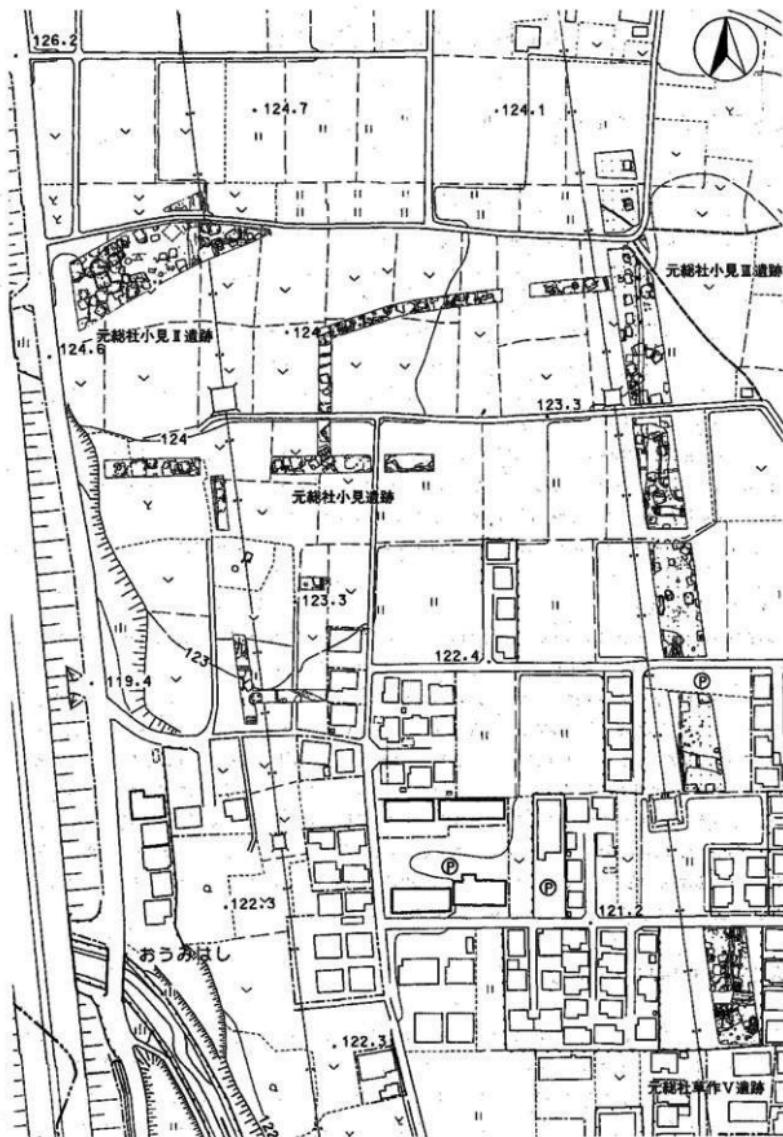


Fig. 3 遺跡周辺の地形図 (1 : 2,500)

## 第Ⅲ章 調査の方法と経過

### 第1節 発掘調査の経過

#### 第1項 調査方針

調査を実施した箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地地区画整理事業地内における道路部分の調査で、南北幅約27m、東西方向の長さ約80mの東西方向に長い調査区となっている。

グリッドの設定は公共座標に基づいて行った。グリッドの起点(X 0、Y 0)における公共座標は以下の通りである。なお、この起点は元総社蒼海遺跡群全体で共通するグリッドである。

世界測地系 第Ⅳ系 X = +44354.898m Y = -72491.747m

(旧日本測地系 第Ⅳ系 X = +44000.000m Y = -72200.000m)

グリッドは公共座標に基づいて4×4mの単位で設定し、南北方向をY軸として北から南へY 1、Y 2、Y 3…、東西方向をX軸として西から東へX 1、X 2、X 3…と付番した。

調査は表土掘削、遺構確認、測量基準杭打設、遺構掘り下げ、遺構精査、写真撮影、測量の手順で行った。

遺構の記録は1/20縮尺を基本として平面・断面図を作成し、遺構・遺物の形状等や性格に応じて、1/10、1/40縮尺を使用した。遺跡全測図は個別遺構図をもとに作成した。

写真撮影は調査の各段階に応じて隨時行い、白黒35mm判、カラーリバーサル35mm判を使用した。

#### 第2項 調査の経過

調査は平成14年8月20日から平成14年12月15日まで行った。8月下旬に現地にて調査区の確認を行い、発掘事務所用ボックスハウス、トイレ等を設置し、発掘器材の搬入を行った。

調査は調査区の西側から東側に向かって進めることとした。西端から表土除去を開始し、統いて遺構確認作業を行った。西側のやや高い地区からは古代の住居跡が多数検出され、縄文時代・古墳時代・奈良・平安時代に至る遺構が高い密度で重複していることが明らかになった。東側調査区の遺構密度はやや少なく南北方向に走る溝跡等が古代の住居跡と重複して検出された。調査は西側から開始し東側に向かって進行した。西側では奈良・平安時代の住居跡の間に古墳時代の竪穴住居跡や縄文時代の竪穴住居跡・風倒木が重複していた。遺構の掘り込みも深かったが、調査によって順次各時代の遺構の姿が明らかになっていった。西側の溝跡からは道路状に硬化した路面の跡が確認され、中世の竪穴遺構に切られ、ほぼ南北方向に延びていた。平成14年12月中旬に調査を終了し、その後調査区の埋め戻しを行った。

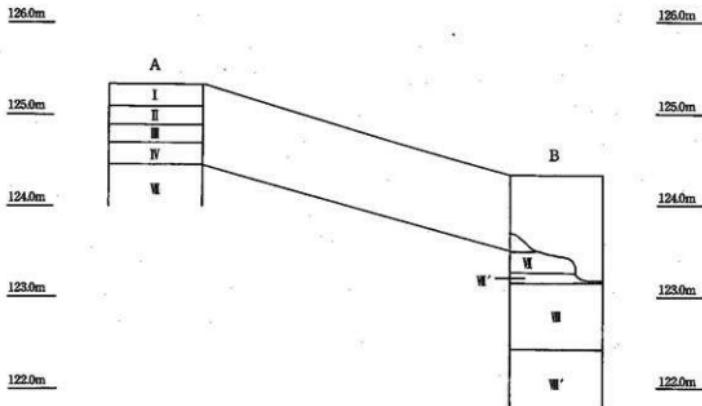
### 第2節 整理調査の経過

本遺跡の整理作業は、平成14年10月1日から平成15年2月28日まで行った。出土した遺物は全量水洗作業を行い、各遺構ごとに仕分けした。その後、コンピュータ制御によるインクジェットプリンターを使用し、注記を行った。なお、注記不可能な細片についてはビニール袋に入れ、必要事項を記入して整理した。遺物の接合・復元は可能な限り行い、接合にはセメダインCを、復元には必要に応じてエポキシ系樹脂(バイサム)を用いて修復を行った。現地で作製した実測図は各遺構ごとに整理し、図面保管封筒に保管した。

検出された遺構・遺物の数量に基づき、報告書作成用の割り付けを決定した。遺構図面は図面修正を加えた後にトレース・版組を行った。遺物実測は手実測を基本として行い、トレース・版組を行った。上記作業に並行して原稿執筆を行った。遺物写真撮影には、プローニー判モノクロームフィルムを使用した。

## 第Ⅳ章 基本層序

本遺跡は相馬ヶ原扇状地の東縁にあり、地形は全体に北西から南東方向に向かって次第に低くなる。遺跡は染谷川と牛池川に挟まれた微高地上的標高125~126mに立地し、調査地区の最も西側と東側との確認面での比高差は約1.2mで東下がりの地形となっている。調査区の土層堆積は、表土の耕作土層（I層）直下に浅間B輕石を含む砂粒を多く含んだ黒褐色土層（II層）、浅間C輕石を含んだ黑色土層（III層）、小砂利を含んだ黒褐色土層（IV層）、褐色の砂質ローム層（Ⅴ層）、薄い粘土状に何層にも重なる砂層（Ⅵ層）の順で堆積している。遺構は調査地区的西側のX26、Y127グリッド付近では黒色土層のⅢ層を掘り込んで構築され、遺構の確認面はⅢ層上面である。調査地区的東側のX34、Y129グリッド付近では褐色の砂質土層上面が遺構の確認面である。



基本層序	
I	黒褐色土 砂粒、軽石を含んだ耕作土層。しまりあり。
II	黒褐色土 砂粒、軽石（0.2~1.0mm程度）を含む。やや 硬らかい。
III	黒褐色土 角丸の1.5mm程度の小砂利、砂粒を含んだ黒褐色 土。
IV	褐色土 砂粒を含んだ砂質土。
V	褐色土 やわらか~固め砂質土。
VI	にぶい褐色土 塊状の砂質土で5mm程度の青い粘土状地盤で 固くしまり者。
VII	褐色色砂質土 褐色色砂質土の純層で固くしまりあり。

Fig. 4 基本層序土層図

## 第V章 検出された遺構と遺物

検出された遺構は縄文時代中期後半・古墳時代前期・後期、奈良・平安時代、中世の時期にかけてのものである。遺構数は掘立柱建物跡2棟、竪穴住居跡63軒、竪穴状遺構1基、道路状遺構3条、溝跡5条、土坑25基である。遺構の分布状況は西側のやや地形の高い場所で縄文時代中期の竪穴住居跡や古墳時代前期の竪穴住居跡が検出されており、古墳時代後期や平安時代の竪穴住居跡は調査地区内全体から検出されている。掘立柱建物跡は調査地区の中央部から検出されている。調査地区的東側では、南北方向に延びる溝跡が2条、南北方向から東西方向に屈曲して延びる溝が1条検出された。このうち東側の南北溝は、底辺の広い逆台形の溝で、底面の両側に側溝状の小溝を持ち中央部は全体に硬化し、底面から数面の硬化面が確認されている。

### 第1節 竪穴住居跡

#### 縄文時代

##### J-1号住居跡 (Fig. 8, PL. 1)

位置 X20~24、Y130~132グリッド 形状等 東西6.50m × 南北7.55m 深さ0.52m 円形。床面 地山を床としている。ほぼ平坦で全体に硬化している。ピット 4基検出されている。西側と東側の床が風倒木により壊されており一部が確認されていない。炉 住居中央部北寄りで確認されている。径約1.6m、深さ約8cmの梢円形の掘り込みで、中央部に底部と口縁部の打ち欠かれた炉体土器が埋設されている。重複 O-1・2号風倒木痕、H-1号住居跡より古い。出土遺物 深鉢4点、打製石斧1点を図示した。時期 出土遺物から縄文時代中期後半と考えられる。

##### J-2号住居跡 (Fig. 9, PL. 1)

位置 X22~24、Y128~130 形状等 東西5.29m × 南北4.94m 深さ0.60m 円形。床面 褐色土のほぼ平坦な床。ピット 1基に5基検出されている。炉 住居中央部北寄りで確認されている。長辺約1.6m、短辺1.08m 深さ約10cmのやや長方形の掘り込みで、中央部に底部と口縁部の打ち欠かれた炉体土器が2個体重複して埋設されている。底面から北東方向に向かって被熱による焼土化が認められる。出土遺物 深鉢4点、打製石斧1点を図示した。時期 出土遺物から縄文時代中期後半と考えられる。

#### 古墳～奈良・平安時代

##### H-1号住居跡 (Fig. 10, PL. 2)

位置 X18、Y130グリッド 形状等 深さ0.43m 北側が調査区外となるため全容は不明。床面 接出部分ではほぼ硬化している。黒褐色粘質土を貼って床をしている。重複 H-7号住居跡より新しい。

出土遺物 土師器壺1点を図示した。時期 出土遺物から7世紀末頃と考えられる。

##### H-2号住居跡 (Fig. 10, PL. 2)

位置 X20、Y131・132グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 東西1.93m × 南北2.18m 深さ0.20m 主軸方向が短軸となる長方形。床面 やや凹凸があるが全体に陥っている。特に蓋を中心とした南寄りで硬化が著しい。竪 東壁北寄りに付設される。重複 O-1号風倒木痕より新しい。出土遺物 土師器壺1点を図示した。時期 出土遺物から9世紀後半と考えられる。

#### H-3号住居跡 (Fig.10, PL.2)

位置 X20・21, Y134・135グリッド 主軸方向 N-79°-E 形状等 東西2.91m×南北3.94m。深さ0.30m。主軸方向が短軸となる長方形。床面 北東角付近を除いて全体に硬化が認められる。ほぼ平坦である。竈 東壁南寄りに付設される。重複 H-5号住居跡より新しい。出土遺物 土師器壺、須恵器壺1点、須恵器蓋1点、土師器壺1点、字瓦1点、女瓦3点、男瓦1点を図示した。時期 出土遺物から9世紀前半と考えられる。

#### H-4号住居跡 (Fig.10, PL.2)

位置 X20・21, Y133・134グリッド 主軸方向 北辺での計測でN-86°-E 形状等 東西3.16m×南北3.57m 深さ0.35m。主軸方向が短軸となる長方形。床面 ほぼ平坦で締まりがない。ピット 四隅に4基検出されているが、主柱穴にならない深さである。竈 東壁中央部に付設している。重複 H-14号住居跡より新しい。出土遺物 須恵器壺4点、須恵器壺1点、須恵器双耳壺1点、鉄製品(刀子)2点を図示した。時期 出土遺物から8世紀後半と考えられる。

#### H-5号住居跡 (Fig.11, PL.2)

位置 X20~22, Y133・134グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 東西4.56m×南北4.01m 深さ0.39m。床面 平坦で全体に硬化している。ピット 北西角と東壁南寄りに検出されている。重複 H-3・18号住居跡より古い。出土遺物 古墳時代前期の土師器壺の小片が出土している。時期 出土遺物から4世紀頃と考えられる。

#### H-6号住居跡 (Fig.12, PL.2)

位置 X20, Y136グリッド 形状等 東西不明×南北不明 深さ0.46m 南側は調査区外となるため全容は不明である。重複 H-12号住居跡より新しい。出土遺物 灰釉陶器碗1点を図示した。羽釜破片も出土している。時期 出土遺物から10世紀代と考えられる。

#### H-7号住居跡 (Fig.11, PL.3)

位置 X18・19, Y130~132グリッド 主軸方向 N-69°-E 形状等 東西不明×南北6.57m 深さ0.52m 西側が調査区外となるため全容は不明。床面 全体に遺存状態が悪く、貯蔵穴の周囲にのみ硬化面が残存していた。重複 H-17号住居跡より新しく、H-1・7・11号住居跡より古い。竈 東壁に付設される。焚き口には構築材として砂岩製の切石が遺存していた。火床部は被熱により焼土化しており、煙道部は長く壁外に延びている。貯蔵穴 南東角に掘り込みがある。出土遺物 土師器壺1点、土師器壺3点を図示した。時期 出土遺物から6世紀後半と考えられる。

#### H-8号住居跡 (Fig.11)

位置 X18・19, Y130~132グリッド 主軸方向 南辺での計測でN-85°-E 形状等 主軸方向が長軸となる長方形。床面 H-7号住居跡の埋土の黒褐色土中に床面を持っており、硬化面がわずかに認められた。重複 H-7号住居跡より新しい。出土遺物 須恵器壺1点を図示した。時期 出土遺物から9~10世紀代と考えられる。

#### H-9号住居跡 (Fig.12, PL.3)

位置 X20・21, Y129・130グリッド 主軸方向 N-93°-E 形状等 東西3.45m×南北不明 深さ0.24m 主軸方向が短くなる長方形とみられる。床面 ほぼ平坦で南壁近くの床面の長さ約1.1m、幅約0.65mの範囲が焼土化している。ピット 南壁際に2基検出されている。竈 東壁南寄りの位置から検出されている。出土遺物 須恵器壺1点、須恵器壺2点、灰釉陶器碗1点を図示した。38の碗には則天文字の墨書き

が施されている。 時期 出土遺物から9世紀後半と考えられる。

#### H-10号住居跡 (Fig.12, PL. 3)

位置 X21・22、Y130・131グリッド 主軸方向 N-135°-E 形状等 東西4.82m×南北4.02m 深さ0.12m。主軸方向が短くなる長方形である。床面 住居跡の中心部が硬化している。南西角寄りに貯蔵穴が開く。炉 北東壁寄りのやや北寄りに付設される。重複 H-24号住居跡より古い。出土遺物 古墳時代前期の土器片が出土している。時期 出土遺物から4世紀代と考えられる。

#### H-11号住居跡 (Fig.13, PL. 3)

位置 X18・19、Y131・132グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 東西不明×南北3.66m 深さ0.44m。西側が調査区外に延びており全容は不明である。床面 北側は重複するH-7号住居跡の埋土中に構築している。際だった硬化はみられなかったが全体にしまっている。竈 東壁に付設される。重複 H-7号住居跡より新しい。出土遺物 須恵器壺1点、鉄製品(紡錘車輪部)1点を図示した。時期 出土遺物から9世紀前半代と考えられる。

#### H-12号住居跡 (Fig.12, PL. 3)

位置 X19・20、Y136・137グリッド 形状等 不明 深さ0.43m 床面 硬化面が遺存せず不明瞭な床である。重複 H-6号住居跡より古い。出土遺物 須恵器壺1点、字瓦1点を図示した。時期 出土遺物から9世紀後半以降と考えられる。

#### H-13号住居跡 (Fig.13, PL. 3)

位置 X20~22、Y131~133グリッド 主軸方向 N-71°-E 形状等 東西5.28m×南北5.27m 深さ0.57m。ほぼ方形である。床面 ほぼ全体が硬化する。南壁中央部から間仕切り溝が延びている。炉 中央部北西寄りの位置に有り、ほとんど焼土化が見られなかった。ピット 4基検出されている 貯蔵穴 南西角から少し離れた位置に掘り込み(P6)がある。埋土 最上層から標名H-r-F Aの堆積層が確認されている。重複 H-18号住居跡より古い。出土遺物 古墳時代前期の土器片が出土している。時期 出土遺物から4世紀代と考えられる。

#### H-14号住居跡 (Fig.14, PL. 4)

位置 X19、Y134・135グリッド 主軸方向 N-66°-E 形状等 東西3.10m×南北3.91m 深さ0.14m。南北方向に長い長方形。床面 ほぼ平坦である。重複 H-4号住居跡より古い。出土遺物 S字型 細片が出土している。時期 出土遺物から4世紀代と考えられる。

#### H-15号住居跡 (Fig.14, PL. 4)

位置 X19・20、Y131・132グリッド 形状等 不明 深さ0.11m。床面 全体に硬化が認められた。ピット 3基検出されている。出土遺物 須恵器長頸瓶1点を図示した。時期 出土遺物から9世紀代と考えられる。

#### H-16号住居跡 (Fig.14, PL. 4)

位置 X19・20、Y136・137グリッド 主軸方向 N-70°-E 形状等 不明 深さ0.16m。南北方向に長い長方形。床面 ほぼ平坦で南西部を除いて全体に硬化している。重複 H-12号住居跡より古い。

出土遺物 土器台付壺2点、小型台付壺2点、壺1点、壺2点、器台1点を図示した。時期 出土遺物から4世紀代と考えられる。

#### H-18号住居跡 (Fig.15, PL. 4)

位置 X21~23、Y133・134グリッド 主軸方向 N-73°-E 形状等 東西5.53m×南北3.78m 深さ0.40

m 主軸方向が長い長方形である。床面 ほぼ平坦で全体に硬化している。竈 東壁の南よりの位置に付設される。燃焼部内壁は被熱による焼土化が顕著である。重複 H-13・21号住居跡より新しい。

出土遺物 土師器壺7点、須恵器蓋5点、須恵器小型壺1点、須恵器甕1点、不明鉄製品1点を図示した。ほとんどの遺物が壁際の床上からの出土である。時期 出土遺物から8世紀代と考えられる。

#### H-19号住居跡 (Fig.15, PL.5)

位置 X20・21、Y135・136グリッド 主軸方向 N-37°-E 形状等 東西3.64m×南北3.56m、深さ0.57mの方形。床面 ほぼ平坦で4本の主柱穴の内側からP5と貯蔵穴の周間に硬化が認められた。周溝が竈を除き全周する。ピット 4基検出され、主柱穴と考えられる。竈 北東壁寄りの位置に有り、壁を掘り込みますにぶい褐色粘土を大量に使用して構築されている。重複 H-3号住居跡より古い。出土遺物 土師器壺2点、甕2点、瓶1点を図示した。時期 出土遺物から5世紀後半と考えられる。

#### H-20号住居跡 (Fig.16, PL.5)

位置 X23・24、Y134・135グリッド 主軸方向 N-64°-E 形状等 東西2.95m×不明、深さ0.30mの南北方向に長い長方形である。床面 ほぼ平坦である。ピット 3基検出されている 重複 H-21号住居跡より新しい。出土遺物 古墳時代前期の土師器壺破片が出土している。時期 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

#### H-21号住居跡 (Fig.16, PL.5)

位置 X22・23、Y133・134グリッド 主軸方向 N-62°-E 形状等 東西3.71m×不明、深さ0.14m。床面 ほぼ平坦で中央部が硬化している。炉 東壁寄りの位置に有り、焼土化していた。重複 H-18・21号住居跡より古い。出土遺物 古墳時代前期の土師器細片が出土している。墨書きのある須恵器壺1点を図示したが、埋土中へ攪乱等で混入したものである。時期 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

#### H-23号住居跡 (Fig.16, PL.5)

位置 X23、Y131・132グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 東西3.21m×南北2.64m、深さ0.34m、主軸方向の短い長方形。竈 東壁やや南寄りに付設される。燃焼部奥には瓦を橋脚状に組み合わせて竈を補強している。煙道は橋脚部のさらに奥で立ち上がっている。出土遺物 女瓦1点、鉄製品(鏃子)1点を図示した。時期 出土遺物から9世紀代と考えられる。

#### H-24号住居跡 (Fig.16, PL.5)

位置 X22・23、Y129~131グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 東西3.67m×南北3.56m 深さ0.34m、方形。床面 竈手前からP1にかけて硬化している。竈 北東壁やや東寄りに付設されている。燃焼部から煙道部にかけて緩やかに立ち上がり煙道は壁外に掘り込んでいる。燃焼部の中心部には石を設置して支脚としている。重複 H-10・37号住居跡より新しい。出土遺物 土師器壺3点を図示した。

時期 出土遺物から6世紀前半と考えられる。

#### H-26号住居跡 (Fig.16)

位置 X24・25、Y132・133グリッド 主軸方向 N-104°-E 形状等 南西3.06m×不明 深さ0.28m、方形。床面 ほぼ平坦な床で全体に柔らかい。竈 東壁に付設されている。H-34号住居跡に壊されて全容は不明。重複 H-40号住居跡より新しく、H-32・34号住居跡より古い。出土遺物 平安時代の土師器・須恵器片が出土している。土師器合付甕1点を図示しているが、H-40号住居跡から埋没過程で流れ込んだ遺物と考えられる。時期 出土遺物から9世紀代と考えられる。

#### H-28A号住居跡 (Fig.17, PL. 5)

位置 X24、Y134グリッド 主軸方向 N-80°-E 形状等 東西2.85m×南北4.29m 深さ0.37m、主軸方向の短い長方形。床面 北西部を除いてほぼ全体が硬化する。竈 東壁南寄りに付設されている。

貯蔵穴 南東角付近に掘り込まれている。重複 H-28B号住居跡より古い。出土遺物 須恵器壺2点、須恵器碗3点、三足盤、女瓦を図示した。時期 出土遺物から9世紀後半と考えられる。

#### H-28B号住居跡 (Fig.17, PL. 5)

位置 X24・Y132・133グリッド 主軸方向 北辺での計測でN-86°-E 形状等 東西4.18m×南北6.18m 深さ0.30m、主軸方向の短い長方形。床面 北西部を除いてほぼ全体が硬化する。竈 東壁南寄りに付設されている。重複 H-28A号住居跡より新しい。出土遺物 須恵器壺2点、須恵器碗1点、ミニチュア壺1点、綠釉陶器手付小瓶1点、鉄製品の刀子1点、鑄造鉄片1点、釘2点を図示した。96の刀子は99の釘を巻くように折り曲げられて出土している。時期 出土遺物から10世紀前半代と考えられる。

#### H-29号住居跡 (Fig.17, PL. 6)

位置 X24・25、Y132グリッド 主軸方向 N-104°-E 形状等 東西2.37m×南北3.21m、深さ0.41m、主軸方向の短い長方形で、東壁北部と南壁東部を壁外に拡張している。床面 ほぼ平坦である。中央部が硬化する。壁周溝は西・北壁と東壁北寄りの一部で検出されている。ピット 3基検出され、主柱穴と考えられず、P1は竈脇の壺埋設孔と考えられる。竈 東壁南角に付設される。粘性のある黒褐色土で構築されている。燃焼部には支脚石が並んで2つ、燃焼室と煙道の間には女瓦を支柱にして砂岩の切石を機脚状に渡した補強材の懸架が見られる。出土遺物 須恵器壺1点、須恵器高台付皿1点、小皿1点、碗1点、須恵器羽釜1点、灰釉陶器碗1点、青磁皿1点を図示した。時期 出土遺物から10世紀後半と考えられる。

#### H-30号住居跡 (Fig.18, PL. 6)

位置 X24、Y129グリッド 主軸方向 N-83°-E 形状等 東西不明×南北3.68m、深さ0.37m、H-35号住居跡と重複するため全容は不明。床面 全体にややしまっている。黒褐色土を薄く貼る。ほぼ平坦である。竈 東壁を掘り込んで構築されている。燃焼室は被熱により焼土化している。重複 H-35号住居跡より古い。出土遺物 土師器壺2点、土師器長胴壺1点、女瓦1点を図示した。このうち、叩き文字のある女瓦はH-35号住居跡からの攪乱等による混入遺物と思われる。時期 出土遺物から7世紀頃と考えられる。

#### H-31号住居跡 (Fig.18, PL. 6)

位置 X23・24、Y128・129グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 深さ0.39mの主軸方向が短い長方形。床面 北壁際を除いて全体に硬化が認められる。ほぼ平坦である。竈 東壁南寄りに付設される。袖部には石を立てて内壁の補強材としている。煙道には女瓦を横方向に置いて煙道天井部としている。重複 H-33号住居跡、D-6・7号土坑より古い。出土遺物 土師器小型鉢1点、須恵器碗1点、灰釉陶器碗1点、灰釉陶器長頸瓶1点、女瓦1点、鉄製品(筋縫車)1点、釘2点を図示した。時期 出土遺物から9世紀後半代と考えられる。

#### H-33号住居跡 (Fig.18)

位置 X21、Y128・129グリッド 主軸方向 N-94°-E 形状等 東西2.25m×南北3.12m、深さ0.50m。主軸方向に短い長方形である。床面 西壁際にやや軟質部があるが全体に硬化している。竈 東壁や南寄りに検出されている。重複 H-31号住居跡より新しい。出土遺物 須恵器碗3点を図示した。

時期 出土遺物から10世紀前半と考えられる。

#### H-34号住居跡 (Fig.19, PL. 6)

位置 X25・26, Y132・133グリッド 主軸方向 N-70°-E 形状等 東西2.64m×南北3.00m 深さ0.74m。ほぼ方形。床面 明瞭な硬化面がなく砂質の褐色土を床としているようで床面として認識できなかった。竈 東壁に掘り込みが確認されたが遺存状態は悪い。重複 H-26・32・40号住居跡より新しい。

出土遺物 鉗1点を図示した。時期 切り合い関係から10世紀頃の住居跡と考えられる。

#### H-35号住居跡 (Fig.18)

位置 X24・25, Y127・128グリッド 主軸方向 北西壁での計測でN-53°-E 形状等 東西3.21m×南北4.02m、深さ0.40m。主軸方向に短い長方形である。床面 黒褐色土を床とする。ほぼ平坦だが床の硬化は弱い。重複 H-30号住居跡より新しい。出土遺物 緑釉陶器垂壺1点、鉄鎌1点を図示した。時期 出土遺物から9世紀頃と考えられる。

#### H-36号住居跡 (Fig.19, PL. 6)

位置 X26・27, Y127グリッド 主軸方向 N-67°-E 形状等 東西1.57m×南北不明 深さ0.27m。床面 黒褐色土を床としており床の硬化は不明瞭であった。竈 東壁南寄りに検出されている。時期 出土遺物から平安時代と考えられる。

#### H-37号住居跡 (Fig.19, PL. 7)

位置 X22・23, Y129・130グリッド 主軸方向 N-56°-E 形状等 東西3.79m×南北不明 深さ0.47m。床面 ほぼ平坦で、竈前面が硬化している。ピット 3基検出され、いずれも主柱穴である。

竈 東壁南寄りに付設される。暗褐色粘質土で構築され、燃焼部から煙道に至る部分に砂岩が使用されている。貯蔵穴 南東角近くにあり、規模は長軸85cm×短軸63cm、深さ50cmである。重複 H-24号住居跡より古い。出土遺物 土師器壺1点を図示した。時期 出土遺物から5世紀後半と考えられる。

#### H-40号住居跡 (Fig.20, PL. 7)

位置 X24・26, Y131・133グリッド 主軸方向 N-74°-E 形状等 東西6.22m×南北5.21m、深さ0.70m。主軸方向が短くなる長方形である。床面 地山を床としている。主柱穴内側で硬化が認められるがやや南に硬化の範囲が延びている。ピット 主柱穴とみられるものは4基検出されている。炉 北壁に近いやや西寄りにある。重複 H-26・28B・32・34号住居跡、D-4号土坑より古い。出土遺物 土師器台付壺1点を図示した。時期 出土遺物から4世紀代と考えられる。

#### H-41号住居跡 (Fig.19, PL. 7)

位置 X27・28, Y129・130グリッド 主軸方向 N-93°-E 形状等 東西2.70m×南北2.42m、深さ0.32m。主軸方向に長い長方形である。床面 黒褐色土の地山を床としている。竈 東壁中央やや南寄りに付設される。袖部には男瓦を構築材として使用している。時期 遺構の形態等から平安時代と考えられる。

#### H-42号住居跡 (Fig.19, PL. 7)

位置 X28・29, Y129・130グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 東西2.89m×南北3.40m 深さ0.25m、主軸方向が短軸となる長方形。床面 黒褐色土の地山を床としている。ピット 南壁際に検出(P14)されているが、性格は不明である。竈 東壁南角近くに付設される。出土遺物 須恵器壺4点を図示した。時期 出土遺物から9世紀後半~10世紀前半代と考えられる。

#### H-43号住居跡 (Fig.20, PL. 7)

位置 X29, Y130・131グリッド 主軸方向 N-74°-E 形状等 東西3.72m×南北不明 深さ0.11m、

主軸方向が短軸となる長方形。床面 黒褐色土の地山を床としている。竈 東壁南寄りに付設されていた。重複 H-56号住居跡と重複している。出土遺物 石製紡錘車1点を図示した。時期 出土遺物から9世紀後半～10世紀前半と考えられる。

#### H-44号住居跡 (Fig.21)

位置 X31・32、Y128・129グリッド 主軸方向 N-93°-E 形状等 東西2.59m×南北3.34m、深さ0.07m、主軸方向が短軸となる長方形。床面 ほぼ平坦で全体にしまっている。竈 東壁南寄りに付設される。重複 H-57号住居跡より新しい。出土遺物 須恵器碗1点、高台付盤1点、不明銅製品1点を図示した。時期 出土遺物から9世紀後半と考えられる。

#### H-45号住居跡 (Fig.20)

位置 X31・32、Y127グリッド 主軸方向 N-97°-E 形状等 東西3.02m×南北3.03m、深さ0.17m、ほぼ正方形である。床面 西壁寄りと北壁を除き硬化している。ほぼ平坦である。ピット 2基検出されているが主柱穴とは考えられず、性格は不明である。竈 西壁やや南寄りに付設される。重複 H-46号住居跡より新しい。出土遺物 須恵器壺2点、皿1点、羽釜1点を図示した。時期 出土遺物から10世紀後半と考えられる。

#### H-46号住居跡 (Fig.21, PL.7)

位置 X32・33、Y127・128グリッド 主軸方向 南辺の計測でN-74°-E 形状等 東西4.12m×南北4.30m 深さ0.37m、ほぼ方形である。床面 ほぼ平坦で木根等による小擾乱のため床の残存状況が悪い。検出部分で壁周溝が全周する。ピット 6基検出されている。P1・2・4・5が主柱穴になるものと思われる。重複 H-45号住居跡より古い。出土遺物 時期の決定できる明瞭な出土遺物が見られない。時期 造構の形態からから6～7世紀頃と考えられる。

#### H-47号住居跡 (Fig.21)

位置 X33、Y129グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 東西不明×南北不明 深さ0.11m。床面 ほぼ平坦である。竈 東壁南寄りに付設される。重複 H-55号住居跡より新しい。W-3号溝跡よりも古い。出土遺物 土師器壺1点、鏡瓦1点を図示した。土師器壺は6世紀後半～7世紀代のものでH-55号住居跡の埋土中の遺物の可能性がある。時期 出土遺物から9世紀頃と考えられる。

#### H-48号住居跡 (Fig.22, PL.7)

位置 X34・35、Y127～129グリッド 主軸方向 N-60°-E 形状等 東西4.50m×南北5.55m、深さ0.28m、南北方向に長い長方形。床面 全体に床の硬化面が残らず不明瞭で、壁周溝は北半部で検出されている。ピット 3基検出され主柱穴になるものと考えられる。重複 T-1号竪穴状造構、W-3号溝跡より古い。出土遺物 白玉1点を図示した。時期 出土遺物から古墳時代後期と考えられる。

#### H-50号住居跡 (Fig.22, PL.8)

位置 X31、Y130・131グリッド 主軸方向 N-60°-E 形状等 不明 深さ0.38m。床面 地山の褐色土を床としている。ピット 柱穴は検出されなかった。竈 東壁に付設される。両袖部に粘土ブロックを混ぜた黒褐色土を使用し構築されている。燃焼部奥壁寄りに砂岩を加工した支脚が残存する。重複 H-15号住居跡より古く、12～15区W-1号溝跡との新旧は不明瞭。出土遺物 土師器壺1点を図示した。土師器壺は竈の南側の床上に置かれた状態で出土している。時期 出土遺物から7世紀代と考えられる。

#### H-51号住居跡 (Fig.22, PL.8)

位置 X31・32、Y127・128グリッド 主軸方向 N-78°-E 形状等 不明 深さ0.22m 床面 平坦

で全体にしまっている。重複 W-1号溝より古い。出土遺物 土師器壺1点、土師器瓶1点を図示した。すべて壁直下の床上からの出土である。時期 出土遺物から6世紀代と考えられる。

#### H-52号住居跡 (Fig.22, PL.8)

位置 X36・37、Y128グリッド 主軸方向 N-77°-E 形状等 東西1.91m×南北2.30m、深さ0.48mの正方形。床面 窓前面から南寄りの範囲で硬化が認められる。壁周溝は南壁と東・西壁で検出されている。竈 東南角に付設されている。燃焼部に支脚として石が立てられていた。出土遺物 須恵器壺3点、須恵器壺1点を図示した。いずれも埋土中層からの出土である。時期 出土遺物から9世紀後半と考えられる。

#### H-54号住居跡 (Fig.23)

位置 X38、Y127・128グリッド 主軸方向 N-100°-E 形状等 不明 深さ0.48m 床面 平坦でやや硬化している。重複 O-1風倒木痕より新しい。時期 不明である。

#### H-55号住居跡 (Fig.23, PL.8)

位置 X32~34、Y128・129グリッド 主軸方向 N-76°-E 形状等 東西3.60m×南北3.02m 深さ0.49m 主軸方向に長い長方形。床面 ほぼ平坦で窓手前で硬化が認められる。ピット 3基検出されているが主柱穴にはならない。重複 H-47号住居跡、W-3号溝より古い。出土遺物 土師器壺1点を図示した。時期 出土遺物から6世紀後半代と考えられる。

#### H-56号住居跡 (Fig.20, PL.8)

位置 X30・31、Y131・132グリッド 主軸方向 N-52°-E 形状等 東西2.82m×南北不明 床面 ピット 深さ0.34m。出土遺物 土師器小型壺1点を図示した。

#### H-57号住居跡 (Fig.23, PL.8)

位置 X31・32、Y128・129グリッド 主軸方向 N-57°-E 形状等 東西不明×南北4.08m 深さ0.31m 床面 平坦で窓前面が硬化している。竈 東壁やや南寄りに付設される。重複 H-44号住居跡より古い。時期 不明。

#### H-58号住居跡 (Fig.23, PL.8)

位置 X26・27、Y128グリッド 主軸方向 N-79°-E 形状等 東西3.15m×南北2.06m 深さ0.32m、主軸方向に長い長方形。床面 黒褐色土を床としている。竈 東壁に付設され、袖石として砂岩の切石が構築材として使われている。出土遺物 須恵器蓋1点を図示した。時期 出土遺物から8世紀代と考えられる。

## 第2節 挖立柱建物跡

調査地区の中央部に2棟分確認されたが、B-2号掘立柱建物跡はB-1号掘立柱建物跡の東側に2本の柱列が確認されたのみで確実に建物になるかどうかは不明である。

### B-1号掘立柱建物跡 (Fig.24, PL.8)

位置 X27~29、Y127~129グリッド 主軸方向 N-47°-W 規模 南西-北東軸4間(5.42m)×北西-南東軸3間(5.40m) 形状 側柱建物であるが、北東部が調査区外となるため柱穴1ヵ所未確認。柱間寸法は、南西-北東軸方向の南側列は南西側から順番に1.16m、1.24m、1.75m、1.24mである。北列は1.24m、1.40m、1.42mである。柱穴 平面形は円形及び梢円形である。各柱穴径は、0.30~0.43m、深さは0.32~0.55mである。確認できた柱痕は直径12~18cmである。時期 時期を特定できる遺物はなく詳細は不明であるが、他遺構との主軸方向の一一致から、おおむね7世紀後半代のものと考えられる。

## 第3節 穴状遺構

### T-1号穴状遺構 (Fig.24, PL.9)

位置 X35・36、Y128・129グリッド 長軸方向 N-99°-E 規模 長軸3.33m×短軸2.55m 深さ1.38m 形状 長方形。床面特に硬化は認められなかった。ピット 3基検出されている。P1・P2は柱穴になるものと思われる。出土遺物 無し。時期 中世と考えられるが詳細は不明である。

## 第4節 溝跡

溝跡は調査地区内から5条検出されている。このうち規模が大きく特徴のあるものについて記述を行い、他のものについては一覧表 (Tab.5) にまとめた。

### W-2号溝跡 (Fig.25, PL.9)

位置 X32・33、Y126~132グリッド 規模 長さ35.30m、幅4.72m、深さ0.82m。形状 底面は約2.20~2.40mの幅ではほぼ平坦で、側壁は直線的に立ち上がる。硬化面 硬くしまりのある硬化面が埋土中層から底面にかけて4面捉えられた。埋土 浅間C軽石粒を含んだ黒褐色土層を主体としておりやや砂っぽい埋土である。出土遺物 土師質土器小皿1点を図示した。その他に馬齒片等も出土している。時期 出土遺物から中世と考えられるが詳細は不明である。

### W-3号溝跡 (Fig.26, PL.10)

位置 X35~39、Y127~130グリッド 規模 長さ19.57m、幅2.10m。深さ0.63m。形状 底面は約0.7~1.0mの幅の浅い皿状で、側壁は緩やかに立ち上がる。埋土 砂岩の小礫を含んだ黒褐色土層を主体とした埋土である。時期 中世と考えられるが詳細は不明である。

### W-4号溝跡 (Fig.27, PL.10)

位置 X37・38、Y127・128グリッド 規模 長さ5.04m、幅4.43m。深さ0.70m。形状 底面は約3.48mの幅で、両側斜溝幅0.42~0.62m、路面幅2.26mで、壁は直線的に緩やかに立ち上がる。埋土 黒褐色土を主体とした埋土で、側溝部を除いた路面の範囲で10層に分層したがいずれも薄い硬化層である。中層には砂の堆積層が3枚見られ、織状に細長く窪んだ部分に砂層が見られた。出土遺物 奈良・平安時代の土師器・

須恵器の細片と布目瓦の小片が出土している。 時期 不明である。

## 第5節 道路状遺構

### A-1号道路状遺構 (Fig.28)

位置 X24・25、Y129・130グリッド 規模 幅2.4~2.7m。 形状 東西に走行する硬化面が一枚確認された。 硬化面 部分的に土坑によって壊されている。 重複 D-23号土坑よりも古い。 時期 不明。

## 第6節 井戸跡 (Fig.28、PL.9)

調査地区内から1基の井戸が確認されている。出土遺物がなく時期は不明であるが、埋土にはAs-B軽石を含み中世以降のものと思われる。

## 第7節 土坑 (Fig.28、PL.9)

土坑は調査地区内から24基検出されている。詳細については土坑一覧表 (Tab.7) にまとめた。

## 第8節 遺構外出土遺物 (Fig.40、PL.17)

表採遺物や遺構埋土出土であっても明らかに時期がことなり、流れ込みと判断されたものを遺構外遺物とした。縄文時代の遺物では、後期初頭ころの三十稻葉式土器 (163) やハート型土偶の脚部片 (162) がある。中期後半の加曾利E式期の住居から出土している打製石斧と同種の石斧は、遺構外から36点出土している。掲載できなかったが大形の石器で、安山岩製の凹石、小形の石器類としてスクレーパー類・磨製石斧・石錐・石核・剥片石器が出土している。小形の石器の石材はほとんどが頁岩であるが、磨製石斧の中には新潟産と思われる蛇紋岩製のものもある。スクレーパーの中には安山岩製のものもある。石核はチャートと頁岩が、剥片石器はほとんどが頁岩であり調整を施していない刃部に使用痕が見られる。黒曜石では石錐・石錐・サイドスクレーパー・石核・剥片石器が出土している。

奈良・平安時代では、綠釉陶器の碗・皿や托、須恵器の凸帯壺片、上野国分寺式盤瓦が遺構外遺物として出土している。

## 第VI章 まとめ

本遺跡からは縄文時代中期、古墳時代から奈良・平安時代、中世の各時代にわたる遺構が検出されている。この中で量的に主体を占めるのは古墳時代前期から平安時代にかけての遺構と遺物である。

本遺跡は、国府推定域の北西側に位置し、調査区の北側には国分尼寺が隣接する地域である。ここでは元経社遺跡群で通有の時期区分にしたがい、Ⅰ期（～7世紀前半）、Ⅱ期（7世紀後半～10世紀初頭）、Ⅲ期（10世紀前半～）の3時期に区分して集落跡を概観する。

## I期（～7世紀前半）

### 縄文時代

縄文時代の竪穴住居跡は調査地区の西側に2軒が接近してつくられている。円形のプランで、似た形態の炉体土器を埋設した炉を持っている。遺物は加曾利E式期の土器と打製石斧が出土している。

### 古墳時代前期

古墳時代前期の住居跡は調査地区の西側でまとまって確認されている。特に13号住居跡では埋土最上層中にHr-F A層が確認されている。遺構の形態は、4本の主柱穴を持ち構造のしっかりしたタイプと主柱穴を持たないタイプがあり、主柱穴を持つタイプでは13号住居跡のような方形のものと、40号住居跡のように東西方向に長いものがある。10号住居跡のように4本柱を持たないタイプでは、東西方向に長い長方形のもの（16・21号住居跡）と南北方向に長いもの（20号住居跡）が見られる。出土遺物は全体に少ないとH-16・40号住居跡からS字状口縁付壺が出土している。

### 古墳時代後期

窓が付設される住居跡ではH-19号住居跡の窓が古い様相を持っている。出土遺物は体部が半球形で内面鏡磨きの土師器壺がH-19号住居跡から出土しており、5世紀後半から末頃の時期のものと思われる。6世紀代の竪穴住居跡はH-7・24・51・55号住居跡で、7世紀前半のものでは、H-30号住居跡があげられる。主軸方向はN-42°-EからN-90°-Eの範囲を中心にまとまりがある。

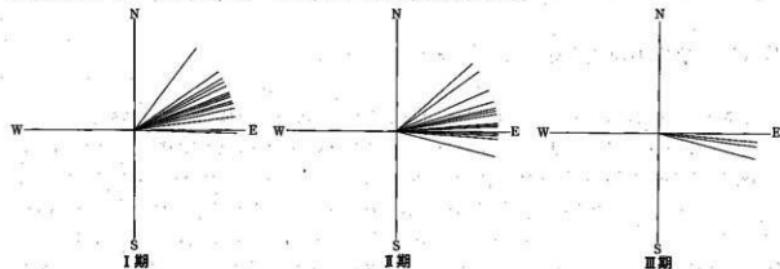


Fig. 5 時期別の竪穴住居跡の主軸方向

## II期（7世紀後半～10世紀初頭）

この時期に該当する住居跡は調査区全域に分布している。主軸方向はN-48°-EからN-104°-Eの範囲にまとまりがある。

### 7世紀後半～8世紀

8世紀代の住居は少なく、調査区の西側の国分寺・尼寺中間地域寄りに5軒程見られる。8世紀段階の集落は国分寺中間地域の集落の東縁に当たるため分布が薄いものと思われる。8世紀前半頃までの時期の旧地形を想定すると、竪穴住居跡の分布傾向から見て、中央部に低湿地が入り込み不安定な部分があったものと考えられる。

また、8世紀の集落の境目の線に南北に延びる溝跡（W-4号溝）があるが、底面から埋土中層にかけて数面の硬化面が確認され、側溝や被状の小溝を持っているため道路状遺構と考えられる。この道路状の遺構は国分寺東限線から3町の位置にあり、国分尼寺の西側線に当たると見られる。

出土遺物はH-18号住居跡から須恵器壺・蓋を主体に遺物が多く出土しており、「大」の文字の書かれた墨

書土器も出土している。H-4号住居跡からは須恵器の双耳壺が出土している。

### 9世紀

9世紀代の住居は調査区の全体に広がっている。おそらく8世紀代の溝や道路造成等による地形整備の結果、地形が安定し、中間地域の集落が8世紀から9世紀にかけて拡大していったものと考えられる。出土遺物がなく時期のはっきりしていない掘立柱建物跡については、近接するH-35号住居跡との軸線の一致等から9世紀代の可能性も考えられる。

出土遺物ではH-28A号住居跡から須恵器の三足盤が、H-35号住居跡からは灰釉陶器の唾壺が、H-3号住居跡からは左偏向唐草文の字瓦が出土している。墨書き土器では、則天文字の「天」が書かれた須恵器の椀が出土している。造構外からは綠釉陶器の托も出土している。三足盤や托、唾壺といった寺院関係の遺物の廃棄が目につく時期である。

金属製品では、H-11・31号住居跡から鍛錘車が、H-23号住居跡からは鏃子が、H-32号住居跡からは鉄斧が出土している。

### III期（10世紀前半～）

この時期に該当する住居跡も調査地区全体から確認されているが、遺存状況が悪いもの多かった。主軸方向はN-95°-EからN-105°-Eの範囲にまとまりがあり、ほとんどの堅穴住居跡の窓は東壁に付設されている。

出土遺物は、H-44号住居跡から足高高台の盤か椀の大型品が、H-29号住居跡から青磁皿が出土している。墨書き土器では、須恵器の椀の体部に書かれた呪術記号と思われる文字「匱」が見られる。

その他に調査地区内からは、中層に硬化面を持ち南北方向に直線的に延びる幅の広い大きな溝（W-2号溝）や、南北方向から屈曲して東西方向に延びる渓溝（W-3号溝）が確認されている。W-2号溝では馬齒や中世の土師質土器の小皿が出土し、埋土中にはAs-B軽石粒を含んでいたため埋没時期は中世まで下る。W-3号溝は中世の堅穴造構に切られており、W-2号溝を含めてこれらの溝が、古代の土地区画の溝や道路を継続維持・再利用している可能性が考えられる。

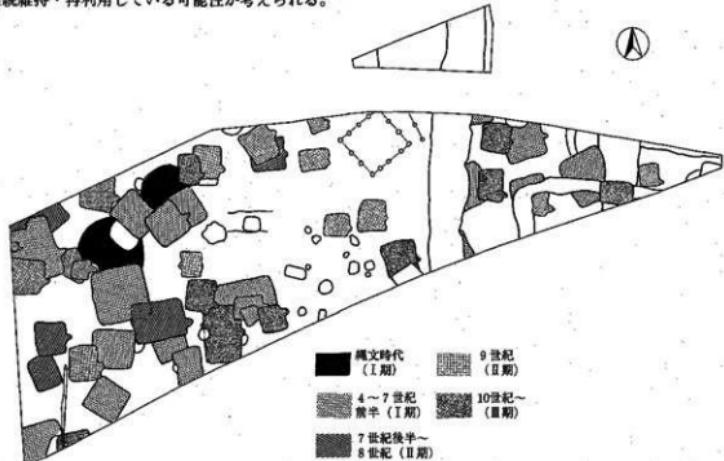


Fig. 6 時期別の堅穴住居跡配置図

Tab.2 穫穴住居跡（縦文）一覧表

遺構名	グリッド	規模 (m)			平面形状	炉	壁溝	野廬穴	主な出土遺物	時期
		東西	南北	壁高						
J-1	X20~22、Y130~132	6.50	7.55	0.52		有	有	-	深鉢、打製石斧	加曾利E式
J-2	X22~24、Y128~130	5.29	4.94	0.60		有	有	-	深鉢、打製石斧	加曾利E式

Tab.3 住居跡（古墳～平安）一覧表

遺構名	グリッド	規模 (m)			平面形状	主軸方位	竪	横溝	近畿穴	主な出土遺物	掲載遺物番号	時期
		東西	南北	壁高								
H-1	X18、Y130	-	-	0.43	-	-	-	-	-	土器器環	11	7世紀末
H-2	X20、Y131~132	1.93	2.18	0.20	正方形	N-92°・E	東	無	無	土器器環	12	9世紀後半
H-3	X20・21、Y134・135	2.91	3.94	0.30	横長長方形	N-79°・E	東	無	無	土器器環	13~22	8世紀末~9世紀初
H-4	X19・20、Y133・134	3.16	3.57	0.35	横長長方形	N-86°・E	東	無	無	須恵器环、刀子	23~30	8世紀後半
H-5	X20~22、Y133・134	4.56	4.01	0.39	正方形	N-91°・E	-	-	-	-	-	4世紀
H-6	X20、Y136	-	-	0.46	-	N-7°・E	-	有	-	灰陶器輪	31	10世紀代
H-7	X18・19、Y130~132	-	6.57	0.52	-	N-69°・E	東	有	南東	土器器環・甕	32~35	6世紀後半
H-8	X18・19、Y130~132	-	-	-	-	N-7°・E	-	-	-	土器器要	36	9世紀~10世紀
H-9	X20・21、Y129・130	3.45	-	0.24	-	N-93°・E	東	-	-	須恵器輪・輪	37~40	9世紀後半
H-10	X21・22、Y129・130	4.82	4.02	0.12	横長長方形	N-135°・E	-	有	?	-	-	4世紀
H-11	X18・19、Y131~132	-	3.66	0.44	-	N-87°・E	東	?	-	須恵器環・統錐車	41~42	9世紀前半
H-12	X19・20、Y136・137	-	-	0.43	-	-	-	-	-	須恵器輪・字瓦	43~44	9世紀後半
H-13	X20~22、Y131~133	5.28	5.27	0.57	正方形	N-71°・E	-	有	-	-	-	4世紀
H-14	X19、Y134・135	3.10	3.91	-	-	N-66°・E	-	-	-	-	-	8世紀代
H-15	X19・20、Y131~132	-	-	0.11	-	-	-	-	-	須恵器蓋瓶	45	9世紀代
H-16	X19・20、Y136・137	-	-	0.16	-	N-70°・E	-	無	-	土器器合付甕	46~53	4世紀
H-17	X19、Y130	-	-	0.16	-	N-48°・E	-	-	-	-	-	8世紀代
H-18	X21~23、Y122~133	5.53	3.78	0.40	横長長方形	N-73°・E	東	有	南京東	土器器環・須恵器輪	54~68	8世紀代
H-19	X20・21、Y135~136	3.64	3.56	0.57	正方形	N-37°・E	北	?	-	土器器環・甕	69~73	5世紀後半
H-20	X23・24、Y134・135	2.95	-	0.30	-	N-64°・E	-	無	-	-	-	4世紀
H-21	X22・23、Y133・134	3.71	-	0.14	-	N-62°・E	炉	無	-	-	74	4世紀
H-22	X22、Y130~131	-	-	-	正方形	-	-	-	-	-	-	8世紀~9世紀
H-23	X23、Y131~132	3.21	2.64	0.34	横長長方形	N-91°・E	東	無	無	女瓦、繩子	75~76	9世紀代
H-24	X22・23、Y129~131	3.67	3.56	0.34	正方形	N-91°・E	東	有	?	土器器環	77~79	6世紀前半
H-25	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H-26	X24・25、Y132~133	3.06	-	0.28	正方形	N-104°・E	-	無	-	土器器合付甕	80	9世紀代
H-27	X25、Y132~133	-	-	-	-	-	-	-	-	土器器輪・須恵器輪	81~83	10世紀後半
H-28A	X24、Y133~134	2.85	4.29	0.37	横長長方形	N-80°・E	東	有	南京東	須恵器環・三足盤	84~90	9世紀後半
H-28B	X24、Y132~133	4.18	6.18	0.30	横長長方形	N-86°・E	東	有	南京東	須恵器輪・輪・綠釉	91~99	10世紀前半
H-29	X23・24、Y132	2.37	3.21	0.41	-	N-104°・E	東	有	-	須恵器輪・皿	100~106	10世紀後半
H-30	X25、Y127~128	-	3.68	0.37	-	N-83°・E	東	有	南京東	土器器要・女瓦	107~110	7世紀
H-31	X23・24、Y128~129	-	-	0.39	横長長方形	N-92°・E	東	無	無	土器器輪・須恵器輪	111~118	9世紀後半
H-32	X25、Y132~133	-	-	0.30	-	-	-	-	-	鐵斧	119	-
H-33	X23、Y128~129	2.25	3.12	0.50	横長長方形	N-94°・E	東	有	無	須恵器輪	120~122	10世紀前半
H-34	X25・26、Y132~133	2.64	3.00	0.74	正方形	N-70°・E	-	無	無	銅	123	-
H-35	X24・25、Y127~128	3.21	4.02	0.40	横長長方形	N-53°・E	東	有	無	鉄器器皿等	124~125	9世紀
H-36	X26・27、Y127	1.57	-	0.27	-	N-67°・E	東	無	無	-	-	-
H-37	X22・23、Y129~130	3.79	-	0.47	-	N-56°・E	西	有	南京東	土器器要	126	5世紀後半
H-38	X23・24、Y134~135	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

遺構名	グリッド	規 模 (m)			平面形状	主軸方位	竪	横深	貯藏穴	主な出土遺物	掲載遺物番号	時 期
		東西	南北	標高								
H-39	X25・26、Y132・133	-	-	-	-	-	-	-	-	須恵器壺	127	9世紀後半
H-40	X24~26、Y131~133	6.22	5.21	0.70	横長長方形	N-74°・E	-	有	-	台付壺	128	4世紀
H-41	X27・28、Y129・130	2.70	2.42	0.32	正方形	N-93°・E	東	無	無	-	-	?
H-42	X27・28、Y129・130	2.89	3.40	0.25	横長長方形	N-87°・E	東	無	無	須恵器壺	129~132	9世紀~10世紀
H-43	X27、Y130・131	3.72	-	0.11	横長長方形	N-74°・E	東	無	無	劫難草	133	-
H-44	X31・32、Y128・129	2.59	3.34	0.07	横長長方形	N-93°・E	東	有	南京	枕	134~136	10世紀
H-45	X31・32、Y127	3.02	3.03	0.17	正方形	N-97°・E	東	無	南京	壺	137~140	10世紀後半
H-46	X32・33、Y127・128	4.12	4.30	0.37	正方形	N-74°・E	東	有	南京	-	-	-
H-47	X33、Y129	-	-	0.11	-	N-92°・E	東	有	無	坏、鐵瓦	141~142	9世紀代?
H-48	X34・35、Y127~129	4.50	5.55	0.28	-	N-60°・E	-	有	-	白玉	143	古墳時代後期
H-49	X31、Y127	-	-	0.18	-	N-93°・E	東	-	-	-	-	-
H-50	X31、Y130・131	-	-	0.38	-	N-60°・E	東	無	-	土師器壺	144	6世紀
H-51	X31・32、Y127~128	-	-	0.22	-	N-78°・E	-	無	-	土師器壺・壺	145~146	6世紀
H-52	X36・37、Y128	1.91	2.3	0.48	正方形	N-77°・E	東	有	無	土師器壺	147~150	9世紀後半~
H-53	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H-54	X38、Y127・128	-	-	0.48	-	N-100°・E	-	無	-	-	-	-
H-55	X32~34、Y128・129	3.60	3.02	0.49	-	N-76°・E	東	無	無	土師器壺	151	6世紀後半
H-56	X30・31、Y131・132	2.82	-	0.34	-	N-52°・E	-	無	-	土師器壺	152	-
H-57	X31・32、Y128・129	-	4.08	0.31	-	N-57°・E	東	有	南京	-	-	-
H-58	X26・27、Y128	3.15	2.06	0.32	縱長長方形	N-79°・E	東	無	無	須恵器壺	153	-
H-59	X27・28、Y125	-	-	0.26	-	N-78°・E	東	無	-	-	-	-

Tab.4 壓穴状遺構一覧表

遺構名	グリッド	規 模 (m)			平面形状	時 期	主な出土遺物
		東西	南北	標高			
T-1	X37・38、Y128・129	3.33	2.55	1.38	長方形	中世	

Tab.5 溝跡一覧表

遺構名	グリッド	規 模 (m)			主軸方位	時 期	備 考
		全長	上幅	深さ			
W-1	X20、Y134~136	7.95	0.34	0.14	N-90°・E	不明	
W-2	X32・33、Y126~132	35.30	4.72	0.82	N-90°・E	中世	
W-3	X35~39、Y127~130	19.57	2.10	0.63	N-340°・E N-61°・E	中世	
W-4	X37・38、Y127~128	(5.04)	4.43	0.70	N-0°・E	不明	
W-5	X36、Y127	2.64	0.92	0.17	N-356°・E	不明	

Tab.6 道路状遺構一覧表

遺構名	グリッド	規 模 (m)			主軸方位	時 期	備 考
		全長	全幅	深さ			
A-1	X26・27、Y129・130	(5.05)	2.4~2.7	-	N-86°・E	-	不明
A-2	欠番	-	-	-	-	-	
A-3	X38~40、Y127	(9.40)	-	-	N-278°・E	-	不明

Tab.7 土坑一覧表

遺構名	グリッド	規 模 (m)			平面形状	時 期	備 考
		長軸	短軸	深さ			
D-1	X25, Y135	0.84	0.67	0.23	椭円形	中世以降	
D-2	X25, Y135	0.62	0.61	0.35	椭円形	中世以降	
D-3	X25, Y134	1.41	1.35	0.46	円形	中世以降	
D-4	X25, Y132	0.72	0.53	0.27	椭円形	平安	
D-5	X26, Y134	1.44	0.89	0.13	椭円形	中世以降	
D-6	X25・26, Y128	1.75	1.35	0.90	長方形	中世以降	
D-7	X25・26, Y128	2.40	1.12	0.93	長方形	中世以降	
D-8	欠番	-	-	-	-	-	
D-9	X28, Y133	2.61	1.32	0.40	長方形	中世以降	
D-10	X22, Y132	1.50	0.77	0.30	椭円形	平安	
D-11	X28, Y132	0.87	0.82	0.29	椭円形	中世以降	
D-12	X28, Y134	1.05	0.91	0.32	椭円形	中世以降	
D-13	X29, Y134	-	0.69	0.25	長方形	中世以降	
D-14	X29, Y134	1.81	1.57	-	円形	中世以降	井戸
D-15	X30, Y133	1.57	1.23	0.41	椭円形	中世以降	
D-16	X30, Y133	0.74	0.45	0.29	椭円形	中世以降	
D-17	欠番	-	-	-	-	-	
D-18	X30, Y133	0.63	0.48	0.39	椭円形	中世以降	
D-19	X30, Y133	1.23	1.23	0.15	方形	中世以降	
D-20	X28, Y133	0.69	0.65	0.35	椭円形	中世以降	
D-21	X30, Y132	1.39	0.96	0.12	不整形	中世以降	
D-22	X28, Y132	1.15	1.04	0.21	不整形	中世以降	
D-23	X27, Y130	1.99	1.94	0.72	方形	中世以降	
D-24	X25, Y129	1.68	1.54	0.59	椭円形	绳文時代	
D-25	X23・24, Y129	-	1.29	0.63	椭円形	绳文時代	

Tab.8 遺物観察表

番号	遺物番号	器種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	特徴	備考
1	J-1-炉	深鉢 縄文土器	①27.6, ②-, ③-	①細砂粒多量②焼成焰③浅黄色④2/3	口縁部文様帯：綫方向の短い沈織の下に2本の弦状帯と波巻き文。腹部：地文は單節斜繩文。炉体土器	炉体土器
2	J-1-壺	深鉢 縄文土器	①-, ②-, ③-	①細砂粒②焼成焰③にぶい橙黄色④	朱影の「J」字文描き。	
3	J-1-壺	深鉢 縄文土器	①-, ②-, ③-	①細砂粒多量②焼成焰③褐色④	口縁部に指円区画の夷巻き文。区画内單節斜繩文。	
4	J-1-壺	深鉢 縄文土器	①-, ②-, ③-	①細砂粒多量②焼成焰③にぶい褐色④	腹帯区画内縦の沈織文。	
5	J-1-壺	打製石斧 石器	長：13.1cm幅：5.3cm厚さ：1.7cm重さ：176g			
6	J-2-炉	深鉢 縄文土器	①-, ②-[20.3], ③12.0	①細砂粒多量②焼成焰③黄褐色④1/2	肩部：縦2本の沈織区画間に1本の沈織が緩やかに能行して垂下する。地文は單節新縦文。平底。	炉体土器
7	J-2-炉	深鉢 縄文土器	①-[23.4], ②-, ③-	①細砂粒多量②焼成焰③浅黄色④2/3		
8	J-2-壺	深鉢 縄文土器	①-, ②-, ③-	①細砂粒多量②焼成焰③にぶい赤褐色④口縁部片	口縁部～腹部：地文の各段に上から3本・2本・1本・単段の波巻文、くびれ部には腹方向2本1単位の平行沈織文を有す。	
9	J-2-壺	深鉢 縄文土器	①, ②-, ③9.9	①②③④		
10	J-2-壺	打製石斧 石器	長：12.3cm幅：4.6cm厚さ：1.8cm重さ：104g			
11	H-1-壺	坏 土器部	①-[15.5], ②-, ③-	①石英を含む微砂粒（0.5mm以下）②焼成焰・良好③褐色④2/5	口縁部：内縦、横施で。体部～底部：削り。丸底。	
12	H-2-壺	坏 土器部	①-[124.1], ②26.1, ③[7.7]	①角閃石を含む微砂粒②焼成焰・良好③褐色④1/3	口縁部：外縦、横施で。体部：指壓压痕。底部：削削り。平底。	
13	H-3-床	坏 土器部	①9.8, ②3.3, ③7.2	①石英微粒・白色軟質粒②焼成焰③にぶい褐色④1/1	口縁部：内縦、横施で。体部：口縫部治痕削り。平底。	口縫部治痕削
14	H-3-床	坏 須恵器	①-[128.1], ②3.8, ③5.8	①石英微粒多量②崩壊元③灰褐色④1/1	機縫開ぎ。口縁部：外縦。底部：回転糸切り無痕。	
15	H-3-壺	坏 須恵器	①-[18.1], ②3.6, ③掘み 径4.4	①黒色粒少量②還元焰③灰色④1/3	リング状彫み。	
16	H-3-壺	坏 土器部	①-[20.8], ②-, ③-	①細砂粒・雲母粒少量②焼成焰・良好③褐色④1/3	口縁部：コの字口縫。房部：外面削り、内面ヘラ彫で。	
17	H-3-壺	女瓦	厚さ1.6	①石英・長石砂粒（約2~3mm大）②焼成焰③にぶい黃褐色	一枚取り。凸面端部叩き一削で。端部面取り3回、側面部面取り2回。端部面取り文字瓦。	文字瓦「一十」
18	H-3-壺	女瓦	長さ36.0、幅28.8、厚さ1.9	①長石砂粒②焼成焰③褐色④1/1	一枚取り。凸面端部叩き一削で。端部面取り3回、側面部面取り2回。端部面取り文字瓦。	文字瓦「十」
19	H-3-壺	女瓦	長さ38.3、幅24.5、厚さ2.8	①長石・石英砂粒（約1mm以下）多量②崩壊元③にぶい黃褐色④6.6	一枚取り。凸面端部の削り。端部面取り1回、側面部面取り2回。	
20	H-3-壺	男瓦	長さ38.0、幅16.5、厚さ1.9	①長石・石英砂粒（約1mm大）②焼成焰③にぶい褐色④5/6	凸面端部の削り。端部面取り2回、側面部面取り3回。	
21	H-3-壺	男瓦	長さ42.2、幅18.0、厚さ1.8	①チャート隕（約5mm大）、石英細粒（約1mm大）②崩壊元③灰褐色④0.5	凸面端～鋸位の施で。端部面取り2回、側面部面取り3回。	
22	H-3-床	宇瓦	長さ-, 幅-, 厚さ1.9	①長石砂粒②3~4mm大③崩壊元③灰褐色④1/6	瓦当文は創建意匠の逆の左側向唐草文。女瓦部凹凸面施で。裏は施墨。	
23	H-4-床	坏 須恵器	①11.7, ②4.2, ③6.2	①黒色粒少量（約3mm大）②還元焰③灰白色④1/1	機縫開ぎ。口縁部：外縦。底部：回転糸切り無痕。	
24	H-4-床	高台付坏 須恵器	①13.5, ②6.3, ③8.6	①履場色質粒②還元焰③灰白④3/4		
25	H-4-床	双耳坏 須恵器	①13.8, ②4.6, ③10.2	①長石砂粒（4mm大）灰色砂粒（約1mm以下）少量（チャートか？）②還元焰③灰白色④1/1	体部に断面長方形の一対の取っ手が付く。	
26	H-4-床	坏 須恵器	①13.0, ②4.0, ③8.0	①糟良。目立つ氣物なし②還元焰③灰白色④1/1	底部及び体部下端ヘラ削り。	口縫部に輪造痕
27	H-4-壺	坏 須恵器	①-[11.7], ②4.0, ③6.9	①細砂粒②還元・不良③灰白④5/6	機縫開ぎ。口縫部：外縦。底部：回転糸切り。	

番号	遺構番号	器種	①口径②器高③底径	④土石⑤焼成⑥色調⑦遺存度	特徴	参考
28	H-4-埋	坏 須恵器	① [125], ②3.6, ③7.5	①長石母粒②透元燒③灰4/5	輪轂調整。口緣部：外傾。底部：回転糸切り。	
29	H-4-埋	刀子 鉄製品	全長： (14.3) 刃部基幅1.5；厚さ：0.3重さ：12.49g		塊間直角。刃間直角。	
30	H-4-埋	刀子 鉄製品	全長： (15.1) 刃部基幅1.5；厚さ：0.3重さ：13.51g		塊間直角。刃間直角。	
31	H-6-埋	焼 灰釉陶器	① - ②-, ③ [7.0]	①鐵衛②良好③灰白色④1/8	高台断面三角形	
32	H-7-埋	長頭甕 土師器	① [19.6], ②39.0, ③6.0	①長石釋、チャート甕②良好	口縁部：外反、横施で。肩部：長脚、外面削り、内面へラ施で。	
33	H-7-床	坏 土師器	① [13.1], ②-, ③-	①石英微粒②酸化焰・良好③黑色④1/3	口縁部：直立、体部との境に綫を有す。底部：削り。丸底。	
34	H-7-床	東 土師器	① [15.8], ②-, ③-	①石英を含む微粒子②酸化焰③にぶい黃褐色④1/15	口縁部：外反。肩部：外面前り。	
35	H-7-床	夷 土師器	① [15.1], ②-, ③-	①黃白色粒②酸化焰③浅黄褐色④2/3 (底部欠損)	口縁部：外反。肩部：外面前き。	
36	H-8-埋	夷 土師器	① [24.1] -, ②-, ③-	①石英微粒②良好還元③灰色 ④細部1/25	文様：頭部外面波状文。	
37	H-9-床	坏 須恵器	① [22], ②4.0, ③4.7	①石英微粒②還元焰③灰褐色 ④2/3	輪轂調整。口縁部：外反。底部：回転糸切り無。	
38	H-9-床	焼 須恵器	① [13.0], ②4.5, ③4.9	①白色軟質焼②酸化焰③にぶい褐色④1/1	輪轂調整。底部：回転糸切り無。高台貼り付け。	墨書き天文 字「天」
39	H-9-埋	焼 須恵器	① [13.2], ②4.9, ③6.4	①白色微粒②酸化焰③灰白色 ④2/3	輪轂調整。底部：回転糸切り無。高台貼り付け。	
40	H-9-埋	焼 灰釉陶器	① [13.2], ②4.4, ③ [6.1]	①鐵衛②良好③灰褐色④2/5	灰釉受け掛け。三日月高台	
41	H-11-埋	坏 須恵器	① [21.1], ②4.1, ③7.4	①黒褐色小粒少量②透元燒③灰白色④3/4	輪轂調整。口縁部：外傾。底部：回転糸切り。	
42	H-11-埋	新鋸車 鉄製品	全長：28.3基部幅：0.64基部厚さ：0.54重さ：81.85g			
43	H-12-埋	焼 須恵器	① [29], ②4.9, ③7.3	①白色軟質少量（輕石微粒 か）②還元焰③にぶい黄色 ④2/3	輪轂調整。口縁部：外反。高台：焼い付け高台で外側に開く。	
44	H-12-埋	芋瓦	長さ-、幅-、厚さ3.0	①半透明砂隕、石英？②還元焰 ③灰白色④小片	瓦当文は重弧文。四面横方向の割り。	
45	H-15-埋	長頭甕 土師器	①-, ②-, ③8.5	①秋葉白色粒②還元焰③灰色 ④1/2		
46	H-16-埋	台付甕 土師器	① [14.5], ②30.2, ③10.0	①透明細粒砂隕、片岩細粒②酸化焰③浅黄色④1/3	口縁部：S字状口縁。肩部外面ハケ目。内面削て。	
47	H-16-床	台付甕 土師器	① [15.6], ②-, ③8.9	①白色軟質粒②酸化焰③橙色 ④1/5	口縁部：外傾。肩部外面ハケ目。内面削て。	
48	H-16-床	小型合付 甕・土師器	① [22], ②11.9, ③6.2	①チャート甕（φ4~8mm大 量）②酸化焰・良好③橙色④1/1	口縁部：外傾、内面ハケ目。体 部・脚部外側ハケ目。	
49	H-16-床	小型合付 甕・土師器	① [11.8], ②-, ③-	①チャート甕、白色微粒②酸 化焰③橙色④脚部被破	口縁部：外傾、内面ハケ目。体 部外側ハケ目。	
50	H-16-床	夷 土師器	① [20.4], ②-, ③-	①白色砂隕（φ1.5mm大）少量 ②酸化焰③橙褐色灰色④1/8	口縁部：内面気味に外傾。肩 部：内外面磨き。	
51	H-16-床	夷 土師器	①-, ②-, ③6.7	①細粒多量②酸化焰③橙色 ④1/5	肩部：削り後ついでいいねいな施 す。底部：木葉痕。	
52	H-16-床	夷 土師器	① [11.6], ②17.9, ③5.1	①石英、角閃石、金雲母細粒少 量②酸化焰③にぶい褐色④2/3	外面前り後削て。	
53	H-16-床	游合 土師器	① [8.3], ②8.6, ③11.2	①黃白色少量②酸化焰・良 好③橙色④1/1	受け部：内面磨き。肩部・外側磨 き	
54	H-18-床	坏 土師器	① [13.2], ②3.3, ③-	①白色軟質粒、角閃石状の黑 色光沢の柱状微粒少量②酸化 焰③橙色④1/1	口縁部：内傾、横施で。底部： 削り。平底。	口縁部に油 煙痕
55	H-18-床	坏 土師器	① [13.5], ②3.5, ③-	①白色軟質粒、角閃石微粒② 酸化焰③橙色④1/1	口縁部：内傾、横施で。底部： 削り。平底。	
56	H-18-床	坏 土師器	① [13.2], ②3.5, ③-	①長石微粒、黒色微粒少量 ②酸化焰③橙色④1/1	口縁部：内傾、横施で。底部： 削り。平底氣味。	底部に墨書き 「大」。
57	H-18-床	坏 土師器	① [12.9], ②3.0, ③-	①石英、角閃石微粒②酸化焰 ③橙色④1/4	口縁部：内傾、横施で。底部： 削り。平底。	
58	H-18-埋	坏 土師器	① [13.2], ②3.6, ③-	①白色軟質少量（φ1mm大）② 酸化焰③橙色④底部一部欠損	口縁部：内傾、横施で。底部： 削り。平底氣味。	
59	H-18-埋	坏 土師器	① [13.3], ②3.1, ③-	①石英、角閃石微粒②酸化焰 ③橙色④2/3	口縁部：内傾、横施で。底部： 削り。平底氣味。	

番号	遺構番号	器種	①口径②器高③底径	④胎土⑤焼成⑥色調⑦遺存度	特徴	備考
60	H-18-床	环 土器	①13.1, ②-, ③-	①石英含む微粒②酸化焰良好 ③にぼい色④4/5	口縁部：内唇、横施で。底部：削り。平底式。	
61	H-18-床	壺 須恵器	①18.2, ②4.5, ③横み径3.3	①長石繊少量、黒色粒②還元焰③灰白色④1/1	天井部：一部回転窓削り調整。 重ね焼き痕	
62	H-18-床	壺 須恵器	①19.1, ②4.2, ③横み径5.0	①長石繊少量、黒色粒②還元焰③灰白色④1/1	リング状摘み。	
63	H-18-床	壺 須恵器	①19.1, ②3.3, ③横み径4.9	①長石小粒少量、微粒多量 ②還元焰③灰色④1/1	リング状摘み。	
64	H-18-壠	壺 須恵器	①17.1, ②4.4, ③横み径4.0	①黒色微粒②還元焰③灰色④1/1	天井部：一部回転窓削り調整。	
65	H-18-壠	壺 須恵器	①[18.2], ②4.1, ③横み 径3.6	①チャート・長石繊黒褐色 スコリア粒②還元焰③灰白色④3/4		
66	H-18-壠	小型壺 須恵器	①7.1, ②6.6, ③6.3	①精良、微砂粒②還元焰③灰白色④1/1	底部回転糸切り。	
67	H-18-壠	壺 須恵器	①[21.9], ②-, ③-	①長石を含む微砂粒②還元焰 焰・やや不良③灰白色④1/2	胴部：外面に平行叩き後撫で。	
68	H-18-壠	不明鉄製品	外径：4.5内径3.5：厚さ：0.5重さ：25.1g		リング状。断面方形。	
69	H-19-壠	环 土器	①11.7, ②3.5, ③-	①石英を含む細砂粒、チャート繊(φ0.5mm)②酸化焰③褐色④1/1	口縁部：内唇、横施で。体部～底盤：削り。丸底。	内外面黒色 処理
70	H-19-壠	环 土器	①[12.4], ②[5.3], ③-	①角閃石か？ 黒色結晶粒・白 色鉱物粒少量②酸化焰③褐色④1/4	口縁部：内斜口縁、横施で。体 部～底部：押さえ・曳施で。内 面磨き。丸底。	
71	H-19-床	壺 土器	①[12.6], ②-, ③-	①石英を含む細砂粒(φ0.5mm 以下)②酸化焰③明赤褐色④1/2	口縁部：外反。胴部：外面上半 部曳施で。下半部削り。	
72	H-19-壠	壺 土器	①14.8, ②-, ③-	①白・灰色軟質粒(φ1cm以下 に)②酸化焰③浅褐色④1/3	口縁部：外反。胴部：外面施で。	
73	H-19-床	壺 土器	①17.2, ②19.6, ③8.7	①石英を含む繊砂粒②酸化焰 ③明赤褐色④1/2	口縁部：外反。胴部：外面上半 部曳施で。下半部削り。	
74	H-21-壠	环 須恵器	①[13.4], ②-, ③-	①片岩繊粒②還元焰③にぼ い青褐色④1/15	輪縫調整。口縁部：外傾。体部 青褐色文字。	基番「□」
75	H-23-壠	女瓦	長さー、幅ー、厚さ2.2	①石英繊・安山岩片岩粒②還 元焰③灰色	一枚作り。凸面施で。端部面取 り2回、側面部取り3回。	東記号「単」
76	H-23-壠	筒子 鉄製品	全長：8.2幅0.65：厚さ：0.25重さ：8.23g			
77	H-24-壠	环 土器	①10.7, ②3.1, ③-	①繊粒多量・角閃石、チャ ート？ 石英)②酸化焰③褐色④1/1	口縁部：直立、横施で。底部： 削り。丸底。	
78	H-24-壠	环 土器	①[12.2], ②[5.3], ③-	①微砂粒②酸化焰③褐色④1/6	口縁部：内斜口縁、横施で。体 部～底盤：外面曳削り。内面磨 き。丸底。	
79	H-24-壠	环 土器	①11.4, ②4.0, ③-	①白色繊粒少量②酸化焰③褐色 ④7/8	口縁部：外反。体部との境に後 を有す。体～底部：削り。丸底。	
80	H-26-壠	台付壺 土器	①10.8, ②-, ③-	①繊粒多量②酸化焰③黒褐色 ④6/7	口縁部：外傾。胴部外周ハケ目 後巻き。内面施で。	
81	H-27-壠	碗 土器	①[14.4], ②-, ③-	①チャート繊(φ1cm～数mm大) ②還元焰③にぼい黄色④1/3	輪縫調整。口縁部：外反。	高台はがれ
82	H-27-壠	环 須恵器	①12.4, ②4.0, ③6.0	①石英微粒②還元焰・やや 焼成不良③にぼい青褐色④は ば完形	輪縫調整。口縁部：外反。底 部：回転糸切り。	
83	H-27-壠	环 須恵器	①11.3, ②3.5, ③6.4	①石英を含む細砂粒②還元 焰・やや焼成不良③灰黄色④ 光形	輪縫調整。口縁部：外反。底 部：回転糸切り。	
84	H-28A-貯	环 須恵器	①13.8, ②3.7, ③7.5	①目立つ鉱物粒なし②還元 焰・やや焼成不良③灰白色④ ほぼ完形	輪縫調整。口縁部：外傾。底 部：回転糸切り。	
85	H-28A-床	环 須恵器	①[14.5], ②5.2, ③[6.6]	①石英微粒多量②酸化焰③ にぼい橙色④1/3	輪縫調整。口縁部：外傾。底 部：内面黒色処理後巻き。底 部：回転糸切り。	
86	H-28A-貯	碗 須恵器	①14.7, ②4.7, ③7.4	①片岩の大繊維5mm～6mm②還 元焰③灰白色④1/1	輪縫調整。口縁部：外傾。高台 焼付け高台で外側に開く。	

番号	遺物番号	器種	①口径②高さ③底径	④胎土⑤焼成⑥色調⑦遺存度	特徴	備考
87	H-28A-床	楕 須恵器	① [140], ②50, ③68	①片岩粒②還元焰③オリーブ 灰色④/2	輪轂調整。口縁部：外反。高台： 低い付け高台で外側に開く。	
88	H-28A-埋	楕 須恵器	① [224], ②10.5, ③ [100]	①石英・チャート粒を含む細 砂粒②礫化焰③にぼい褐色④ 1/3	輪轂調整。口縁部：外反。高台： 内面黒色処理、荒磨き。	
89	H-28A-貯 須恵器	三足盤	①27.7, ②-, ③17.0	①白色軟質片粒②還元焰③ 黄褐色④脚部折損。	輪轂調整。口縁部：外反。三足。	
90	H-28A-埋	女瓦	長さ-, 幅-, 厚さ22	①②還元不良③灰黄色④		文字瓦「□
91	H-28B-床	坏 須恵器	①11.1, ②3.6, ③5.5	①チャート粒少量②還元焰や 瓦質の焼成③灰黄色④1/1	輪轂調整。口縁部：内凹。底 部：四軒糸切り。	
92	H-28B-電	坏 須恵器	① [114], ②44, ③ [5.7]	①チャート粒（角丸）2mm大少 量②還元焰③灰黄色④1/5	輪轂調整。口縁部：外反。底 部：回転糸切り。	
93	H-28B-電	楕 須恵器	①12.6, ②5.2, ③7.1	①石英・角閃石を含む微粒子 ②還元焰③浅黄色④3/5	輪轂調整。口縁部：外縁。高台： 付け高台で外側に開く。	
94	H-28B-埋	ミナフ要 土器	①7.3, ②7.0, ③4.0	①目立つ鉱物粒なし②良好③ 浅黃褐色④1/1	口縁部：縫く外反、横握で。朋 上半部：輪轂調整。下半前面削 り。	
95	H-28B-埋	手付小瓶 須恵器	①-, ②-, ③-	①織密②還元焰③黄褐色④頸 部破片		
96	H-28B-埋	刀子 銅製品	全長：4.4幅：0.9厚さ：0.2重さ：6.44g			
97	H-28B-埋	鋳造鋸片 銅製品	全長：7.2幅：3.6厚さ：1.6重さ：129.50g			
98	H-28B-埋	釘 銅製品	全長：6.3幅：0.5厚さ：0.5重さ：4.21g			
99	H-28B-埋	釘 銅製品	全長：5.3幅：0.8厚さ：0.7重さ：17.07g			
100	H-29-埋	坏 須恵器	①12.0, ②3.3, ③6.0	①石英を含む細砂粒②礫化焰 ③褐色④1/1	輪轂調整。口縁部：外反。底 部：回転糸切り。	口縁部沿 裏か
101	H-29-埋	高台付里 須恵器	① [140], ②4.7, ③9.3	①チャート粒、白・黒色微粒 ②礫化焰③灰褐色④2/3	輪轂調整。高台部：長く「ハ」の 字に開く。	
102	H-29-埋	小皿 須恵器	① [11.0], ②2.3, ③4.8	①橙～褐色②礫化焰③にぼ い褐色④3/4	輪轂調整。口縁部：内凹。底 部：回転糸切り。	
103	H-29-埋	楕 須恵器	①13.4, ②6.5, ③9.0	①チャート粒②礫化焰③淡黃 色④3/4	輪轂調整。口縁部：内凹。高台 部：回転糸切り。長く「ハ」の字 に開く。	
104	H-29-埋	羽釜 須恵器	① [22.7], ②-, ③-	①灰色岩片粒②還元焰③灰白 色④1/10	輪轂調整。	
105	H-29-埋	楕 灰陶陶器	①-, ②-, ③8.0	①織密②良好③灰白色④2/3	三日月高台	
106	H-29-埋	皿 青磁	① [16.0], ②-, ③-	①織密②良好・堅密③淡緑色 ④1/8		
107	H-30-埋	夷 土器	①19.7, ②-, ③-	①角丸・球状黒褐色粒（φ1 mm大）やや目立つ②礫化焰良 好③にぼい褐色④4/5	口縁部：外反、横握で。肩部： 削り。	
108	H-30-埋	長颈甌 土器	①21.3, ②37.5, ③5.3	①②礫化焰③淡黄褐色④1/1	口縁部：外反、横握で。肩部： 削り。	
109	H-30-埋	夷 土器	①20.8, ② [32.4], ③-	①石英砂粒を含む②礫化焰③ にぼい褐色④4/5		
110	H-30-埋	女瓦	長さ-, 幅-, 厚さ23	①細砂粒②礫化焰③にぼい黃 褐色④	凸面撫で。印き文字。側部面取 り3個。	印き文字 「山田」
111	H-31-埋	小形体 土器	① [8.5], ②7.0, ③4.2	①片岩粒3、石英粒②褐泥元 不良③灰白色④1/1	口縁部：短く外反。肩上半部： 輪轂調整。下半前面削り。	高台はがれ
112	H-31-床	楕 須恵器	①12.7, ②5.3, ③6.8	①石英微粒②礫化焰③褐色④ 1/1	輪轂調整。口縁部：外反。断面 三角形の低高台	
113	H-31-床	楕 灰陶陶器	①15.1, ②5.0, ③6.3	①織密②還元焰③淡黄色④2/3	三日月高台	
114	H-31-床	長颈甌 灰陶陶器	①-, ②-, ③6.7	①織密②還元焰③灰褐色④1/1	短い高台	
115	H-31-電	女瓦	長さ37.3、幅26.0、厚さ2.0	①②還元不良③灰色④-		
116	H-31-埋	紡錘車 銅製品	全長：18.5円錐径：5.3円錐厚さ：0.2基部厚さ：0.5重さ： 44.89 g			
117	H-31-埋	釘 銅製品	全長：5.4幅：0.8厚さ：0.5重さ：10.46 g			

番号	遺物番号	器種	①口径②器高③底径	④胎土⑤焼成⑥色調⑦遺存度	特徴	備考
118	H-31-埋	新 鉄製品	全長：6.0幅：0.8厚さ：0.5重さ：7.94g			
119	H-32-埋	鉄斧 鉄製品	全长9.0：刃部幅4.5：厚さ：0.7重さ：163.44g		曲刃。	
120	H-33-床	輪 須恵器	①16.0, ②6.2, ③8.0	①瓦石粒・チャート粒②透光 窓灰白色④ぼかし形	輪縁調整。口縁部：外反。高台： 新面透三角形の付け高台。	
121	H-33-床	輪 須恵器	① [16.5], ②6.8, ③7.3	①瓦石を含む微砂粒②透光窓 灰白色④1/3	輪縁調整。口縁部：外反。高台： 内底面に黒記号「×」	
122	H-33-床	輪 須恵器	① [14.0], ②6.1, ③7.0	①長石粒、灰色岩片②透光窓 やや青白③オリーブ灰白色④2/3	輪縁調整。口縁部：内擱。高台： 付け高台で外側に短く聞く。	
123	H-34-埋	新 鉄製品	全長：6.5幅：1.3厚さ：1.0重さ：8.14g			
124	H-35-埋	垂壺 鉄製陶器	① [20.0], ②-, ③ [7.6]	①鐵器、小気泡②良好③オリーブ灰白色④1/6	口縁部：外反。	
125	H-35-埋	鉄壺 鉄製品	全長：7.7腹身部長：1.6腹身部幅1.2：厚さ：0.2重さ：10.20g			
126	H-37-床	壺 土師器	①13.7, ②18.0, ③5.3	①細砂粒②酸化焰③明褐灰色 ④		
127	H-39-埋	壺 須恵器	① [12.3], ②4.1, ③5.1	①チャート粒（φ1mm大）②酸 化焰③にぼい黄色④2/3	輪縁調整。口縁部：外反。底 部：圓板糸切り。	
128	H-40-埋	竹筒 土師器	① [14.6], ②-, ③-	①チャート・角丸繊維少量②酸 化焰③にぼい黄色④1/3	口縁部：S字状口縁。底部外面 ハケ目。内面磨す。	
129	H-42-埋	輪 須恵器	① [14.2], ②4.5, ③5.3	①黒褐色②透光窓③灰白色④ 3/5	輪縁調整。口縁部：外傾。	高台削れ。
130	H-42-床	輪 須恵器	①16.7, ②5.8, ③8.3	①黒褐色粒・陶薄地②透光窓 ③灰白色④4/5	輪縁調整。口縁部：外反。新面 三角形の高台。	
131	H-42-床	輪 須恵器	①15.0, ②6.8, ③6.8	①長石・黄瓦繊維②未透光③ 灰白色④2/3	輪縁調整。口縁部：外反。低高 台。	重ね焼痕
132	H-42-床	輪 須恵器	① [12.9], ②4.7, ③7.1	①チャート・角丸繊維②透 光やや青白③灰白色④1/3	輪縁調整。口縁部：外反。低高 台で外傾。	
133	H-43-埋	粉砂岩 石製品	径：5.3厚さ：1.7孔径：1.0重さ：66.07g			
134	H-44-埋	輪 須恵器	① [16.0], ②6.6, ③8.1	①細砂粒②酸化焰③橙色④1/2	輪縁調整。口縁部：外反。	
135	H-44-床	高台付 輪 須恵器	①-, ②, ③- [17.5]	①チャート粒・砂粒②酸化焰 ③にぼい橙色④高台部片	輪縁調整。脚部：長く「ハ」の 字に聞く。	
136	H-44-埋	不明陶製品	全長：幅：厚さ：重さ：11.93g			
137	H-45-埋	壺 須恵器	①11.6, ②3.9, ③5.0	①チャート・角丸窓（4mm大） ②酸化焰③にぼい橙色④2/3	輪縁調整。口縁部：外傾。底部 圓板糸切り離し。	
138	H-45-埋	壺 須恵器	①10.1, ②3.4, ③4.0	①チャート・橙色粒（2mm以下） 石英・輝石？を含む微粒多量	輪縁調整。口縁部：外傾。底部 圓板糸切り離し。	
139	H-45-埋	壺 須恵器	①11.0, ②2.7, ③7.0	①チャート粒②酸化焰③橙色 ④1/1	輪縁調整。口縁部：外傾。高台 「ハ」の字に聞く。	
140	H-45-埋	羽釜 須恵器	① [19.9], ②-, ③-	①片岩粒②透光窓③灰黃褐色 ④口縫然粒		
141	H-47-床	壺 土師器	①12.0, ②4.5, ③-	①石英を含む微粒多量②酸 化焰③にぼい黄色④1/1	口縁部：直立、体部との境に稜を 有す。体～底部：荒削り。丸底。	黒色土器
142	H-47-埋	盤瓦	①, ②, ③厚さ1.8	①片岩小粒、白色鞋石細粒。 ②透光、良好③灰白色④	単引5葉蓮華文。中房子業は 1+5。	
143	H-48-埋	白玉 石製品	径：1.1厚さ：0.5孔径：0.3重さ：0.91g		滑石製	
144	H-50-床	壺 土師器	①16.7, ②26.0, ③5.5	①石英を含む微粒②酸化焰 ③にぼい黄褐色④1/1	口縁部：外反。胴部：外面前り 後揚で。下端荒削り。底部：木 業痕。	
145	H-51-床	壺 土師器	①11.4, ②12.0, ③-	①白色粒や角石？等を含む細 砂粒多量②酸化焰③橙色④1/1	口縁部：短く外傾。胴部：崩き。	
146	H-51-床	瓶 土師器	① [23.0], ②27.0, ③9.8	①細砂粒多量②酸化焰③橙色 ④2/3	口縁部：短く外反。胴部：削り。	
147	H-52-床	壺 須恵器	①11.4, ②5.0, ③4.9	①チャート粒（4mm大）板少量 ②中間焰③にぼい灰白色④2/3	輪縁調整。口縁部：外反。底 部：圓板糸切り。	
148	H-52-床	壺 須恵器	①13.6, ②6.1, ③7.2	①長石主体の微粒粒多量②透 光窓③灰白色④1/1	付け高台で外側に短く聞く。	
149	H-52-床	壺 須恵器	①14.2, ②5.8, ③6.2	①黒褐色スコリア粒（φ3mm大） ②透光窓③灰白色④1/1	輪縁調整。口縁部：外反。高台 で付け高台で短い。	体部外面に 墨書き「亞」

番号	遺構番号	器種	①口径②器高③底径	④胎土⑤焼成⑥色調⑦造形度	特徴	備考
150	H-52-床	碗 須恵器	①13.9, ②5.4, ③6.3	①石英砂粒多量②墨元燒③灰 色④2/3	輪縁調整。口縁部：外反。高台： 付け高台で短い。	
151	H-55-埋	杯 土師器	①11.9, ②4.3, ③-	①チャート・長石②酸化焰良 好③橙色④1/1	口縁部：外反、横椭で。体部～ 底部：削り。丸底。	
152	H-56-床	小型甕 土師器	①11.9, ②4.3, ③6.0	①細砂粒多量②墨元燒③灰褐色 ④		
153	H-58-埋	壺 須恵器	①17.0, ②2.5, ③溝み往4.9	①黒色釉②墨元燒③灰白色④ 3/4		軸用窓
154	D-10-埋	椀 須恵器	①15.2, ②5.2, ③7.2	①細砂粒多量②酸化焰③にぶ い黄褐色④9/10	輪縁調整。口縁部：内湾気味に 外傾。高台：付け高台で外側に 開く。	
155	D-10-埋	椀 須恵器	① [14.4], ②6.2, ③7.8	①輝石か角閃石微粒を含んだ 微粒多量②墨元燒③淡黄色 ④3/4	輪縁調整。口縁部：内湾。体 部：内面黒色處理。毫毛。高 台：付け高台で外側に開く。	
156	W-2-埋	灯明瓶 土師質土器	①10.9, ②1.7, ③5.6	①細粒中量②酸化焰③橙色④ 1/1	口縁部：外傾。底部：斜軸糸切 り。平底。	
157	遺構外	碗 綠胎陶器	① [12.0], ②-, ③-	①緻密、軟質②良好③浅黄色 ④1/8	口縁部片	
158	遺構外	皿 綠胎陶器	① [16.0], ②-, ③-	①緻密、軟質②良好③綠～オ リーブ黃色④1/8	口縁部片	被熱痕
159	遺構外	托 綠胎陶器	① [14.0], ② [2.4], ③ [5.8]	①緻密、小気泡②弱い墨元③ 緑色④	低い三日月高台。内面に受け部 が付く。	被熱痕
160	遺構外	壺 須恵器	①-, ②-, ③-	①石英細粒極少量、灰色砂粒 板少量（チャートか）②堅硬 ③暗灰色④脚部片	脚部：上位に凸帯が認る。	
161	遺構外	鐵瓦	①直径17.0, ②, ③厚さ2.4	①石英・角閃石微粒②墨元燒 ③にぶい橙色④脚部片		
162	遺構外	土偶	①-, ②-, ③-	①石英・角閃石微粒②良好③ にぶい橙色④脚部片	脚部：刺突文。	
163	遺構外	深鉢 繩文土器	①-, ②-, ③-	①透明微粒（石英か）を含む 無砂粒②酸化焰③灰褐色④	魚鱗文。	

#### 引用文献

- 群馬県教育委員会・財群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988 「上野国分寺・尼寺中間地城(3)」  
 群馬県教育委員会・財群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990 「上野国分寺・尼寺中間地城(4)」  
 群馬県教育委員会・財群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991 「上野国分寺・尼寺中間地城(5)」  
 群馬県教育委員会・財群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992 「上野国分寺・尼寺中間地城(6)」  
 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000 「元総社小見遺跡」  
 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001 「元総社小見内Ⅲ遺跡」

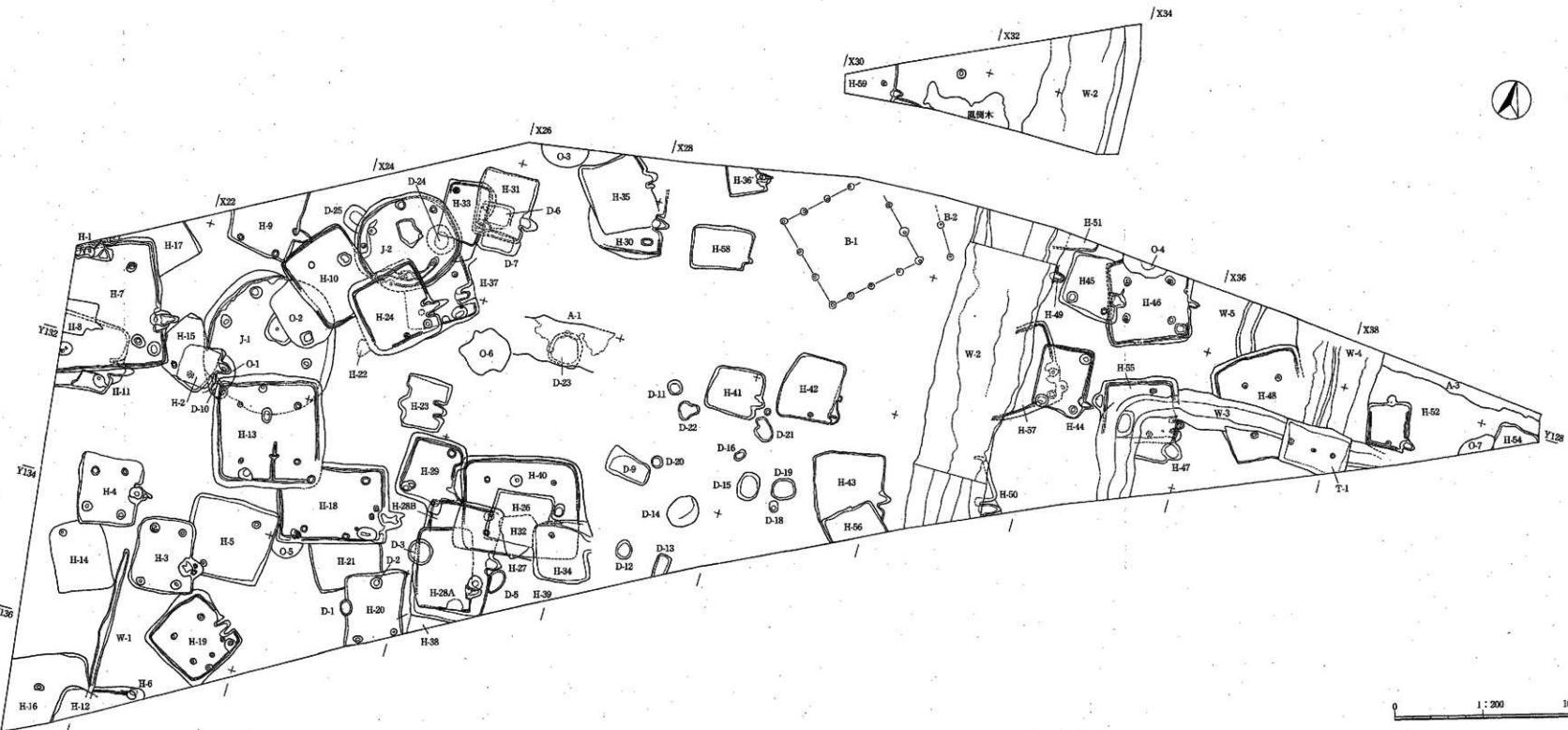
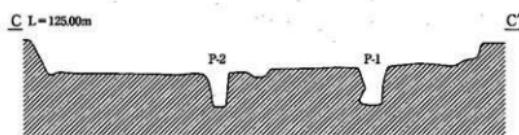
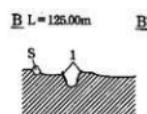
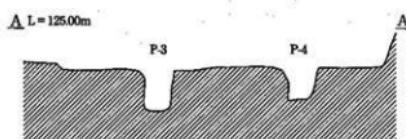
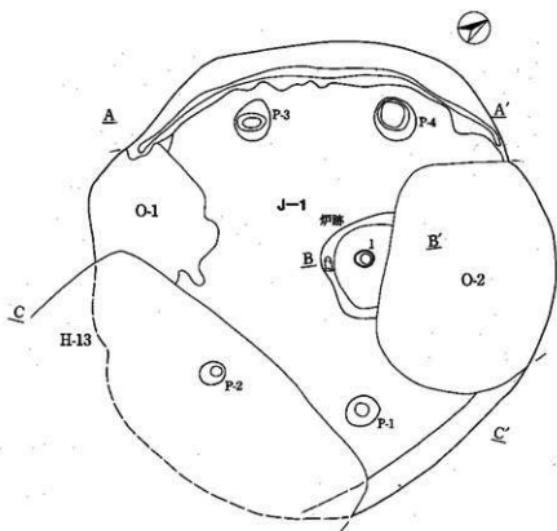


Fig. 7 元経寺小見 II 進跡全体図

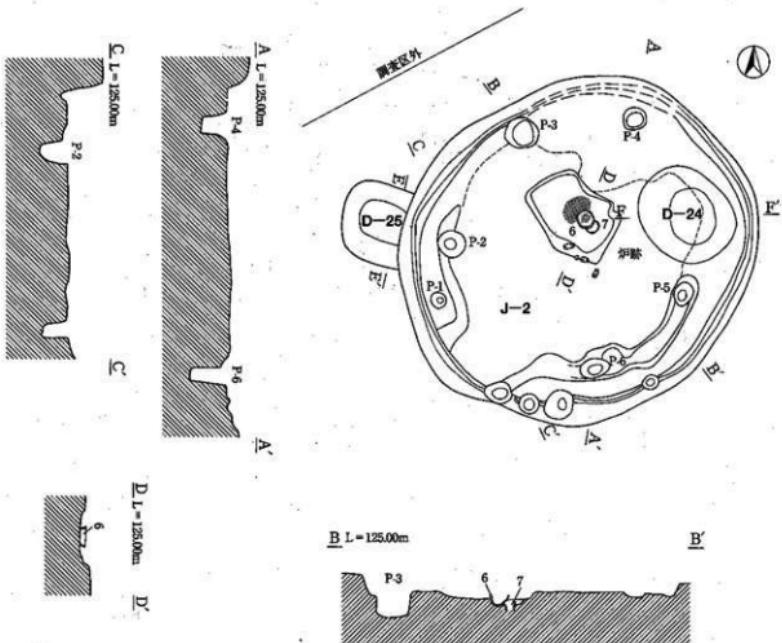


J-1号住居跡 柱穴・土坑剖面表 (単位:m)

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.55	0.51	0.63
P-2	0.43	0.39	0.55
P-3	0.72	0.59	0.66
P-4	0.70	0.64	0.52

0 1:80 2m

Fig. 8 J-1号住居跡



J-2号住居跡・柱穴・土坑計測図 (単位:m)

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.25	0.25	0.27
P-2	0.45	0.42	0.45
P-3	0.54	0.50	0.43
P-4	0.40	0.37	0.44
P-5	0.40	0.31	0.26
P-6	0.49	0.33	0.66

D-25号土坑  
1 黒褐色土 白色粗粒中量含む。しまりあり。  
2 黑褐色土 白色粗粒中量含む。しまりあり。

D-24号土坑  
1 黑褐色土 粗石粒少量、小石(1~2cm)少量含む。褐色砂少量。  
2 黑褐色土 粗石粒少量、オレンジ色細粒を含む。黒くしまりあり。

0 1:80 2m

Fig. 9 J-2号住居跡

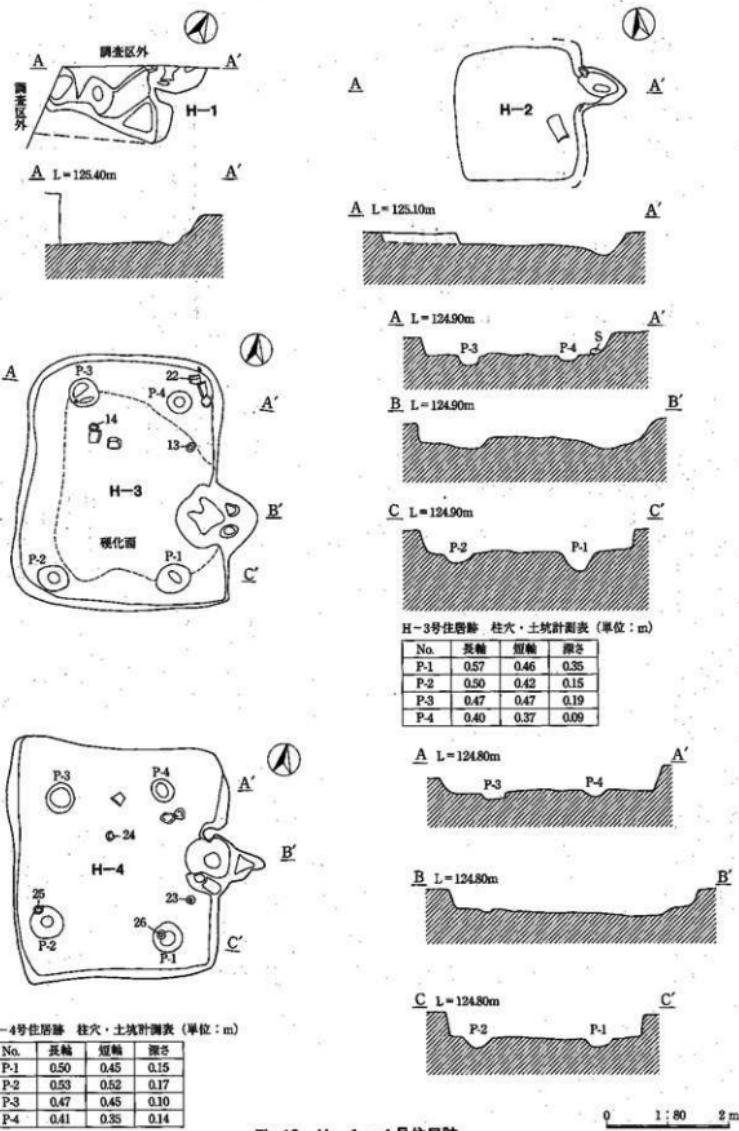
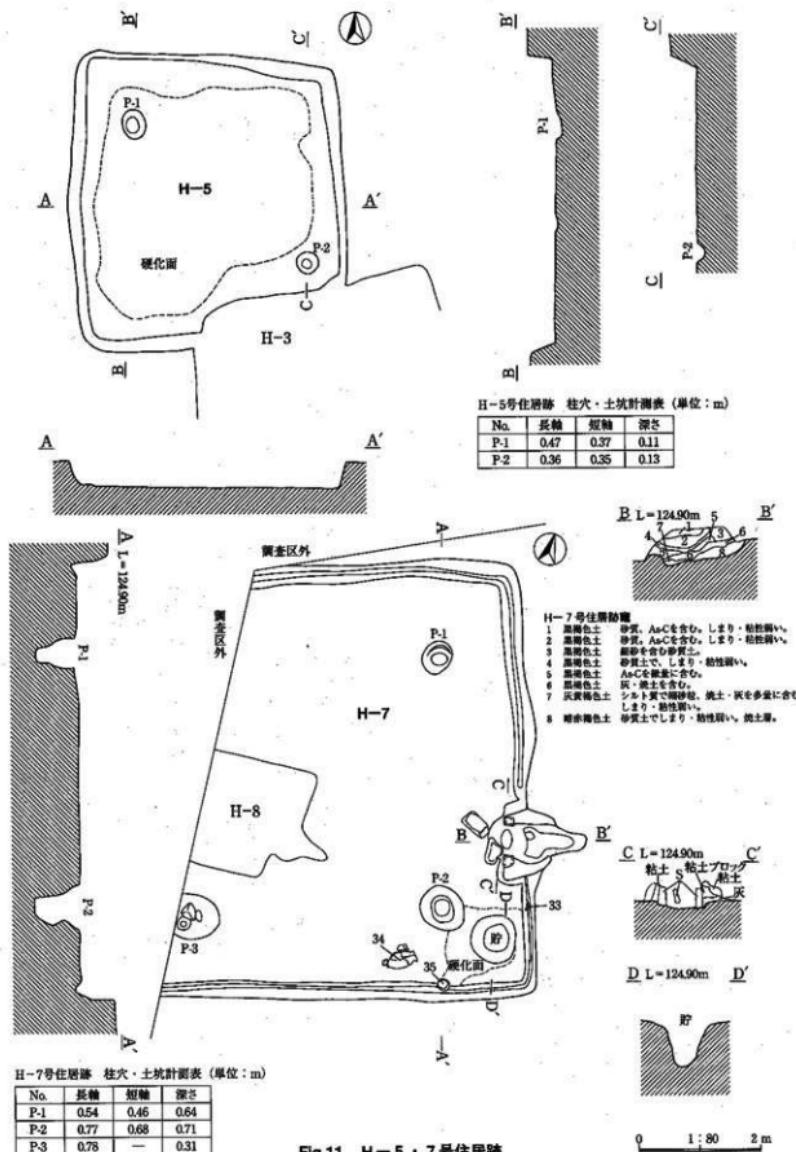


Fig.10 H-1 ~ 4号住居跡



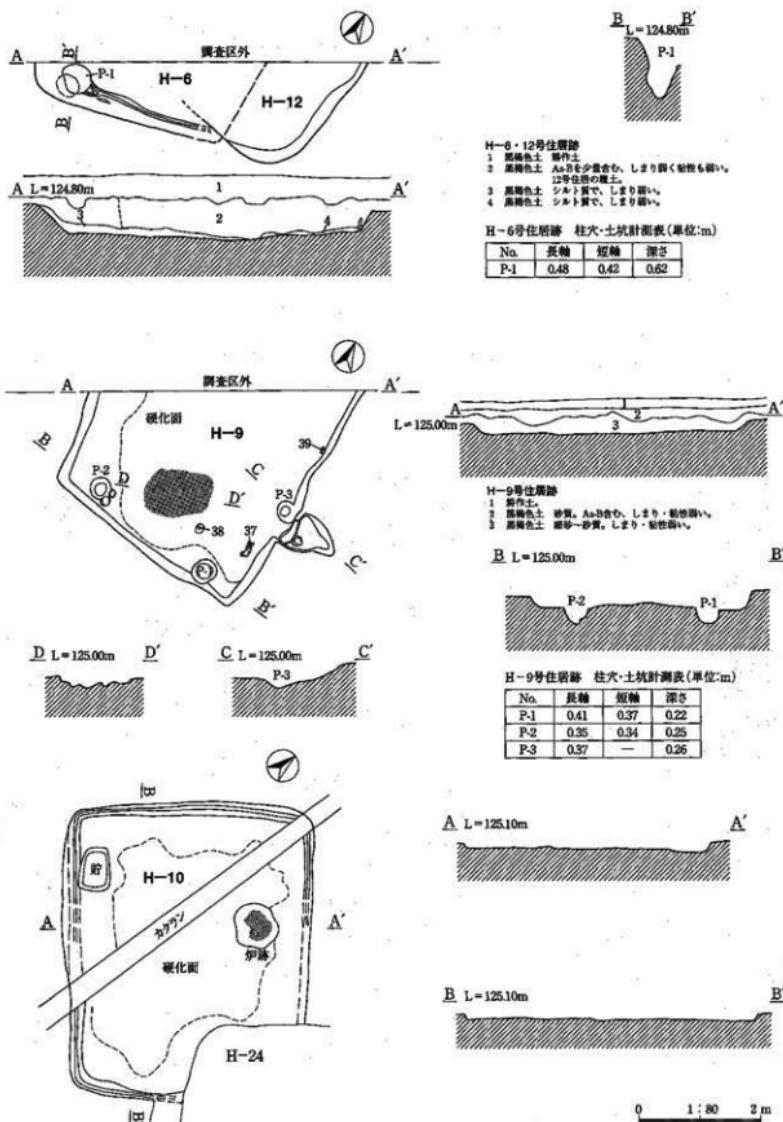


Fig.12 H-6・9・10・12号住居跡

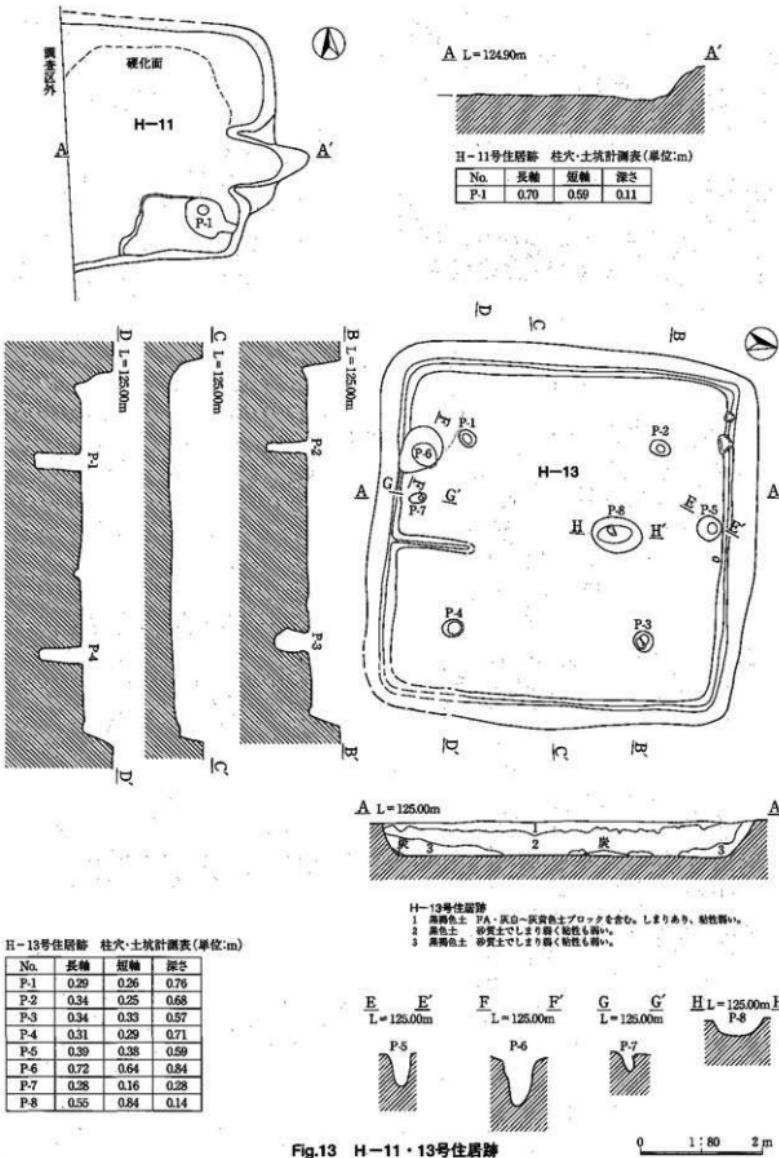
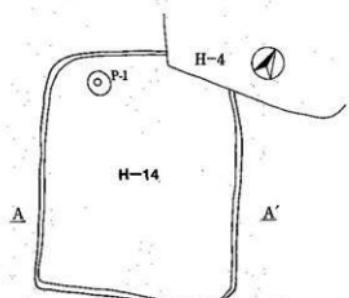
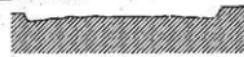


Fig.13 H-11・13号住居跡

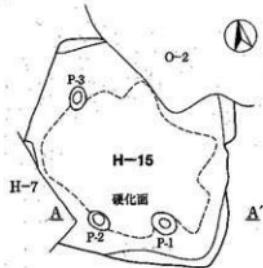


A L=124.80m A'



H-14号住居跡 柱穴・土坑計測表(単位:m)

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.41	0.35	0.13



A L=124.70m A'



H-15号住居跡 柱穴・土坑計測表(単位:m)

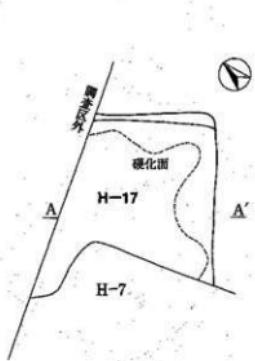
No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.42	0.34	0.12
P-2	0.32	0.30	0.18
P-3	0.37	0.20	0.16



A L=124.80m A'

H-16号住居跡 柱穴・土坑計測表(単位:m)

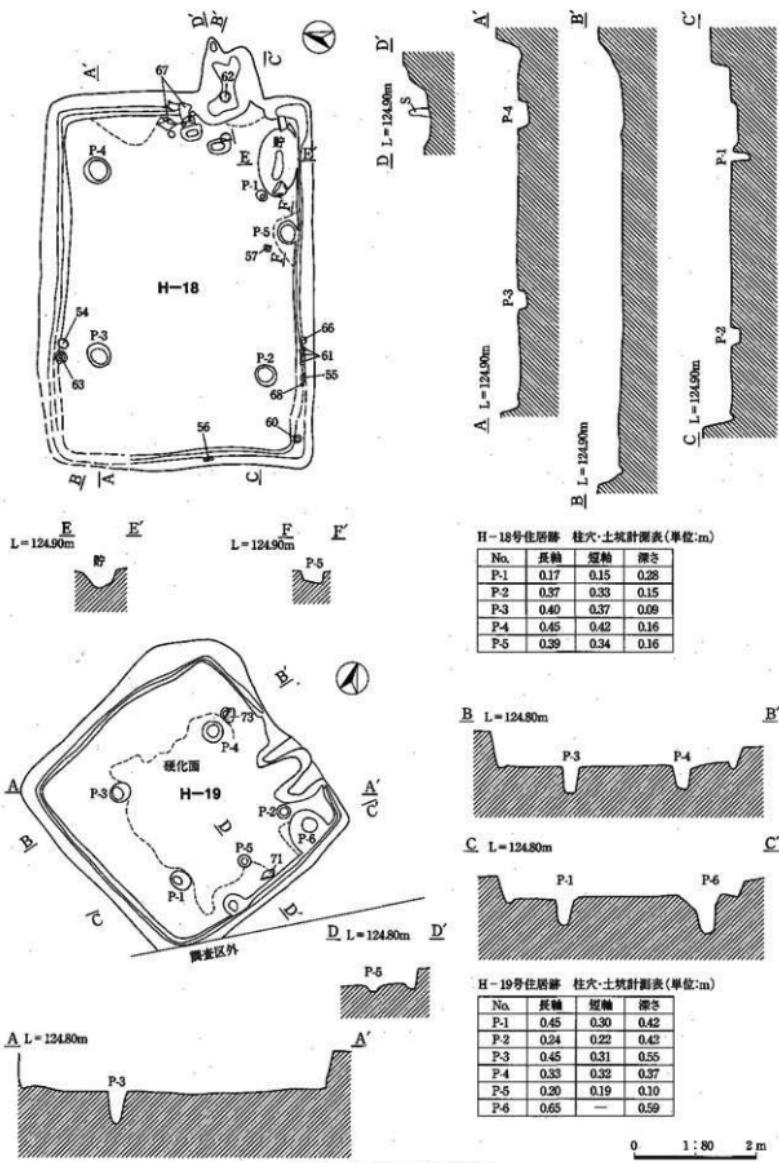
No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.56	0.30	0.07



A L=124.90m A'

0 1:80 2 m

Fig.14 H-14~17号住居跡



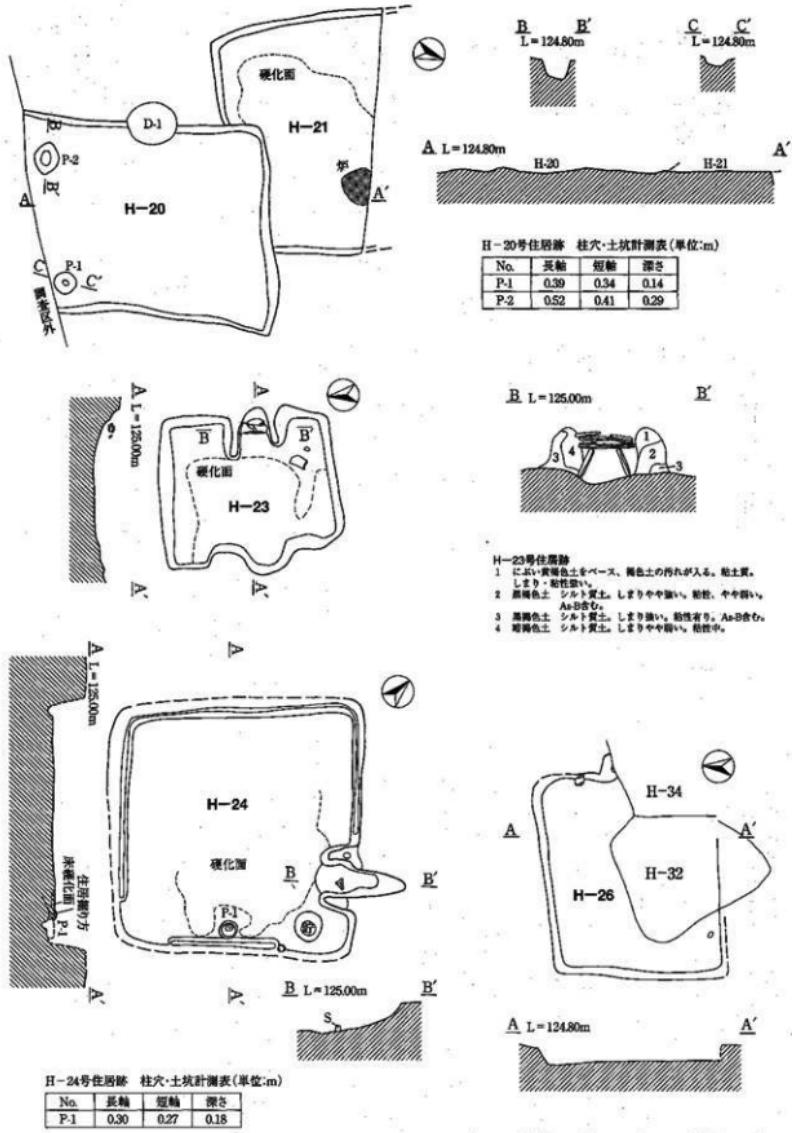


Fig.16 H-20・21・23・24・26号住居跡

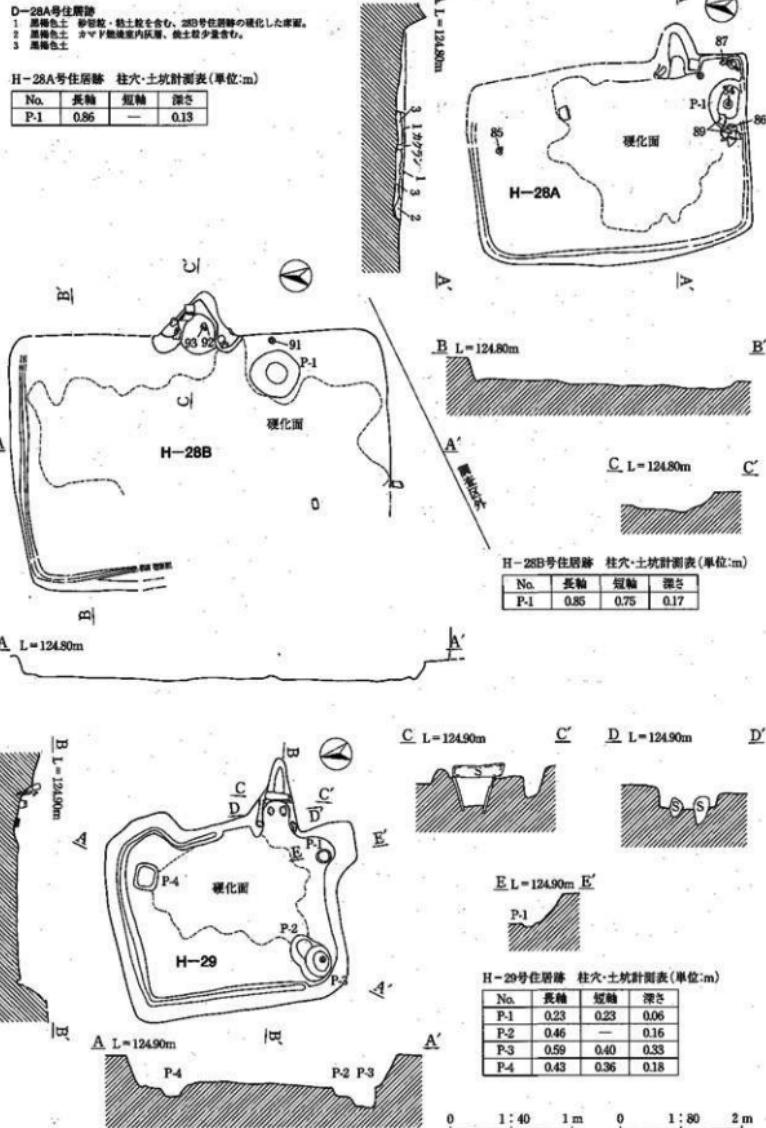


Fig.17 H-28A・28B・29号住居跡

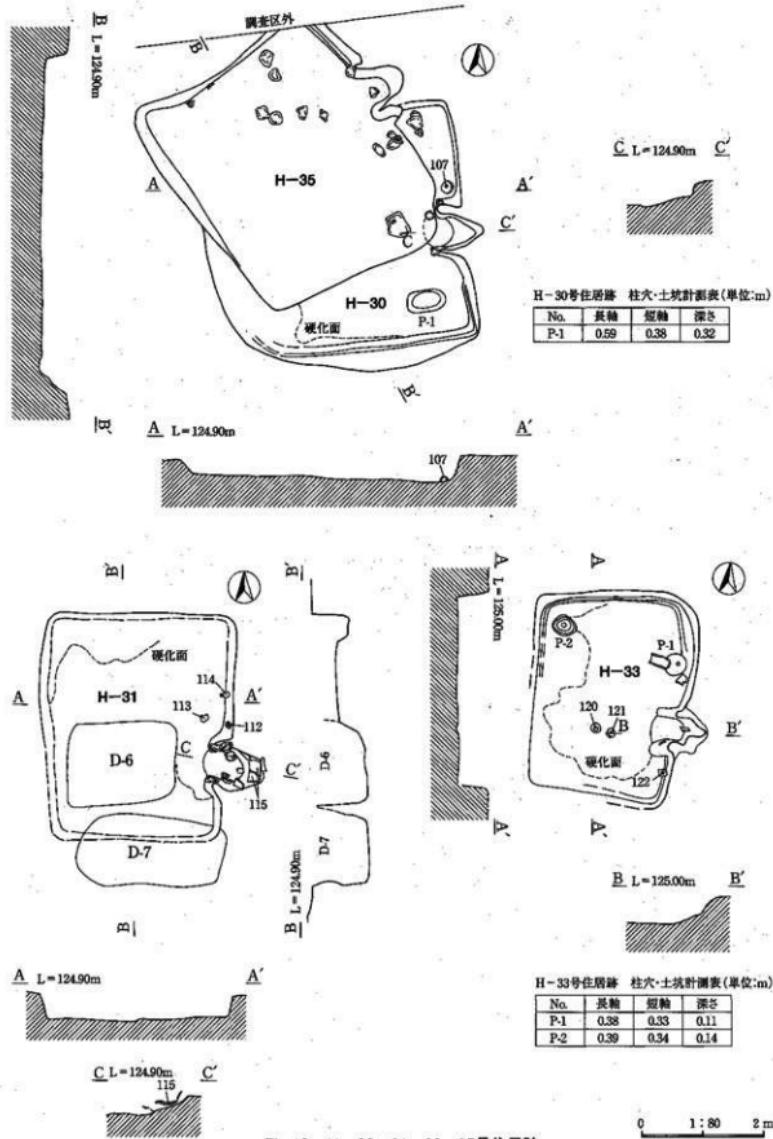


Fig.18 H-30・31・33・35号住居跡

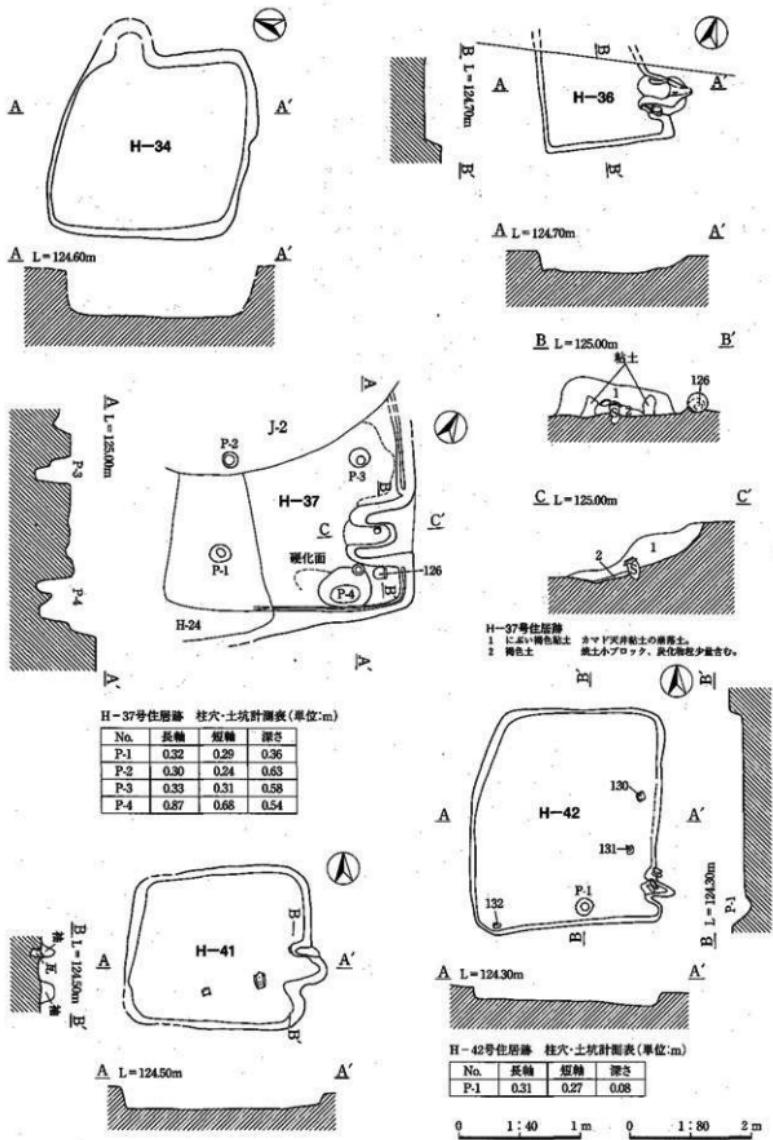


Fig.19 H-34・36・37・41・42号住居跡

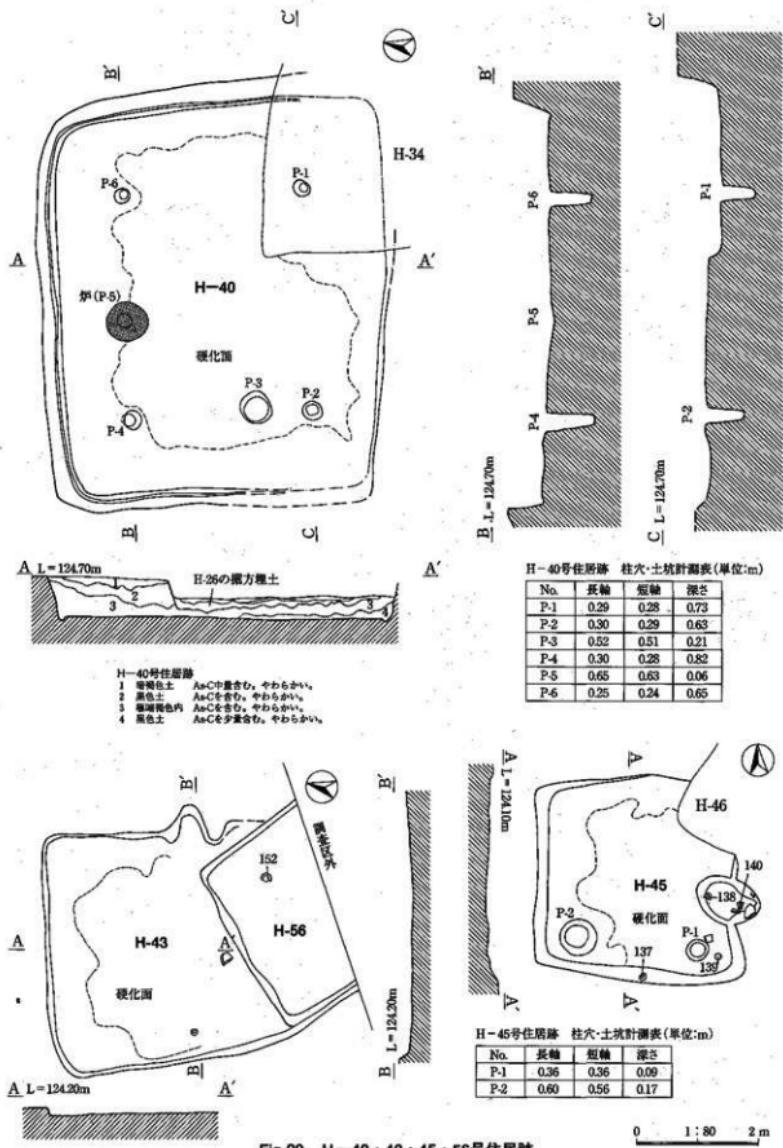
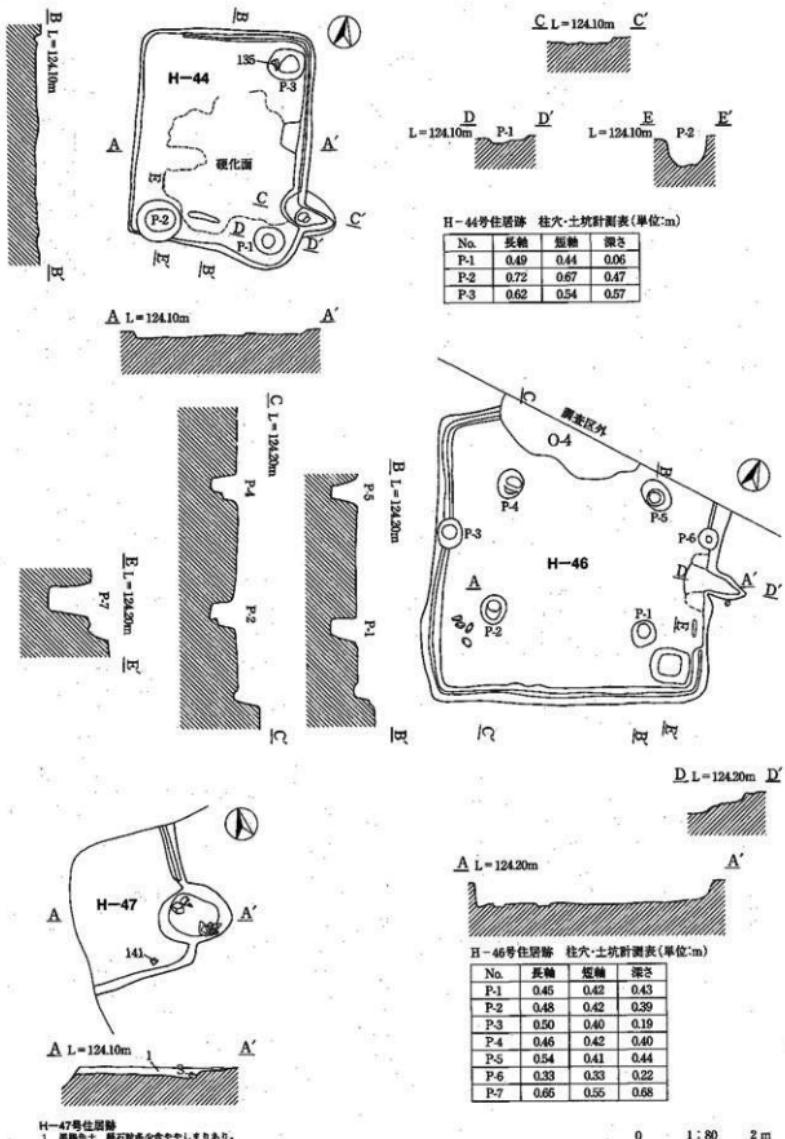


Fig.20 H-40・43・45・56号住居跡



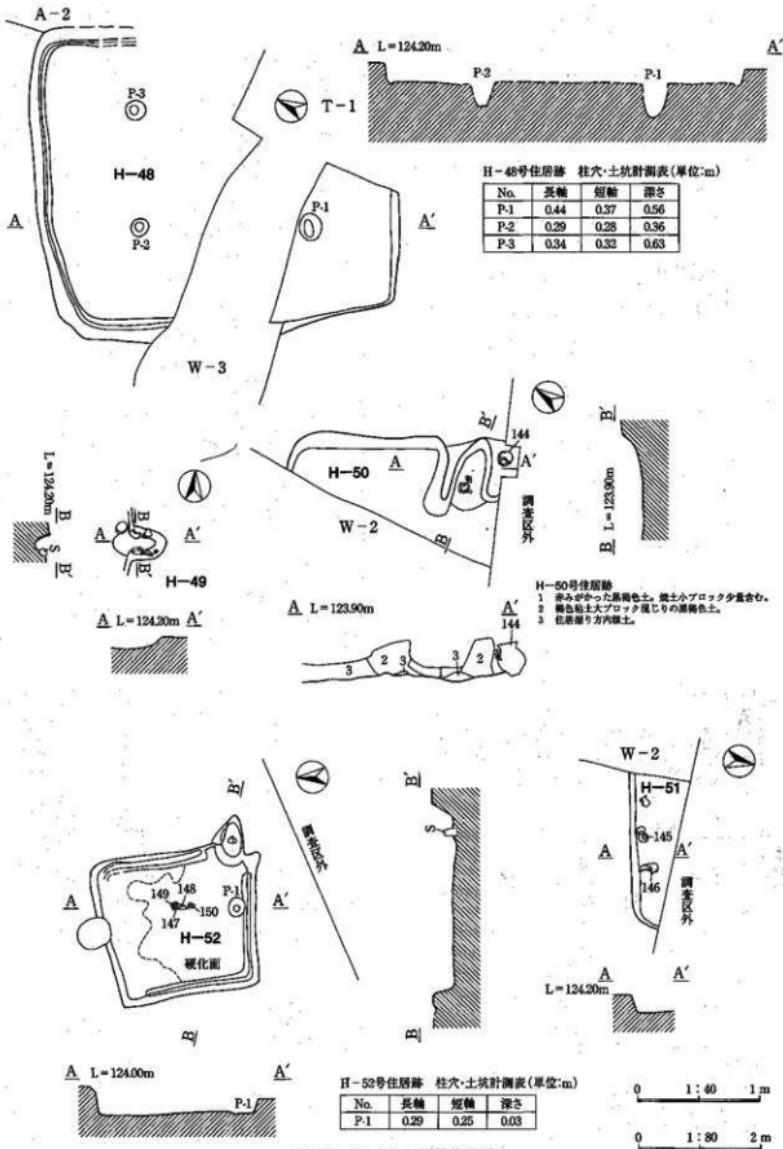
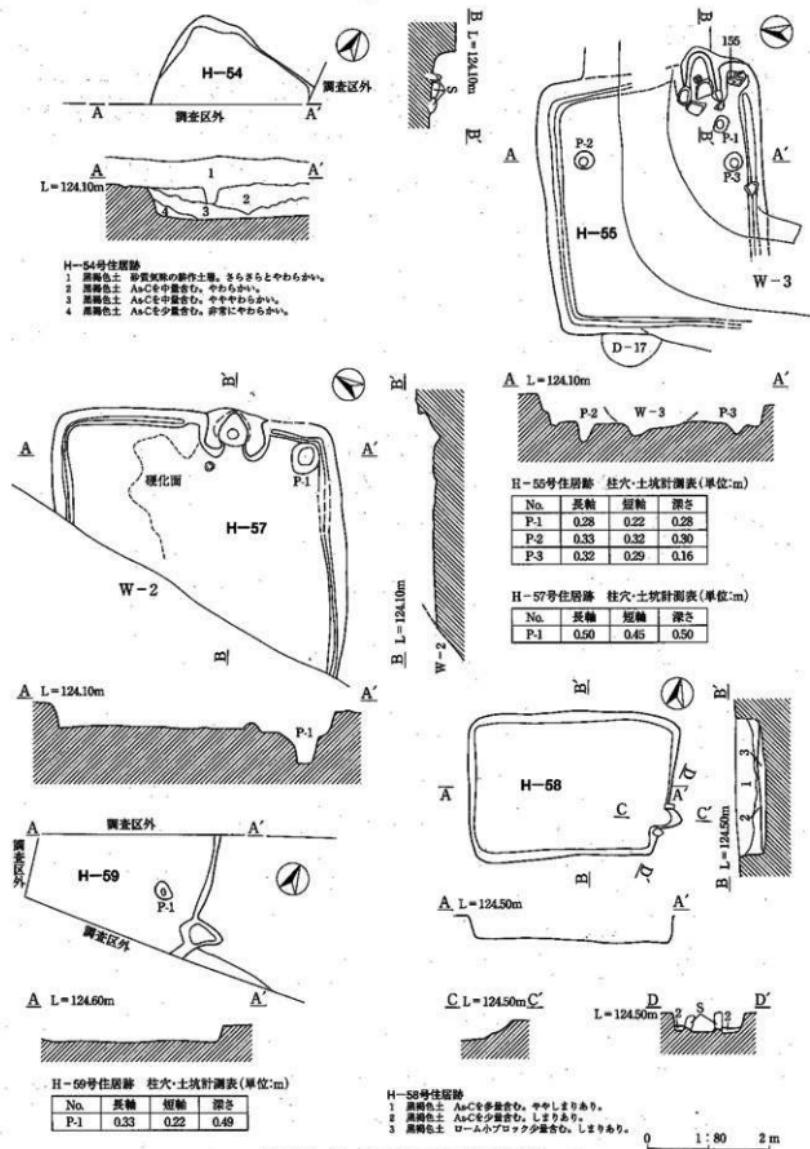


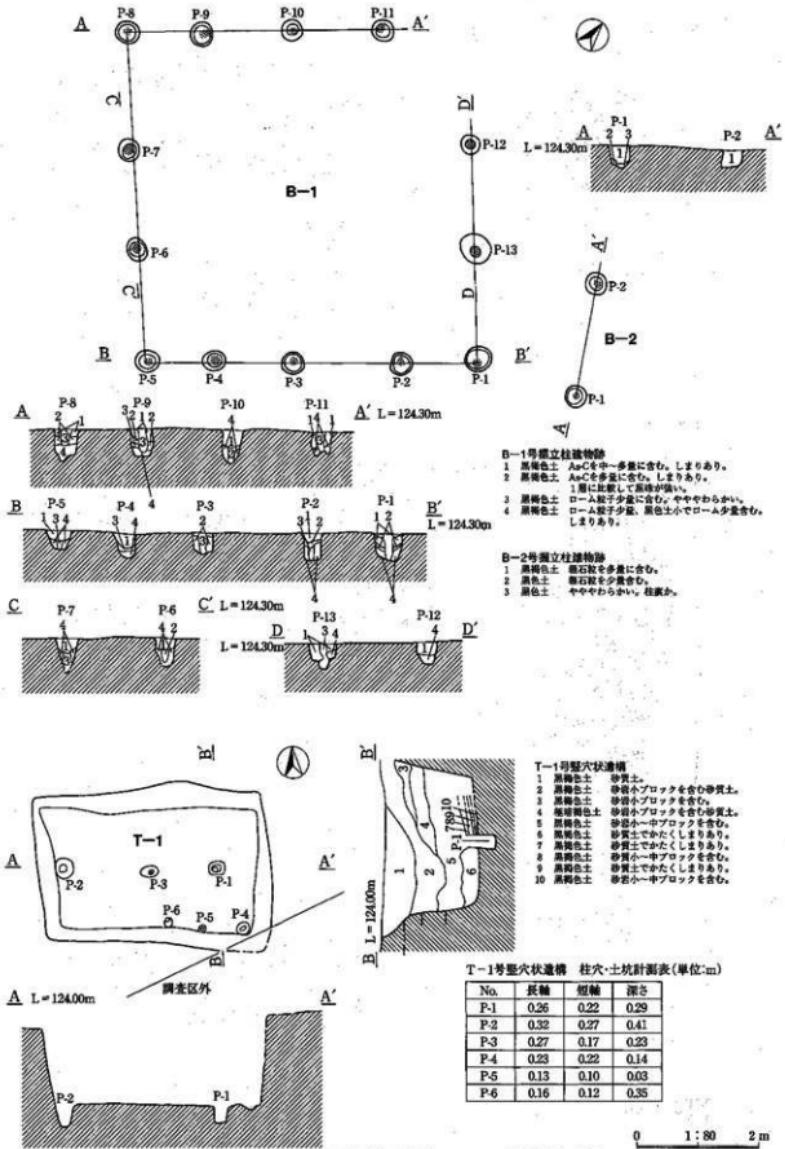
Fig.22 H-48~52号住居跡

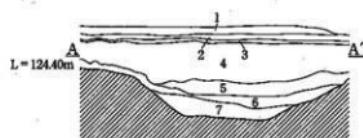
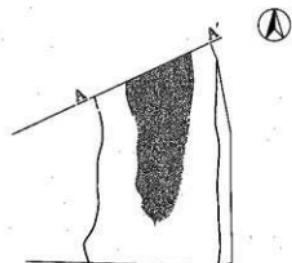


H-59号住居跡  
 1 黒褐色土 As-Cを多量含む。やわらかさあり。  
 2 黒褐色土 As-Cを少量含む。しまりあり。  
 3 黑褐色土 ローム小ブロック少量含む。しまりあり。

0 1:80 2 m

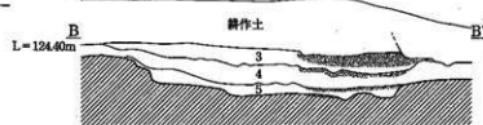
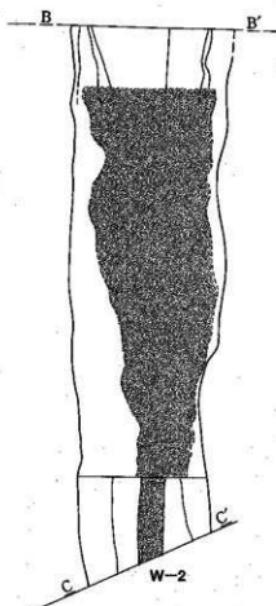
Fig.23 H-54・55・57～59号住居跡





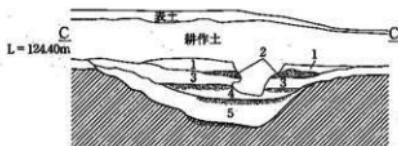
W-2号溝 (A-A')

- 1 耕作土
- 2 木田色土
- 3 黒褐色土
- 4 馬鹿色土
- 5 馬鹿色土
- 6 細質土のうすい5枚の硬化層あり。非常にかたい。
- 7 黒褐色土 砂石少～中量、炭化物少々。やややわらかい。



W-2号溝 (B-B'・C-C')

- 1 馬鹿色土 炭化物鉱脈少々、礫石斑、Aa-Cを少量含む。
- 2 馬鹿色土 炭化物鉱脈少々、礫石斑、Aa-Cを多く含む。非常に硬くしまりあり。
- 3 馬鹿色土 炭化物鉱脈少々、礫石斑、Aa-Cを多く含む上層面硬化。硬ややわらかい。
- 4 馬鹿色土 炭化物鉱脈少々、礫石斑。(Aa層) 中堅含む。
- 5 黒褐色土 砂質の黒褐色土、全体にしまりあり。



△ ...硬化面

Fig.25 W-2号溝跡

0	1:80	2m
0	1:160	4m

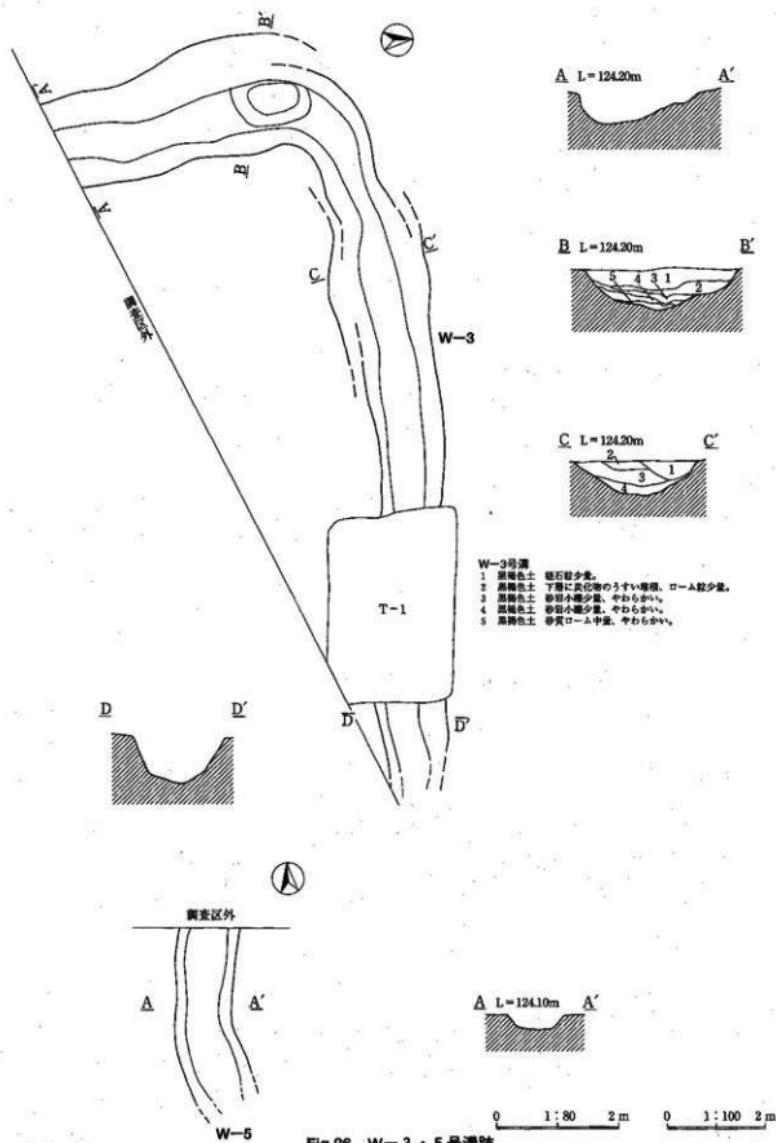
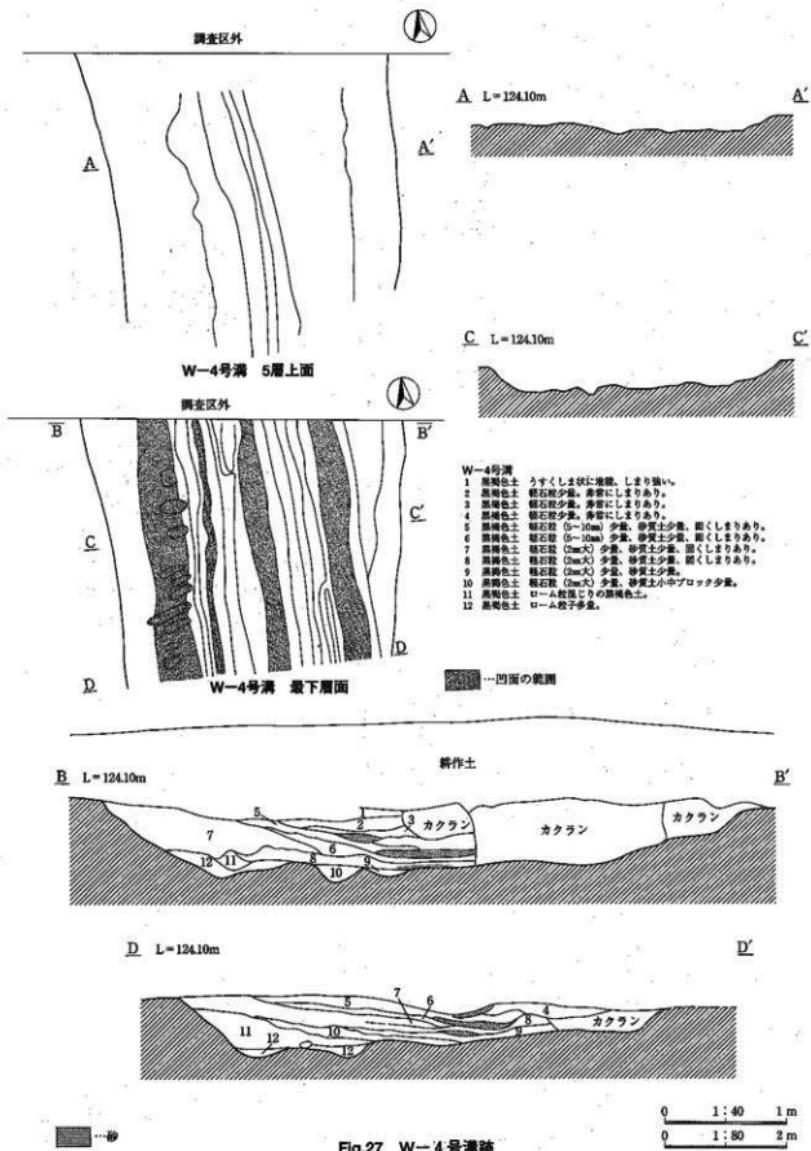


Fig.26 W-3・5号溝跡



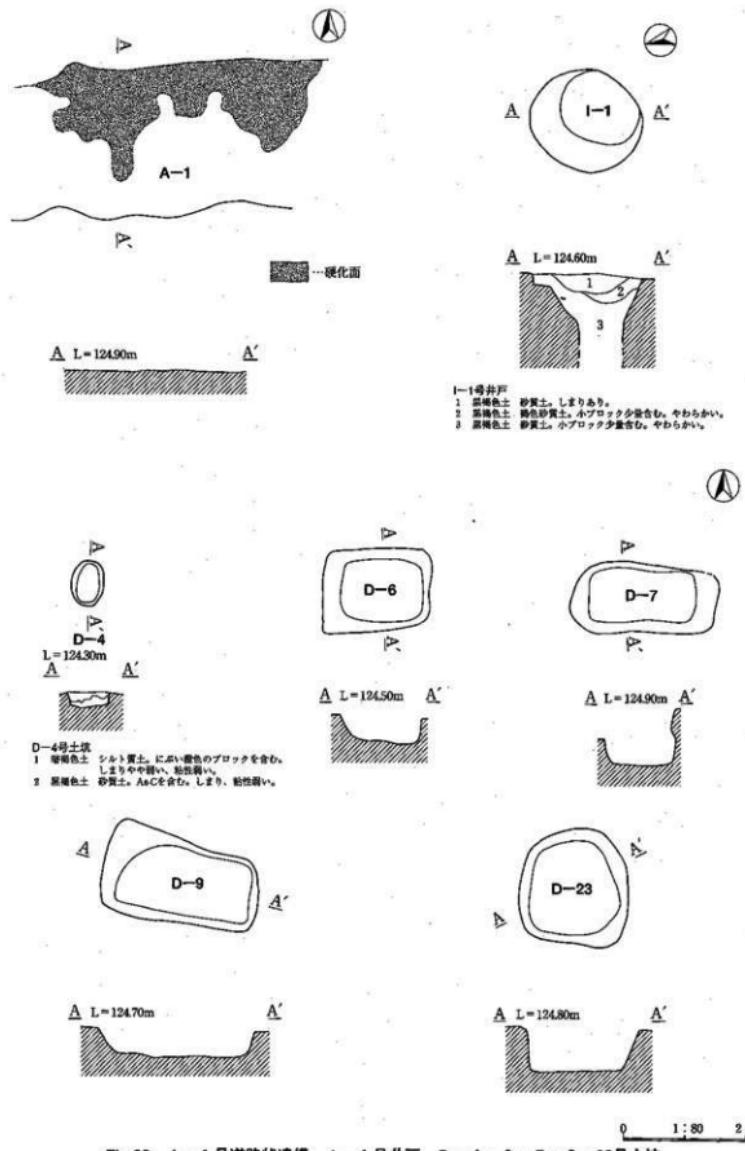


Fig.28 A-1号道路状造構、I-1号井戸、D-4・6・7・9・23号土坑

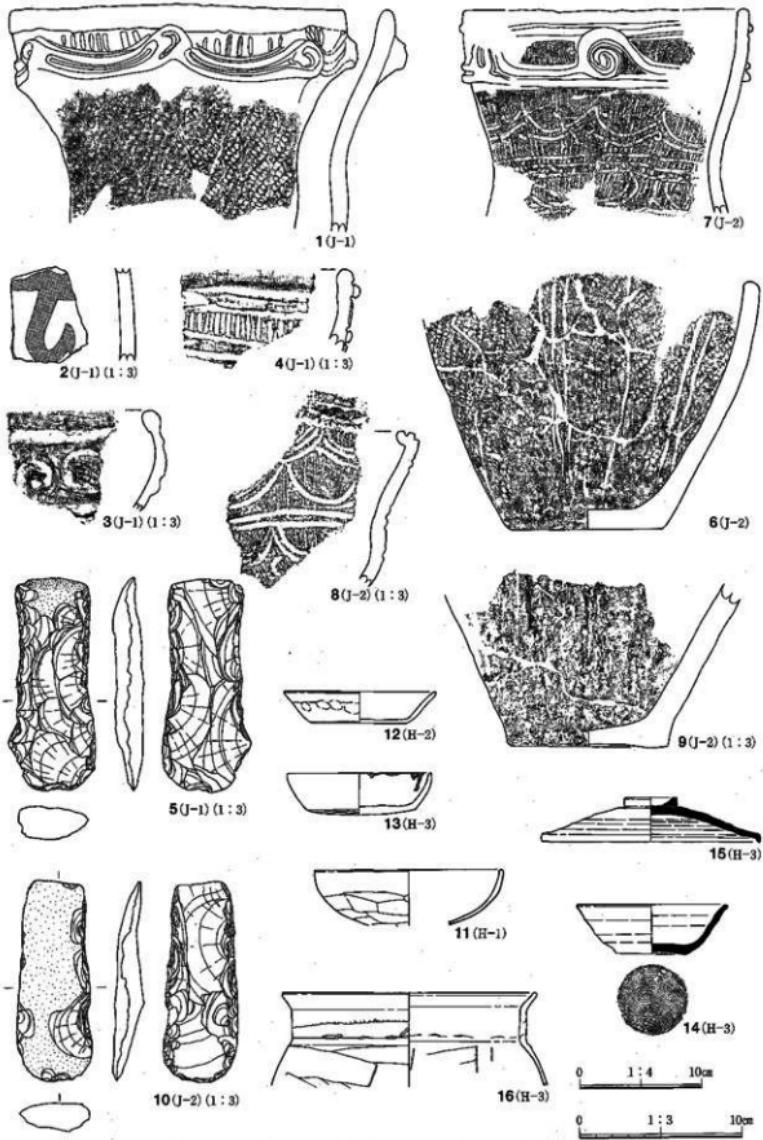


Fig.29 J-1~2号住居跡、H-1~3号住居跡出土遺物

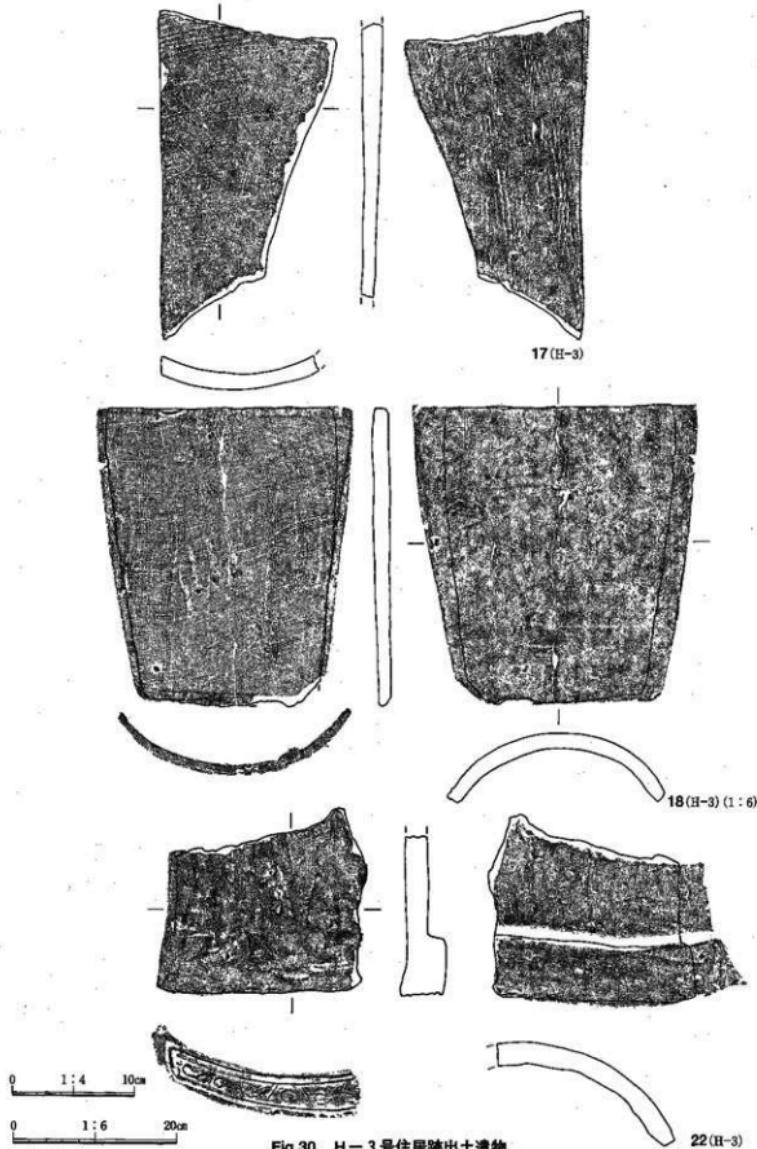


Fig.30 H-3号居住跡出土遺物

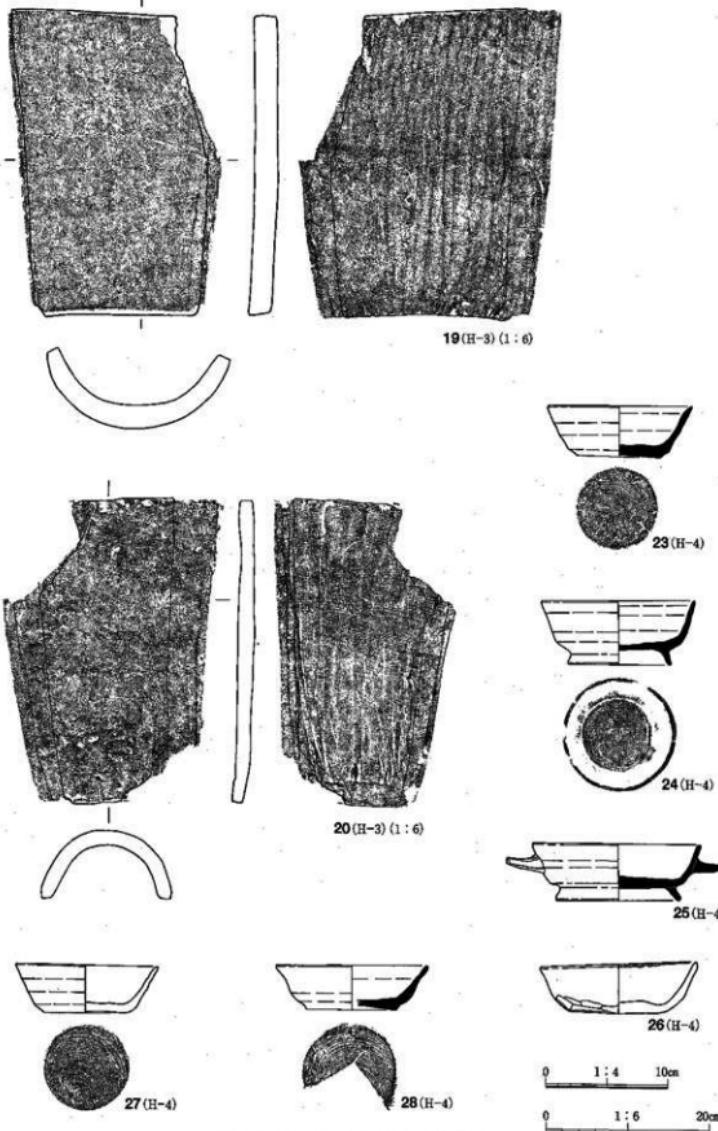


Fig.31 H-3・4号住居跡出土遺物

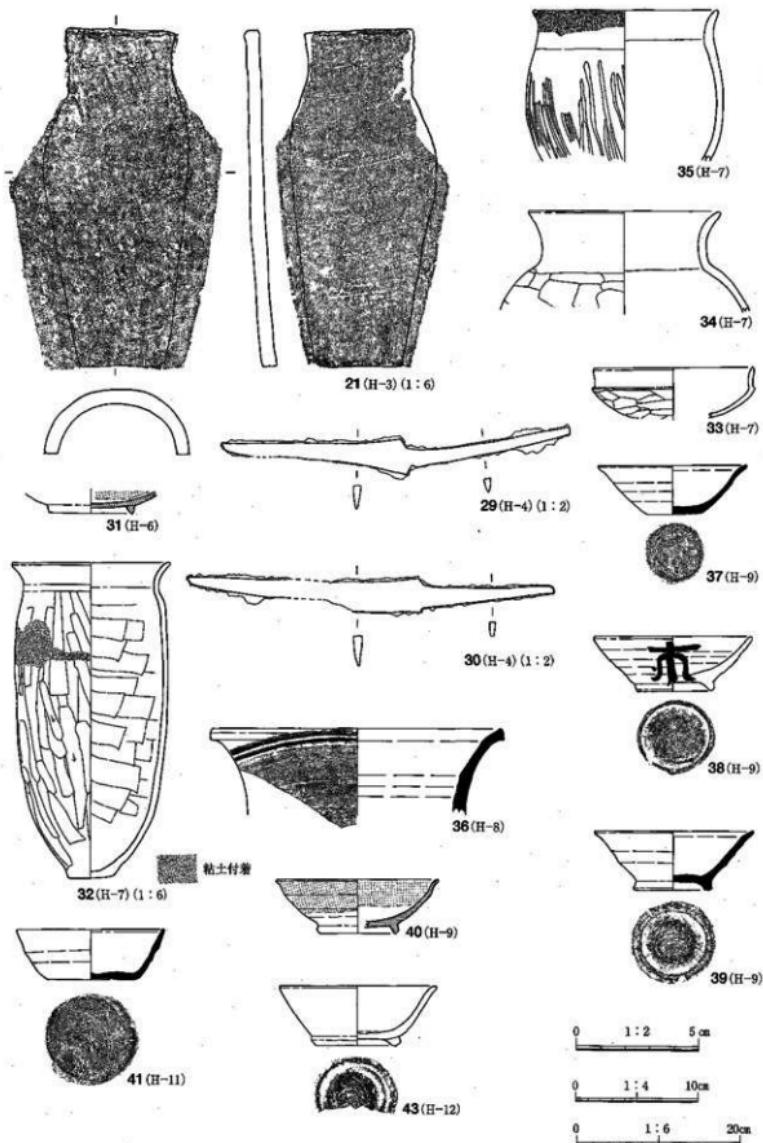


Fig.32 H-3・6～9・11・12号住居跡出土遺物

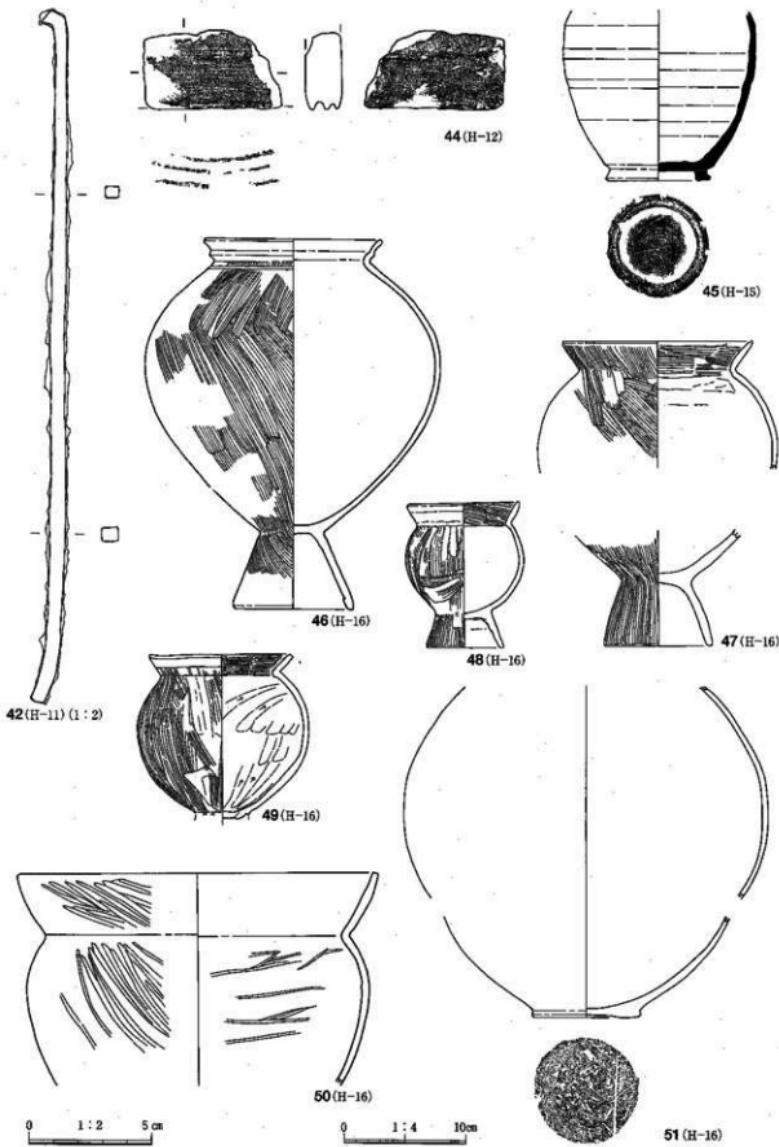


Fig.33 H-11·12·15·16号住居跡出土遺物

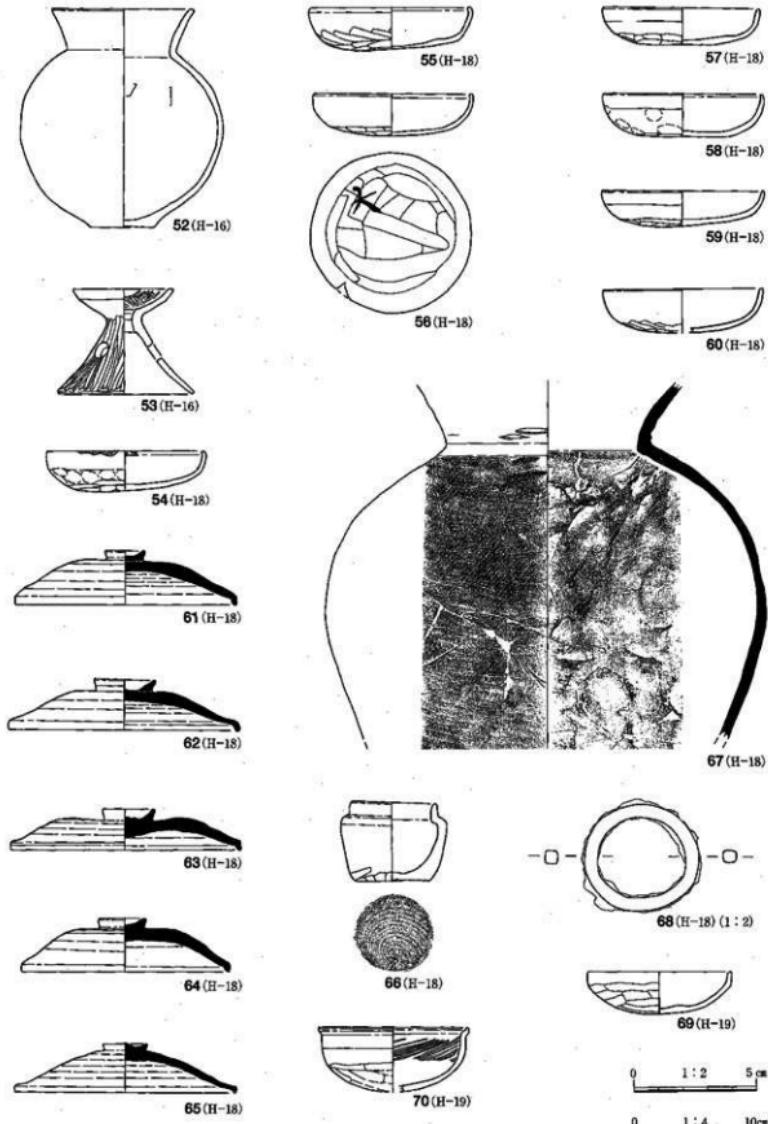


Fig.34 H-16·18·19号住居跡出土遺物

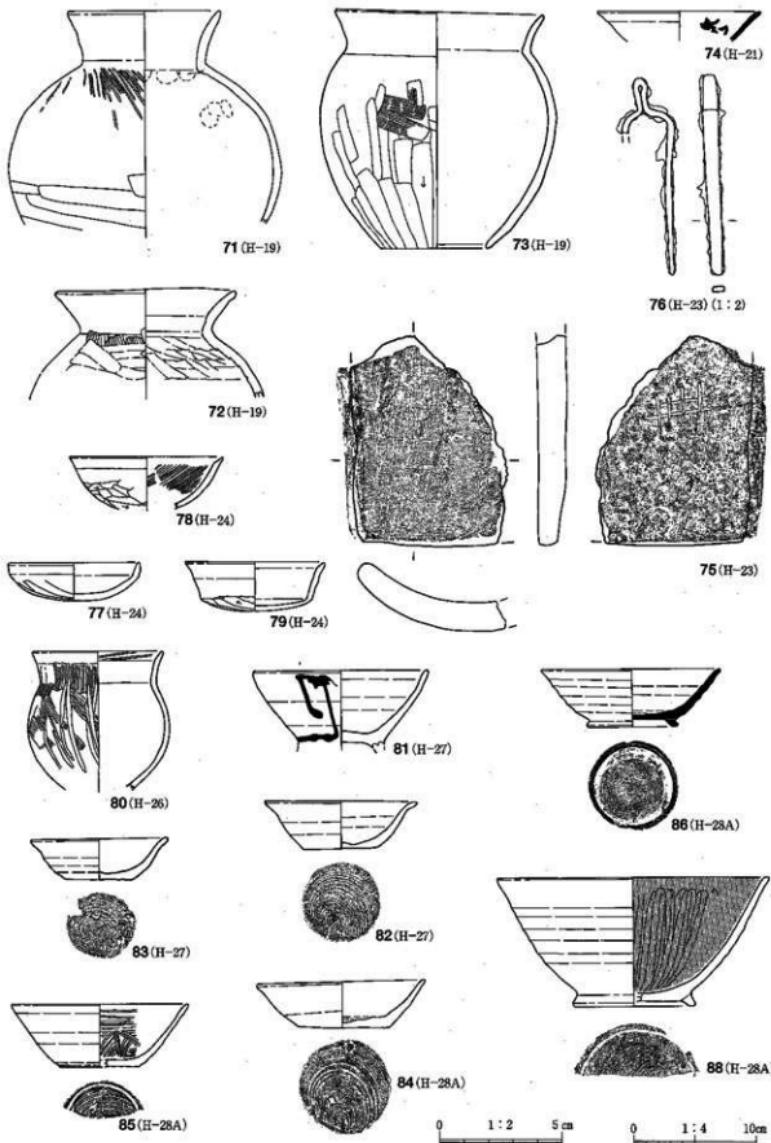


Fig.35 H-19・21・23・24・26～28A号住居跡出土遺物

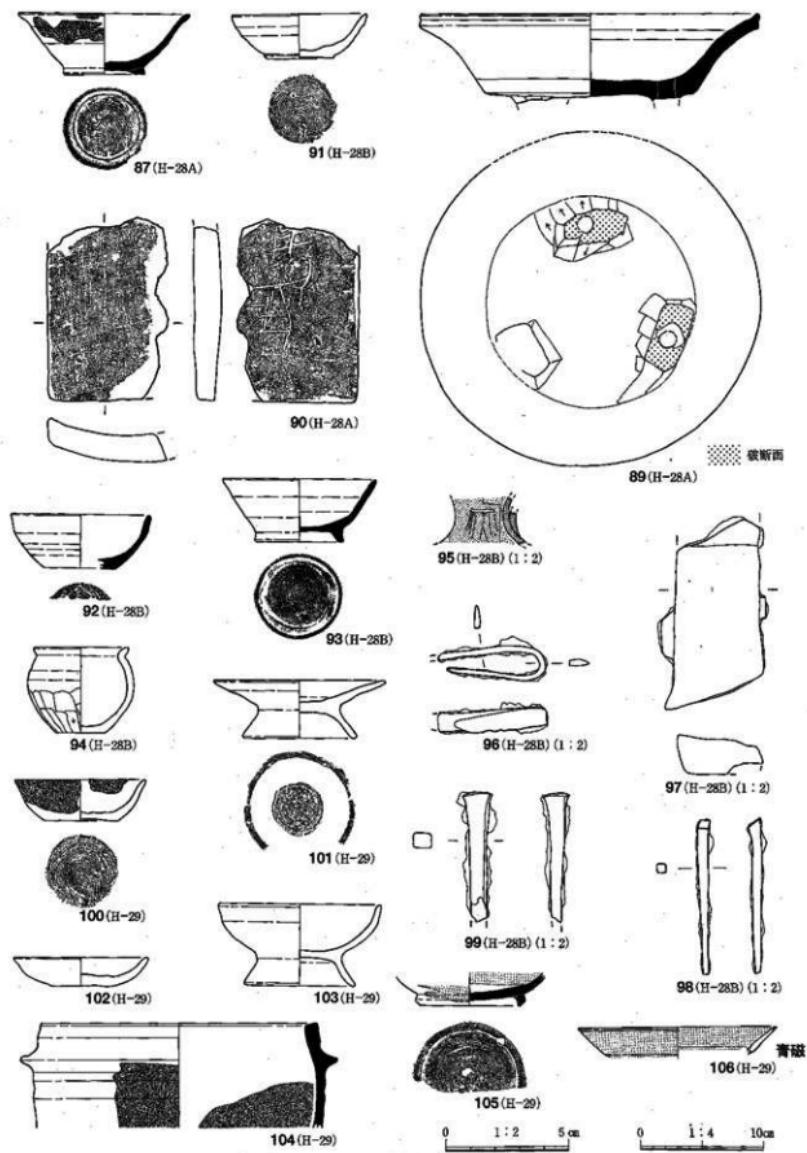


Fig.36 H-28A·28B·29号住居跡出土遺物

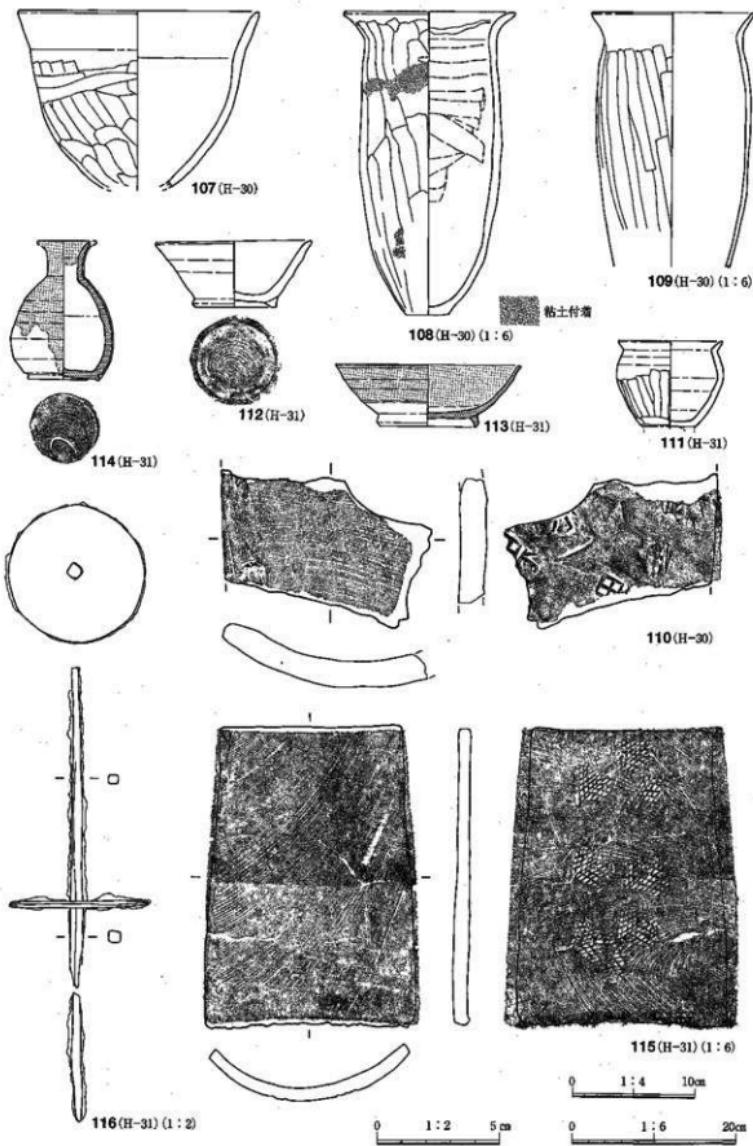


Fig.37 H-31・32号住居跡出土遺物

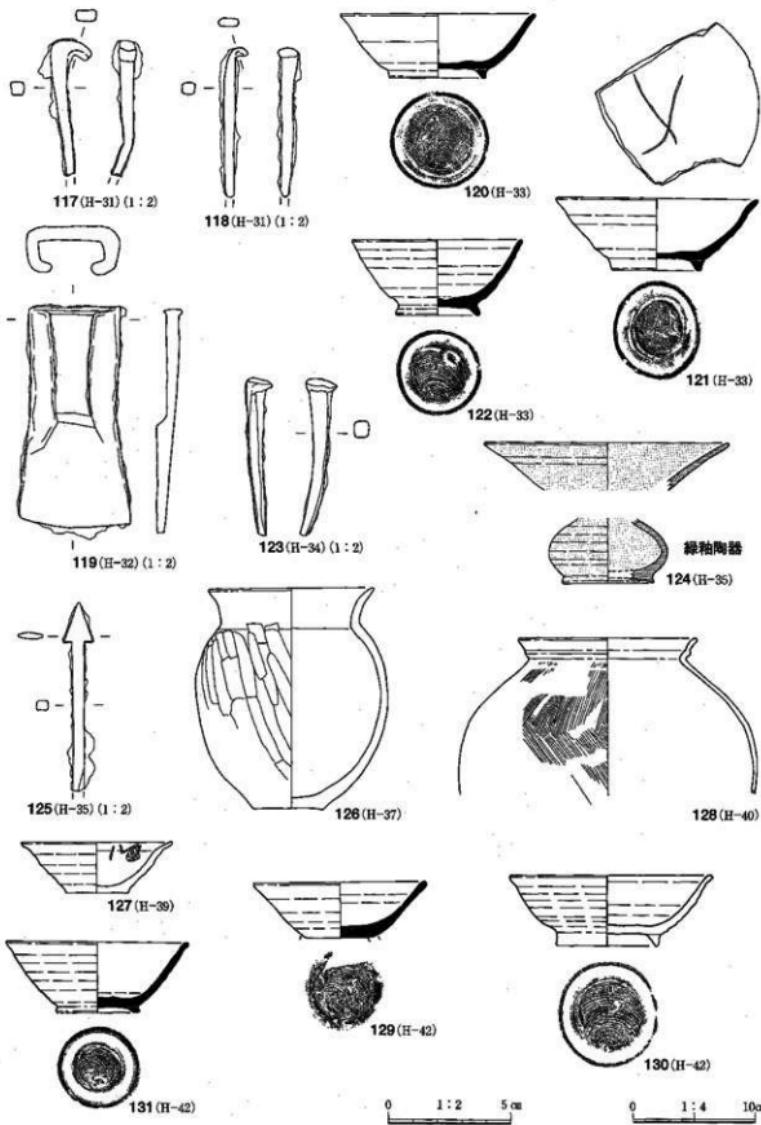


Fig.38 H-31~35・37・39・40・42号住居跡出土遺物

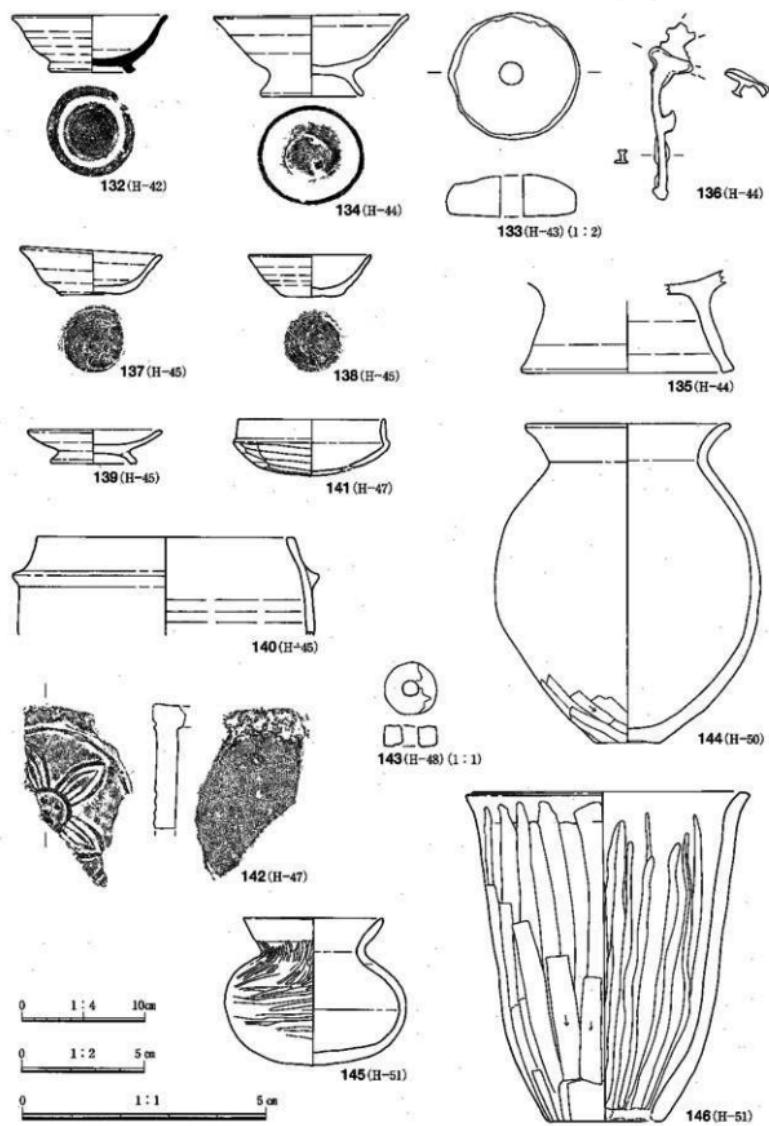


Fig.39 H-42~45·47·48·50·51号住居跡出土遺物

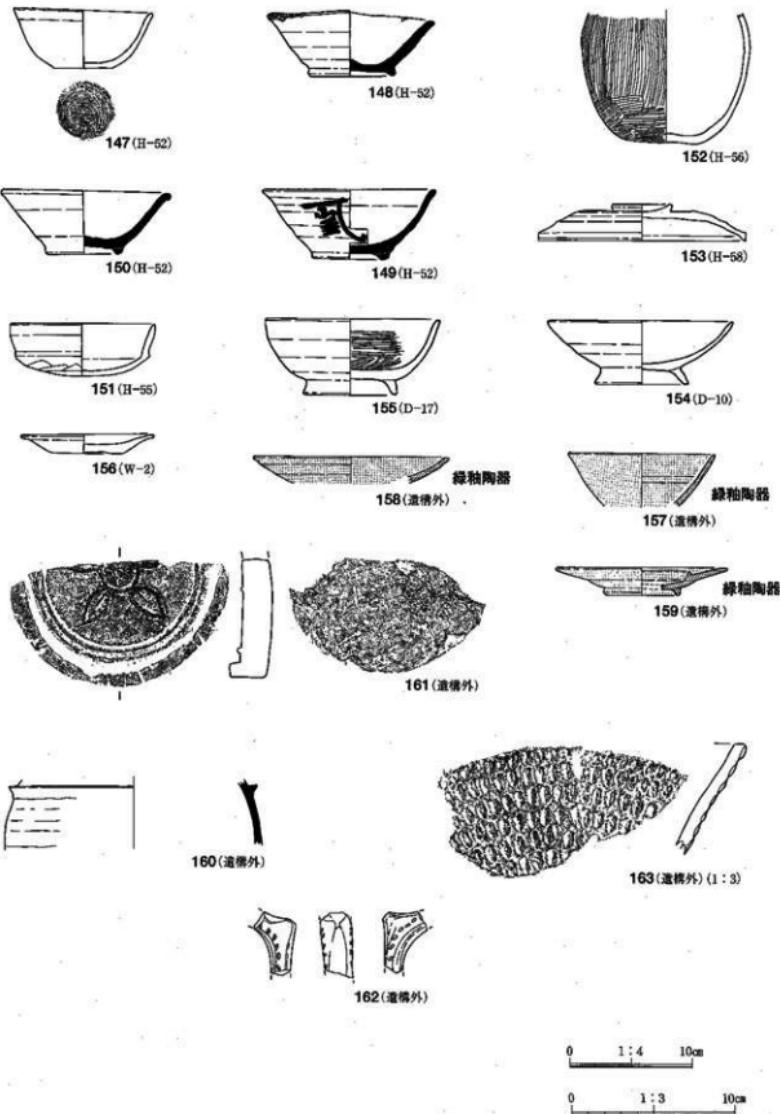


Fig.40 H-52·55·56·58号住居跡、D-10·17号土坑、W-2号溝跡、遺構外出土遺物



実振全景（東から）



J-1号住居跡全景（東から）



J-1号住居跡炉全景（南西から）



J-1号住居跡炉体土器出土状況（東から）



J-2号住居跡全景（北から）

P L.2



H-2号住居跡炉（北から）



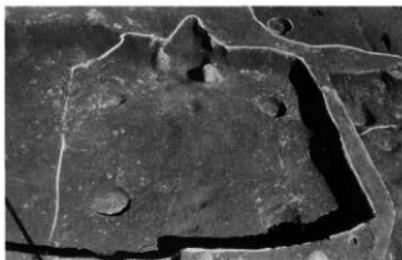
H-1号住居跡全景（西から）



H-2号住居跡全景（西から）



H-3号住居跡全景（西から）



H-4号住居跡全景（西から）



H-4号住居跡竪石（西から）



H-5号住居跡全景（東から）



H-6号住居跡全景（西から）



H-7号住居跡全景（北から）



H-7号住居跡遺物出土状況（北から）



H-7号住居跡竪全景（西から）



H-9号住居跡全景（西から）



H-10号住居跡全景（北西から）



H-11号住居跡全景（南から）



H-12号住居跡全景（西から）



H-13号住居跡全景（北から）

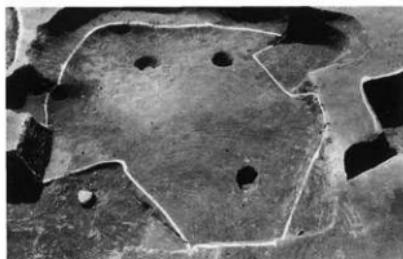
P L.4



H-13号住居跡炭化材出土状況（北から）



H-14号住居跡全景（南から）



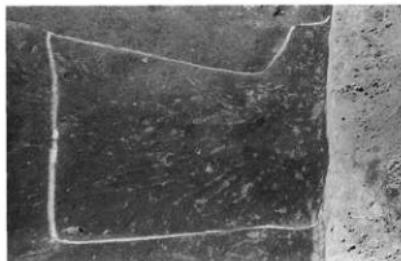
H-15号住居跡全景（北から）



H-16号住居跡全景（北から）



H-16号住居跡遺物出土状況（東から）



H-17号住居跡全景（南東から）



H-18号住居跡遺物出土状況（北から）



H-18号住居跡全景（北から）



H-19号住居跡全景（西から）



H-20号住居跡全景（南から）



H-21号住居跡全景（北から）



H-23号住居跡全景（西から）



H-23号住居跡竪部断面（西から）



H-24号住居跡全景（南から）



H-28B号住居跡全景（西から）

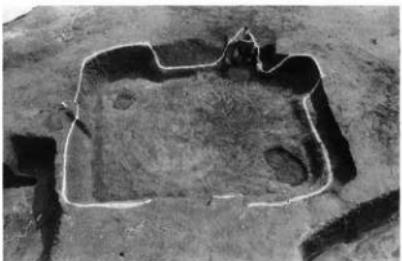


H-28A号住居跡遺物出土状況近景（西から）

P L.6



H-28A号住居跡遺物出土状況（西から）



H-29号住居跡全景（西から）



H-30号住居跡全景（南から）



H-30号住居跡全景（西から）



H-31号住居跡全景（西から）



H-32号住居跡全景（西から）



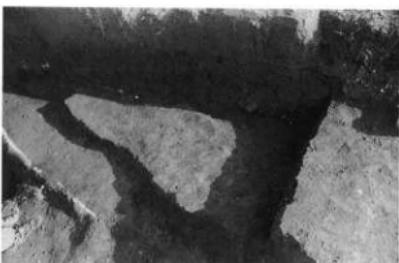
H-34号住居跡全景（北から）



H-36号住居跡全景（南から）



H-37号住居跡全景 (西から)



H-38号住居跡全景 (北から)



H-40号住居跡全景 (北から)



H-41号住居跡遺物出土状況 (南から)



H-42号住居跡遺物出土状況 (西から)



H-43号住居跡全景 (西から)



H-46号住居跡全景 (西から)



H-48号住居跡全景 (南から)

P L.8



H-50号住居跡全景（南から）



H-51号住居跡遺物出土状況（西から）



H-52号住居跡全景（西から）



H-55号住居跡遺物出土状況（西から）



H-56号住居跡遺物出土状況（北から）



H-57号住居跡全景（西から）



H-58号住居跡全景（南から）



B-1号据立柱建物跡（西から）



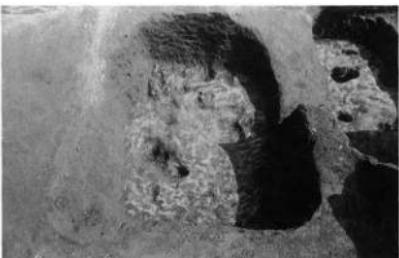
T-1号竖穴状造構全景（南から）



A-1号道路状造構全景（西から）



I-2号井戸全景（東から）



D-6号土坑（西から）



D-9号土坑（南から）



D-24号土坑（東から）



W-1号溝跡全景（南から）



W-2号溝跡硬化面確認状況（北から）

P L.10



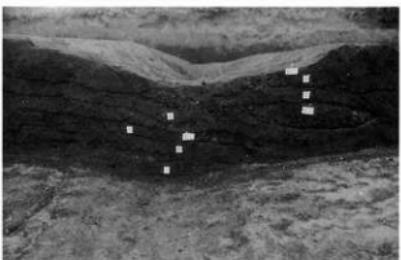
W-3号溝跡全景（西から）



W-4号溝跡全景（南から）



W-4号溝跡硬化面確認状況（北から）



W-4号溝跡土層断面（南から）



北区全景（西から）



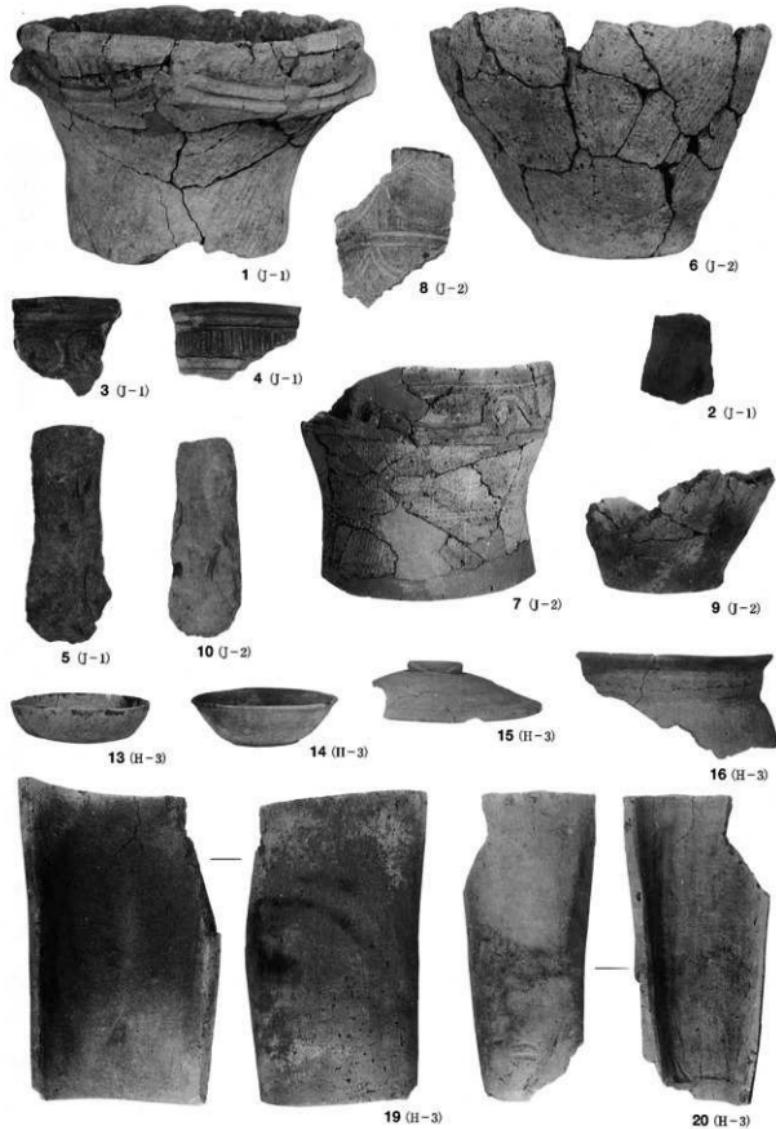
南区西部全景（東から）



南区西部全景（東から）

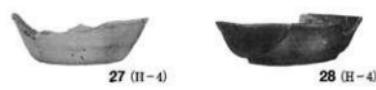


完掘全景（東から）

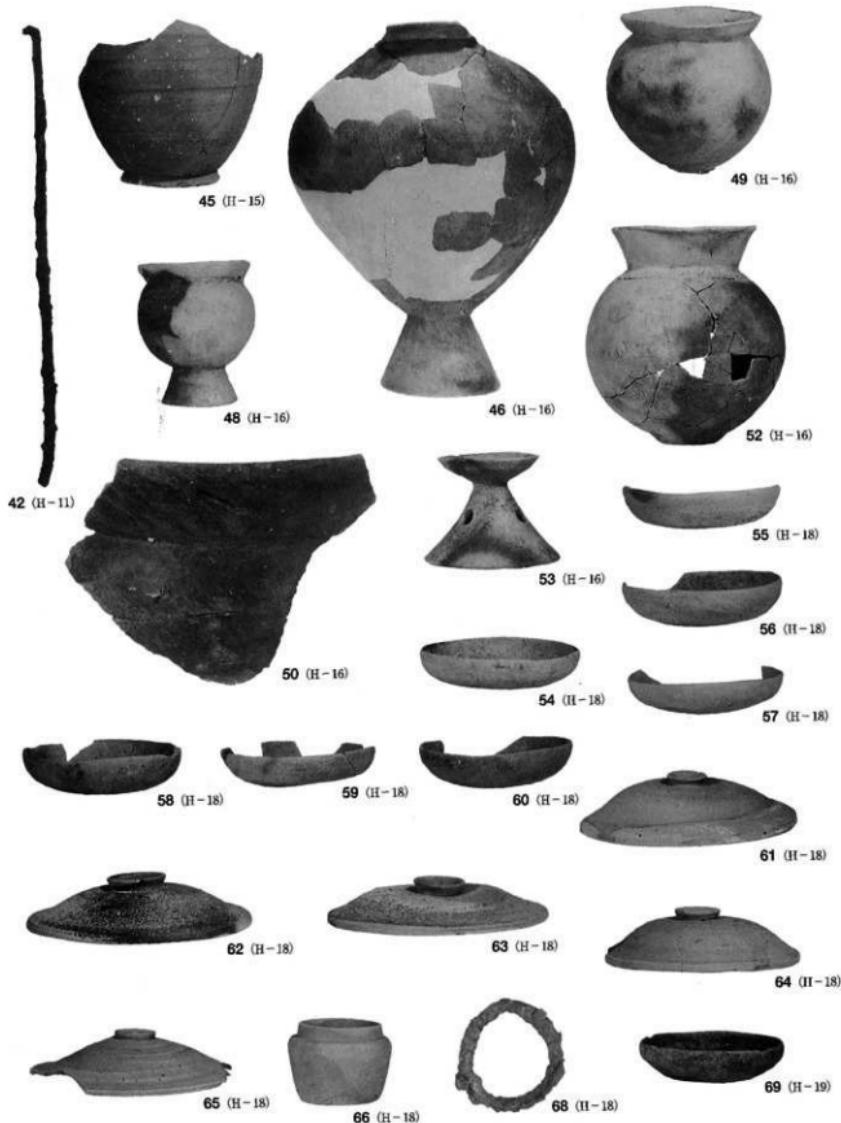


出土遺物

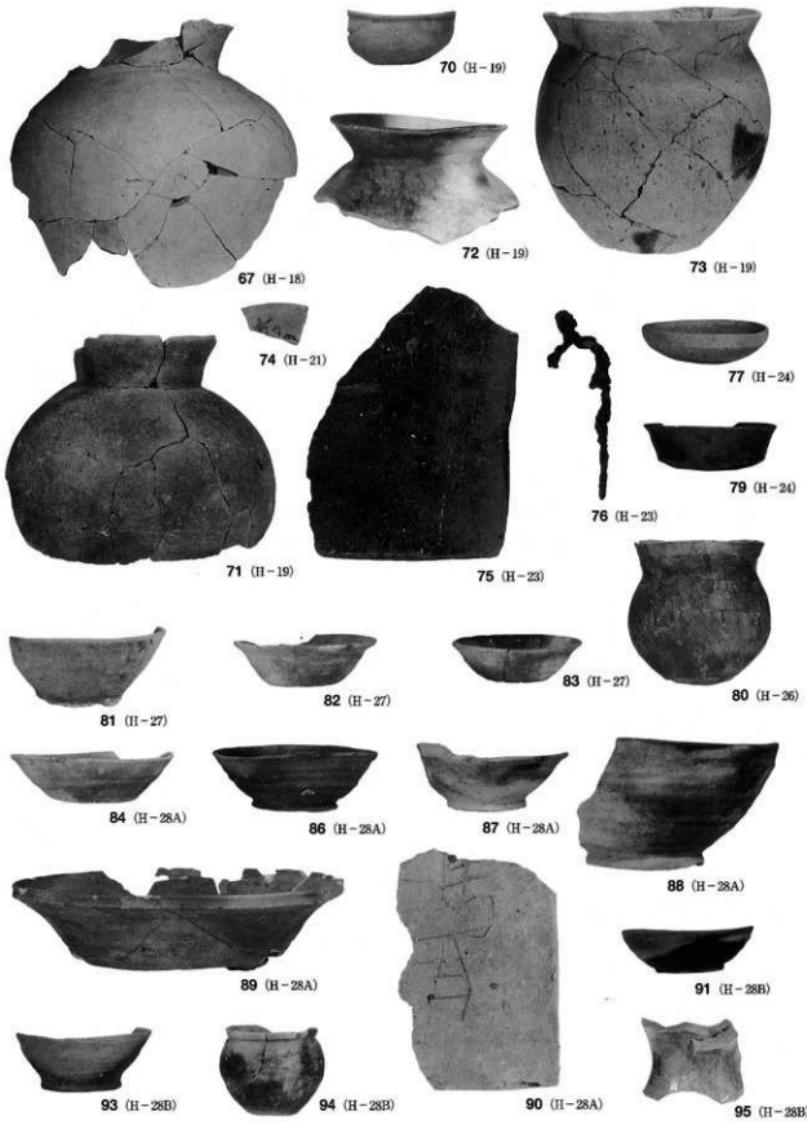
P L .12



出土遺物



出土遺物



出土遺物



96 (H - 28B)



97 (H - 28B)



98 (H - 28B)



99 (H - 28B)



100 (H - 29)



104 (H - 29)



107 (H - 30)



101 (H - 29)



106 (H - 29)



108 (H - 30)



109 (H - 30)



110 (H - 30)



111 (H - 31)



112 (H - 31)



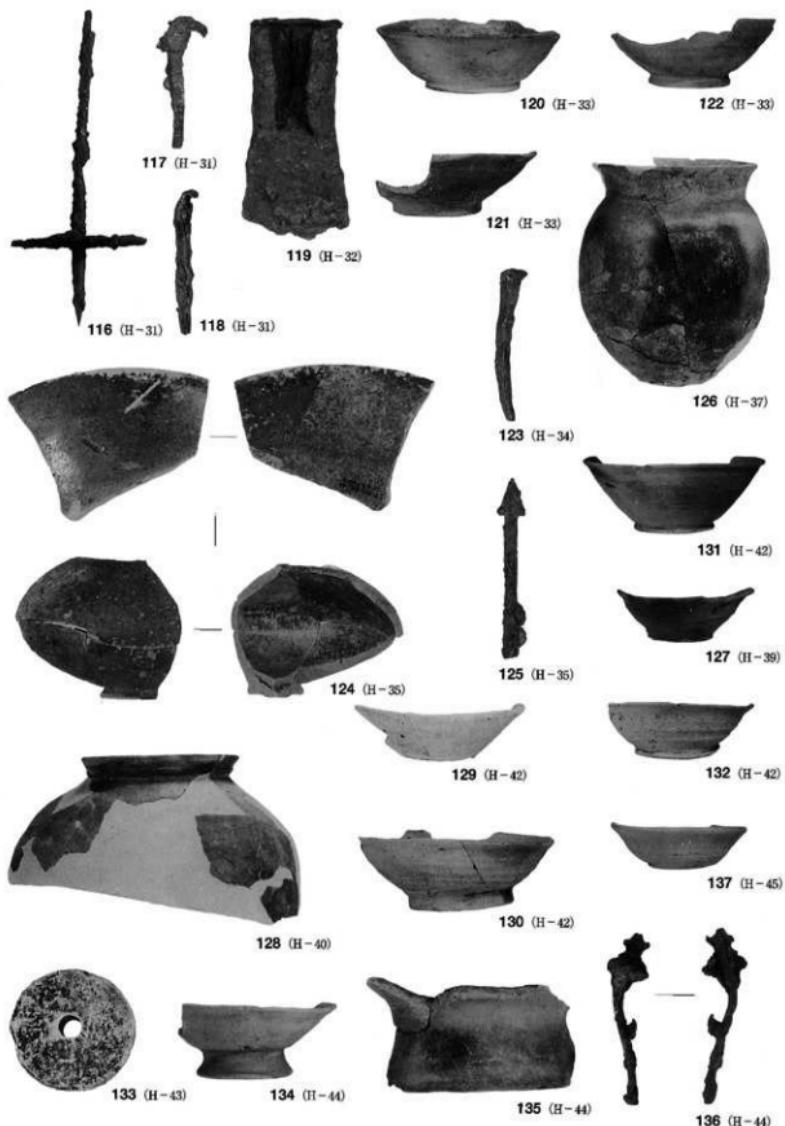
113 (H - 31)



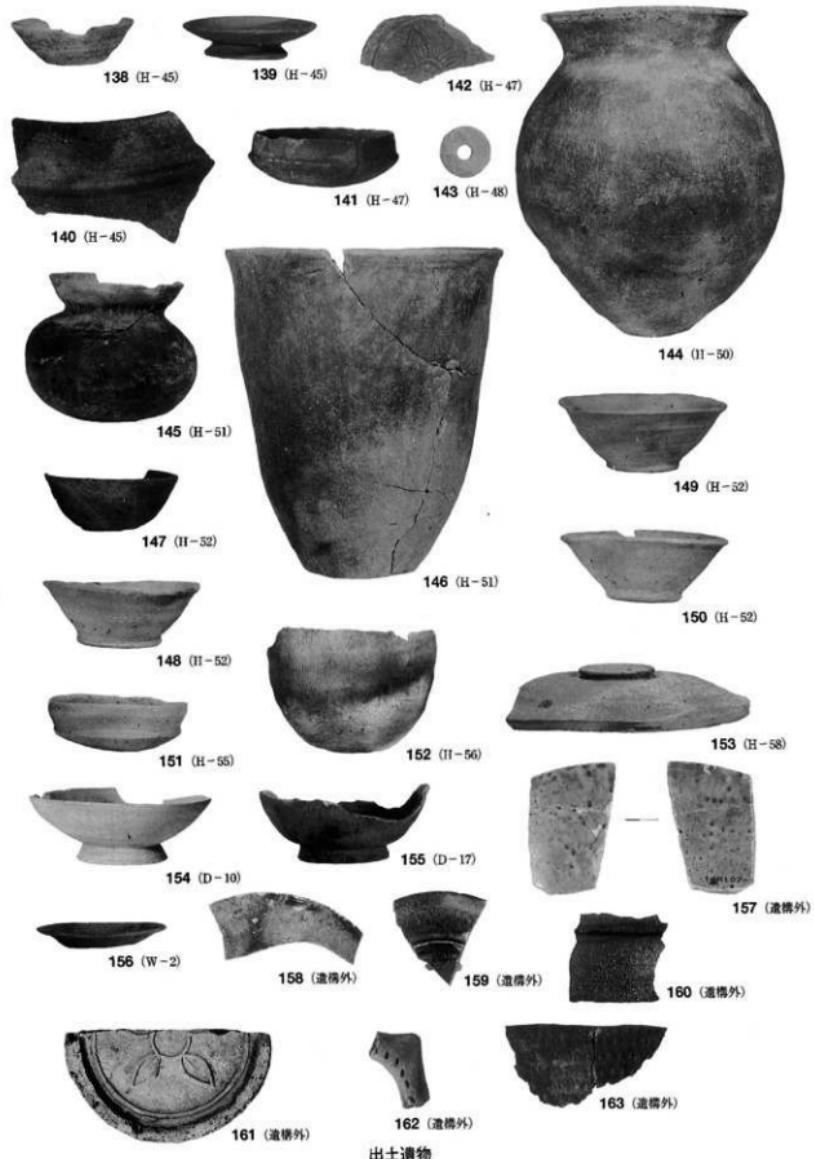
114 (H - 31)



115 (H - 31)



出土遺物



## 報告書抄録

フリガナ	モトソウジャオミニイセキ					
書名	元総社小見II遺跡					
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書					
卷次						
シリーズ名						
シリーズ番号						
編著者名	齊木一敏、土生朗治、松川由之					
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団、山武考古学研究所					
所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2、〒286-0045 千葉県成田市並木町221番地					
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団					
所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2					
発行年月日	西暦 2003年 3月 7日					

フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号	(世界測地系)				
元総社 小見II	群馬県前橋市 元総社町地内	10201	14A107	36° 23' 32"	139° 01' 35"	20020820 ~ 20030307	1,917m <sup>2</sup>	前橋都市計 画事業元総 社蒼海土地 区画整理事 業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社小見II	集落跡	縄文時代	住居跡、土坑	加曾利E式土器、石器類	
	集落跡	古墳時代	住居跡	土師器、須恵器	
	集落跡	奈良・平安	住居跡、掘立柱建物跡	土師器、須恵器、灰釉陶器、綠釉陶器、瓦、輸入陶磁器、	
	溝跡、道路	中世	溝跡、道路状遺構	金属製品、陶器類、石製品	
	墓域	中世	井戸、土坑		

## 出土遺物及び図面等の取り扱いについて

項目	内 容	
水洗い	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべて行った。</li> </ul>	
注記	<ul style="list-style-type: none"> <li>インクジェットプリンターを使用した。</li> <li>遺跡略号（14A107）</li> <li>遺構（H：住居跡、B：掘立柱建物跡、T：竪穴状遺構、A：道路状遺構、W：溝跡、I：井戸跡、D：土坑）</li> </ul>	
復元	<ul style="list-style-type: none"> <li>接合は可能な限り行った。必要に応じてエポキシ樹脂を充填し、強度的に必要最小限の復元を行った。</li> </ul>	
実測	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺物実測は報告書掲載分についてのみ作成した。</li> </ul>	
台帳	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺物台帳、図面台帳、写真台帳があり、それぞれ資料の検索が可能であるよう作成した。</li> </ul>	
保管方法	出土遺物	<ul style="list-style-type: none"> <li>出土遺物は、報告書使用分と未使用に分け、コンテナあるいは段ダンボール箱に収納した。各箱には収納内容を明記した。</li> <li>遺物については、注記番号・台帳番号・報告書掲載番号の3種類が存在するが、基本的に報告書掲載番号を優先して記載・収納してある。</li> </ul>
	図面	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺構実測図と遺物実測図に分け、それぞれ図面ケースに収納した。</li> </ul>
	写真	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺構写真は、モノクロ35mm、カラーリバーサル35mmの2種類がある。</li> <li>遺物写真は、報告書掲載分についてのみモノクロ6×7判フィルムを使用して行った。なお、写真中の番号は、遺物の台帳番号である。</li> </ul>

---

元総社蒼海遺跡群  
**元総社小見Ⅱ遺跡**

前橋都市計画事業元総社蒼海地区面整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

---

印 刷 平成15年3月1日  
発 行 平成15年3月7日

編 集 山 武 考 古 学 研 究 所  
発 行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
印 刷 第 文 化 総 合 企 画  
TEL 0476-93-0593

---